義務トセサルヘカラサルコト明白ナリ

第三段　廣義ニ於ケル更改

廣義ノ更改

廣義ニ於ケル更改ハ當事者ノ變更スル場合ナリ、狹義ニ於ケル更改ト等シク新義務ノ創設ト更改ノ意思トノ二條件ヲ必要トスルモ二者相異ナル所ハ一ハ唯タ當事者ノ變更ナクシテ義務ノ實質ニ變更アルトキ一ハ義務ノ實質ニ變更ナクシテ唯當事者ニ變更アルノ差アルノミ、而シテ此當事者ノ變更ニハ債務者ノ變更スル場合ト債權者ノ變更スル場合トノ二アリ左ニ之ヲ分說セン

債務者ノ變更

一、債務者ノ變更

新債務者カ舊債務者ニ替ハルトキハ即チ債務者ノ變更ニ依ル義務ノ更改アリトス設例ハ乙者ハ甲者ニ對シテ百圓ヲ賠償スルノ義務ヲ負ヒ甲者ハ又丙者ニ對シテ百圓ヲ賠償スルノ義務ヲ負フノトキニ於テ甲者ハ乙者ヲシテ直ニ丙者ニ同額ヲ辨濟セシメントスル場合ノ如シ」

囑託ニ依ル更改

債務者ノ交替ニ因ル更改ハ二樣ノ方法ニ依リテ行ハル一ハ舊債務者ヨリ新債務者ニ爲セル囑託ニ因リ一ハ債務者ノ承諾ナクシテ新債務者ノ隨意ノ干涉ニ因ル、即チ(第四百九十六條第一項)

一、囑託ニ依ル更改ハ舊債務者カ新債務者ニ囑託スルニ自己ニ代リテ債權者ニ對シ義務ヲ負擔スヘキコトヲ以テスル場合ヲ謂フ而シテ其囑託ハ更ニ完全不完全ノ二樣ニ區別スルコトヲ得(第四百九十六條第二項)

(イ)　囑託ニ由ル更改ニハ舊債務者新債務者及ヒ債權者ノ承諾ヲ必要トスルヲミナラス更改ハ債權者ノ爲メニハ其債務者ニ對スル債權ヲ拋棄スルモノナルヲ以テ債權者カ第一ノ債務者ヲ免スルノ意思ヲ明カニ表示シタルトキニアラサレハ之ヲ完全ノ囑託ト謂フヘカラス故ニ完全ナル囑託ニアラサレハ純乎タル更改ハ行ハレサルナリ(第四百九十七條第一項)

（ロ）債權者カ第一ノ債務者ヲ免スルコトヲ明言セサル以上ハ嚥託ハ不完全ニシテ義務ノ更改ナシト雖此場合ニ於テハ其結果トシテ連帶義務ヲ生シ債權者ハ第一第二ノ債務者ヲ連帶ニテ訴追スルコトヲ得ヘシ（第四百九十七條第一項）

二、舊債務者ノ承諾ナクシテ第三者ナル新債務者ノ隨意ノ干涉ノ場合ニ於テモ亦改更ノ行ハルヽ場合ト否ラサル場合トアリ、即チ（第四百九十六條第三項及ヒ第四百九十七條第二項）

（イ）債權者カ舊債務者ヲ免シタルトキハ第三者ノ干涉ハ除約ニ因ル更改ヲ成ス

（ロ）若シ右ニ反シ債權者カ舊債務者ヲ免セサルトキハ更改ハ成立セスシテ單一ノ補約ヲ成ス而シテ此補約ニ就テハ債權者ハ同一ノ債務ニ就キ更ニ第二ノ債務者ヲ得ルヲ以テ債權全部ヲ以テ該債務者ニ對スルコトヲ得ヘシト雖新舊債務者ノ間承諾

第三者ノ隨意ノ干涉ニ依ル更改

ナキヲ以テ相互ノ代理ノ關係ヲ生セサレハ不完全ナル嚥託ノ場合ノ如ク連帶ノ義務アルコトナシ、故ニ第一ノ債務者ニ爲シタル時効ノ中斷ノ付遲滯等ハ第二ノ債務者ニ對シテ其効力ナカルヘシ

上來論述スル所ニ依リテ之ヲ見レハ債務者ノ交替ニ因ル義務ノ更改ハ完全ノ嚥託アル場合カ又ハ除約ノ場合カ二者中必ス其一ニ居ラサルヘカラサルヲ知ルヘシ

二、債權者ノ更改

債權者ノ變更ハ新債權者カ舊債權者ニ替ハル場合ナリ、設例ヘハ甲者ハ乙者ニ對シテ百圓ノ債權ヲ有スルニ當リ甲者カ其債權ヲ丙者ニ贈與シタルトキノ如シ、蓋シ此場合ハ近世ノ學者ハ之ヲ債權ノ讓渡若クハ其一種トスレトモ既ニ論スルカ如ク我民法ハ之ヲ以テ更改ト爲シタルカ故ニ我民法ニ於テハ其結果ハ更改ノ効果ヲ生シテ債權讓渡ノ

更改ノ効果

効果ヲ生スルコトナシ、設例ヘハ債權讓渡ノ場合ニ於テハ舊債權ノ抵當保證等ノ効力ハ依然トシテ新債權者ニ移轉スルモ更改ニ在リテハ全ク之ニ反スルカ如シ、更改ノ効果ニ就テハ別ニ後段ニ於テ論述スル所アラン

債權者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者及ヒ新舊債權者共ニ利害ノ關係ヲ有スルカ故ニ此等ノ者ニ承諾アルニアラサレハ成立スルコトナシ(第四百九十九條)

第四段　更改ノ効果

更改ノ効果ハ舊義務ノ消滅ナリ、更改ハ他ニ新ナル義務ヲ發生スルモ是レ全ク別物ナリ、故ニ舊義務既ニ消滅シタル以上ハ又毫末ノ痕跡ヲ留メスト雖既ニ論述シタルカ如ク我民法ハ近世ノ法理ニ反シ當事者ノ交替ニ係ル場合ヲモ更改中ニ包含セシメタルヲ以テ廣義ニ於ケル更改ノ効果ニ付テハ數多ノ例外ヲ認メ更改アルモ仍ホ舊義務ノ幾分ノ痕跡ヲ認メサルヘカラサルノ必要ヲ生シタリ、左ニ更改ノ効果ニ關スル原則ノ適用ト幷ニ其例外ノ場合トヲ示サン

一、更改ノ効果ハ舊義務ヲ消滅セシムルヲ以テ舊義務ニ付着セル物上、對人ノ擔保其他附從ノ義務モ亦舊義務ト共ニ消滅シテ新債務ニ移轉スルコトナカルヘシ、然レトモ物上擔保ハ更改ト同時ニ債權者ニ於テ之ヲ留保スルコトヲ得ヘシ又其留保ハ擔保カ更改ヲ爲サントスル債務者ノ物件ニ係ル場合ノミニ止マラス擔保負擔ノ財産カ其更改ニ就キ毫末ノ關係ナキ所ノ共同債務者保證人又ハ第三所持者ノ手ニ存スルトキト雖之ヲ行フコトヲ得ヘシ、而シテ物上擔保ハ對人擔保ト大ニ其趣ヲ異ニシ其物ニ就キ擔保ヲ爲スモノナレハ之ヲ留保スルニハ双方ノ承諾ヲ必要トセス只タ更改ノ相手方ノ承諾ノミヲ以テ足レリトス、但シ此場合ニ於テハ擔保財産ハ舊債務ノ限度內ニ限リ其限度ヲ超ヘテ擔保ヲ負擔ス

ルコトナカルヘシ(第五百三條)又右ノ如ク債權者カ其債權ノ物上擔保ヲ留保シテ或ハ他人ヲ惠ム爲メ或ハ他人ニ對スル債務ヲ免カルヽ爲メ其人ニ囑託シテ自己ノ債務者ヨリ辨濟ヲ受ケシムルトキハ其受囑託人ハ債權ノ讓渡ニ關スル第三百四十七條ノ規定ニ從フニアラサレハ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルコトヲ得ス、設例ヘハ甲者ハ乙者ノ家屋ヲ抵當トシテ金百圓ヲ乙者ニ貸付シ置キタルニ甲者ハ他ニ丙者ニ對シテ負フ所ノ義務ヲ免レンカ爲ニ抵當權ヲ己レニ留存シテ丙者ニ囑託スルニ乙者ヨリ百圓ノ辨濟ヲ受クヘキコトヲ以テシタルトキハ丙者ハ公示ノ方式ヲ履行シタル後ニアラサレハ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルコトヲ得ス何トナレハ公示以前ニ在リテハ第三者ハ未タ囑託ノ事實ヲ知ラサルヲ以テ甲者ノ他ノ債權者ハ乙者ニ對シテ拂渡差押等ヲ爲スコトヲ得レハナリ(第五百條)

二、債權者ト連帶債務者ノ一人又ハ不可分債務者ノ一人トノ間ニ爲シタル更改ハ他ノ債務者及ヒ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシムヘシ、是レ更改カ義務消滅ノ一原因タル以上ハ不可分義務ノ性質ヨリ自ラ發生スヘキ效果ナリ、然レトモ共同債務者又ハ保證人等アル場合即チ對人擔保ノ場合ニ於テハ物上擔保ノ場合ト異ニシテ之ヲ留存スルニハ必ス擔保者ノ承諾アルヲ要シ債權者ノ意思ノミヲ以テ之ヲ留保スルコトヲ得サルナリ、何トナレハ更改ニ依リテ義務ハ一旦消滅シ了ルモノナレハ更ニ新義務ノ擔保トナルニハ新擔保人ノ承諾ナキコトヲ得サレハナリ故ニ債權者一人ノ意思ニテ對人擔保ヲ留保スルコト能ハスト雖債權者ハ共同債務者及ヒ保證人カ新義務ニ就キ更ニ共同債務者又ハ保證人タルコトニ同意スルコトヲ以テ條件トシテ更改ノ合意ヲ爲スコトヲ得サルニアラス然レトモ此條件附更改ノ場合ニ於テハ共同債權者又ハ

保證人ニシテ之ニ同意セサレハ條件ハ完了セサルモノナルヲ以テ更改ハ初メヨリ成立セサルモノトナルヘシ(第五百一條第一項及ヒ第二項)

連帶債權者トノ更改

三、右ニ反シ連帶債權者中ノ一人ト更改ヲ爲シタルトキハ該債權者一人ノミハ他ノ共同債權者ヲ害スルコトヲ得サルヲ以テ更改ハ只其ノ債權者ノ一人ノ部分ニ付テノミ債務者ヲシテ義務ヲ免カレシムルニ止マルヘシ又性質ニ因ル不可分債務ノ債權者中ノ一人ト更改ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ全部ニ就キ訴追ノ權利ヲ有シ只タ第四百四十五條ニ從ヒ計算ヲ爲スコトヲ要スルノミ設例ヘハ甲ナル畫工乙丙兩者ニ對シテ一ノ油繪ヲ作ラシメタルトキニ於テ乙者ノミ甲者ト更改ヲ爲シ金錢ヲ以テ義務ノ物體ト爲シタルトキハ丙者ハ依然トシテ甲者ニ對シテ全畫ヲ作ラシムルノ權利ヲ有スヘシ但シ甲者カ乙者ノ爲メニ辨濟シタル金額ハ丙者ニ於テ之ヲ償却セサルヘカラス(第五百一條第三項及ヒ第四項)

保證人トノ更改

四、保證人タルト否トヲ問ハス凡テ何人ニテモ債權者ノ承諾アル以上ハ自ラ代ツテ債務者タルコトヲ得ヘシト雖保證人ト爲シタル更改ハ反對ノ意思アル證據アルニアラサレハ保證ニ付テノミ更改ヲ爲シタリトノ推定ヲ受クヘシ、故ニ此推定アルトキハ斯ノ如キ更改ハ毫モ保證以外ニ及ハサレハ主タル債務者ニモ亦數多ノ保證人アルトキハ他ノ保證人ニモ義務ヲ免カレシムルコトナシ(第五百二條)

債務者ノ交替ニ依ル更改

五、更改ハ舊債務ヲ消滅スルヲ以テ新債務者カ無資力トナルモ舊債務者ハ債權者ニ對シテ毫モ擔保ノ賠償ヲ爲スノ責任ナキハ當然ナリ、然レトモ法律ハ茲ニ一ノ例外ヲ認メタリ完全囑託及ヒ除約ノ場合即チ債務者ノ交替ニ因ル更改ノ場合ニ於テ新債務者カ

債務ヲ辨濟スルコトヲ得ザルトキハ債權者ハ囑託又ハ除約ノ當時ニ於テ新債務者ノ已ニ無資力タリシコトヲ知ラサリシトキハ債權者ハ舊債務者ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有スヘシ但此賠償ノ擔保ハ特別ノ合意ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得(第四百九十八條)

第四節　免除

免除ノ性質

第一款　免除ノ性質

免除トハ債權者ノ意思ニ依リ單ニ債權ヲ消滅スルヲ謂フ、斯ク免除ハ單ニ債權ヲ消滅スルモノニアラス又免除ハ債權ノ意思ニ依ル依リテ始メテ之ヲ消滅スルモノナルヲ以テ更改ノ如ク新ナル債權ノ創設ニモノナルヲ以テ法律上強制ノ免除ナルモノナシ故ニ我カ民法ハ合意上ノ免除ナル語ヲ用ヒタリ但シ債務者カ商事ニ關シ偶然ノ事情等ノ爲メ破產シタル場合ニ於テハ數多ノ債權者ノ多數決ニ依リ各債權者ハ其權利ノ一部ツヽヲ放擲シ債務者ノ義務ノ幾分ヲ免除スルコアリ

之ヲ協諧契約ト謂フ即チ法律上強制ノ免除ヲ爲スノ場合ナレトモ事ハ商法上ノ規定ニ屬ス(第五百四條第四項)

免除ノ有効ナルニハ債務者ニ於テ之ヲ承諾スルコトヲ必要トス故ニ免除ハ一ノ免除契約トシテ始メテ其効力ヲ有スヘシ但シ遺囑ニ係ル免除ハ相續法ノ規定ニ從フヘキモノトス

斯ク免除ハ一ノ契約ナルカ故ニ免除モ亦一般契約ニ關スル原理ニ從ハサレハ其効力ナカルヘシ、即チ

一、免除ノ有効ナルニハ免除ノ申込受諾、免除ノ適法等凡ソ契約ノ成立及ヒ有効ニ必要ナル一切ノ條件ヲ具備セサルヘカラス

二、免除契約ノ原因ハ種々ニシテ必ラスシモ債權ヲ贈與セントスルノミニ止マラサルナリ、第五百四條第一項ニ曰ク「債務ノ全部又ハ一分ニ付テノ合意上ノ免除ハ有償又ハ無償ニテ之ヲ爲スコトヲ得」ト而シテ同條第二項ハ其結果ヲ規定シテ曰ク「有償ノ免除ハ

事情ニ從ヒテ代物辨濟、更改、和解又ハ解除ヲ成ス又無償ノ免除ハ贈與ヲ成スト雖モ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セス」ト然レトモ是レ免除契約ノ効果カ代物辨濟、更改、贈與等ノ契約ト同一ナルコトヲ謂フニ過キスシテ免除ハ免除ニシテ代物辨濟、更改、贈與等ハ代物辨濟、更改、贈與等ナリ故ニ代物辨濟ノ事實又ハ贈與ノ事實アリタルトモ必スシモ之ヲ免除ノミノ効果トスルコトヲ得サルヘシ

然レトモ免除ハ免除契約ナル一種ノ契約ナレハ又特ニ免除契約タルニ必要ナル條件ナキニアラス、即チ

一、免除契約ハ直接ニ債權ノ消滅ヲ目的トスルモノナリ債權讓渡ノ如ク債權ノ讓渡ノ爲メ他ノ一方ニ間接ニ債權ノ消滅ヲ來スモノニアラス故ニ又免除ハ決シテ法律上ニ之ヲ推定セス必ス債權者ノ明示又ハ默示ニテ之ヲ免除スルノ意思ノ確定ナル場合タラサルヘカラス但シ法律ニ特定シタル例外ノ場合ナキニアラス事ハ後款ニ詳述セン(第五百五條)

二、免除ノ場合ニ於テハ債權ハ債權自身ニ於テハ有効ニ成立シテ存在セサルヘカラスト雖免除ハ唯タ債權者カ其効力ヲ主張セサルコトヲ承諾スルニ止マレリ、故ニ免除契約ヲ爲シタルニ係ハラス債權者ニシテ債務者ヲ起訴スルトキハ債務者ハ免除契約ノ存在ヲ以テ之ニ抗スルコトヲ得

第二款　免除ノ効果

免除ハ其効果トシテ債權ヲ消滅スヘシ今マ左ニ種々ノ場合ニ付キ我民法ニ定メタル免除ノ効果ヲ示サン

免除ノ効果

一、主タル義務ノ免除ノ保證人及ヒ共同債務者ニ對スル効果ハ左ノ如シ(第五百六條)

(イ)　主タル債務者ニ爲シタル債務ノ免除ハ保證人ナシテ其義務

ヲ免カレシム

(ロ) 連帶債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ハ他ノ債務者ヲシテ其債務ヲ免カレシム是レ連帶義務ノ本性ヨリ發生スヘキ當然ノ結果ナリ、但シ債權者カ特ニ債務者中ノ一人ノミヲ免除シ他ノ債務者ニ對シテハ其權利ヲ留保シタルトキハ此限ニアラスト雖此場合ニ於テハ債權者カ債務者ニ對シテ其權利ヲ要求スルニハ免除ヲ與ヘタル債務者ノ部分ヲ控除スルヿヲ要ス、故ニ此ノ如キ權利ヲ留保シタル免除ハ間接ニ他ノ免除ヲ受ケタル債務者ヲ利スルコトナキモ其免除ハ直接ニ債權者ニ對シテ一分ノ債權ヲ消滅スルカ故ニ該部分ニ就テハ免除ヲ受ケサル債務者ハ之ヲ擔保スルノ責ヲ免ルヽノ利益ヲ有スヘシ

(ハ) 不可分債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ノ効力モ亦前項ト異ナル所ナシ然レトモ性質ニ因ル不可分債務ノ債權者カ他

ノ債權者ニ對シテ其權利ヲ留保シタルトキハ債權者ハ先ツ全部ニ付キ其權利ヲ行ヒ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ計算シテ之ヲ全部ノ要求ヲ受ケタル債務者ニ償還セサルヘカラス否ラサレハ全部ヲ履行シタル債務者ハ免除ヲ受ケタル債務者ニ對シテ其部分ノ償還ヲ請求シ其償還ノ請求ヲ受ケタル債務者ハ免除ヲ理由トシテ更ニ債權者ニ對シテ其償還ヲ求メサルニ至ルヘキヲ以テ遂ニ債權者ト債務者トノ間ニハ直接ノ免除ヲナキニ至ルヘシ、其趣キハ已ニ更改ノ効果ニ就キ前節ニ論述シタル所ト同一ナリ

二、數保證人ノ一人ニ爲シタル主タル債務ノ免除ハ債務者及ヒ他ノ保證人ヲシテ其債務ヲ免除スルノ効力ヲ有ス(第五百七條)

三、債務ノ免除ヲ受ケタル債務者及ヒ保證人ハ債權者ヨリ共通ノ免除ヲ得ル爲メ實際供與シタル數額ニ付テノミ他ノ共同債務者

及ヒ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有ス、設例ヘハ甲乙丙三人連帶ニテ九百圓ノ債務ヲ負擔スルニ當リ甲者ハ有償ニテ全部ノ債務ノ免除ヲ得ンカ爲メニ三百圓ヲ債權者ニ與ヘタルトキハ甲者ハ九百圓ノ全額ノ割合ニ應シ乙丙ニ對シテ三百圓ツヽヲ請求スルコトヲ得ス唯タ免除ノ爲メ債權者ニ提供シタル三百圓ノ三分ノ一即チ百圓ツヽヲ請求スルコトヲ得ルニ過キサルナリ(第五百八條)

擔保ノミノ免除

四、主タル義務ヲ免セラレシテ連帶又ハ不可分ノミノ免除ノ效果ハ左ノ如シ(第五百九條)

(イ) 共同債務者ノ一人ニ對シテ債務自身ヲ免除セラレ唯タ連帶ノミ又ハ任意上ノ不可分義務ノミヲ免除シタルトキハ其一人ヲシテ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシメ又他ノ債務者ヲシテ其一人ノ部分ヲ免カレシムヘシト雖其殘リタル部分ニ就テハ連帶又ハ不可分ノ義務ハ依然トシテ存在スヘシ

(ロ) 性質ニ因ル不可分ノ義務ハ債權者ニ於テ共同債務者ニ對シ其不可分ノミヲ免除スルモ不可分ノ義務ハ依然不可分ナルヲ以テ債權者ハ免除ヲ與ヘサル各債務者ニ對シテ全部ノ請求ヲ爲スコトヲ得、但シ債權者カ全部請求ヲ爲スニハ免除ヲ與ヘタル債務者ノ部分ハ全部ノ請求ニ應スヘキ債務者ニ對シ自ラ其計算ヲ爲シ之ヲ賠償セサルヘカラサルナリ

(ハ) 連帶又ハ不可分ノミノ免除ハ主タル債務自身ヲ免除スルモノニアラサルヲ以テ主タル債務ニ就テハ債權者ハ免除ヲ與ヘタル債務者ニ對シテモ全部ノ要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ只タ該債務者ノ一人ニ對シ他ノ債務者ノ負擔スヘキ債額ヲ計算シテ自ラ之レカ立替ヲ爲スコトヲ要ス

債務者ノ一人ニ對スル連帶又ハ任意ノ不可分ノミノ免除ニ就テハ

法律ハ推定ヲ設ケタリ、即チ左ノ場合ニ於テハ法律カ連帶又ハ任意上ノ不可分ノミノ免除アルヘキモノトセリ(第五百十條)

(い)、債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリト明言シタル金額又ハ有價物ヲ受取リタルトキ

(ろ)、債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ニ對シ其債務ノ部分ナリト稱シテ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ其一人請求ニ承服シ又ハ辨濟ヲ爲スヘキ旨ノ言渡ヲ受ケタルトキ

(は)、債權者カ異議ヲ留メスシテ十ケ年間引續キ債務者ノ一人ヨリ其負擔スヘキ利息又ハ年金ノ部分ヲ受取リタルトキ

五、保證人ノ一人ニ保證ノミヲ免除シタルトキハ其一人ノミ其部分ニ付キ保證ノ責任ヲ免カルレトモ主タル債務者ハ其債務ヲ免カルヽコトヲ得サルナリ又他ノ保證人ハ免除ヲ受ケタル保證人ト連帶ノ保證ニアラサルトキハ債權者ニ對シ相互ニ代理ノ關係

ナキヲ以テ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カルヽノミニシテ全部ノ義務ニ連帶ヲ爲セル場合ニ於テハ第五百六條第二項ニ規定セルカ如ク債權者ハ他ノ保證人ニ對シテ自己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム(第五百十一條)

六、債權者カ質又ハ抵當ノ權ヲ拋棄スルトキハ債權者ハ單ニ物上擔保ノ權ヲ失フノミニシテ主タル債權自身ハ毫モ減少セラルヽコトナカルヘク又タ爲メニ他ノ對人擔保ヲ免除スルコトナカルヘシ然レトモ物上擔保ノ拋棄ニ依リ同一債務ニ對スル連帶債務者又ハ保證人カ該物上擔保ニ代位スルコトヲ妨ケラレタルトキハ債權擔保編第四十五條及ヒ第七十二條ニ依リ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得(第五百十二條)

七、共同債務者ノ一人カ連帶若クハ不可分ノミノ免除ヲ得ル爲メ

又ハ保證人ノ一人カ保證ノ免除ヲ得ル爲メニ債權者ニ出捐ヲ爲シタルトキト雖其出捐ハ只タ連帶又ハ不可分ノミノ免除ノ爲メニセル報酬ニ過キサルヲ以テ主タル債務ハ之レカ爲メニ毫モ減少セラルヽコトナカルヘク又出捐者ハ他ノ共同債務者又ハ共同保證人ニ對シテ之レカ求償權ヲ有セサルヘシ何トナレハ該出捐者ハ自己一身ノ責任ニテ出捐ヲ爲シ他ノ共同擔保者ノ無資力ト爲リタルトキノ恐ヲ豫謀スル一身ノ爲メニ免除ヲ得ルモノナレハ他ノ共同擔保者カ其責任ヲ負擔スヘキ理由ナケレハナリ(第五百十四條)

引渡又ハ返還ノ義務ノミノ免除

八、特定物ヲ引渡スノミ又ハ返還スルノミノ義務ヲ免除スルモ債權者ノ利益ニ於テ讓戻又ハ讓渡ヲ惹起セスシテ其所有者ハ依然回復ノ權利ヲ有スル何トナレハ權利ノ拋棄ハ法律ノ推測セサル所ナレハナリ、設例ヘハ特定物ノ賣買ヲ爲シタルトキハ所有權ハ買主ニ移轉スルヲ以テ買主ハ賣主ニ對シテ該物件ヲ引渡サシムルノ權利ヲ有スヘシ而シテ買主若シ賣主ニ對シテ引渡ノ義務ヲ免除スルトキハ只タ引渡ノ義務ノミヲ免除シ賣主トシテ之ヲ保存スルノ責任ヲ脫セシムルノ効果ヲ生スルノミニシテ決シテ其所有權ヲ更ニ賣主ニ讓戻シタルモノニアラス又或ル家屋ヲ賃貸シタルトキハ其家屋ハ賃主ノ所有物ナレハ之ヲ返還スルノ義務ヲ免除スルモ借主ハ決シテ直ニ其所有權ノ讓渡ヲ得タルモノニアラサルナリ(第五百十四條)

連帶債權者ノ爲シタル免除

九、連帶債權者ノ一人ノ爲シタル免除ノ効果ハ左ノ如シ(第五百十五條)

(イ)連帶債權者ノ一人ノ爲シタル主タル可分ノ債務又ハ連帶ノミノ免除ハ單ニ其一人ノ部分ニ付キ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得抑モ連帶債權者ハ相互ニ代理ノ權ヲ有スルヲ

以テ一人ノ爲シタル利益ハ他ノ債權者ニ及フモ其一人ノミノ不利益ハ他ノ債權者ヲ害スルヲ得サルニ似タレトモ免除セラレタル部分ノミニ付テハ債務者ハ免除ニ依リテ其義務ノ一部ノ消滅シタルコトヲ主張スルコトヲ得ルハ當然ナリ

(ロ) 若シ又債權カ性質上ノ不可分ナルトキハ債權者ノ一人ノ爲シタル免除ハ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス故ニ債務者ハ全部ヲ履行スルノ義務アリト雖他ノ債權者ハ第四百四十五條及ヒ第五百六條ノ規定ニ從ヒ全部ノ請求ヲ受ケタル債務者ニ對シテ之レカ計算ヲ爲サヽルヘカラス

第三款　免除ノ證明

權利ノ拋棄ハ一般ニ法律ノ推測セサル所ナルハ已ニ前款ニ於テ論述シタル所ナレトモ又法律上其例外ナキニアラス今ヤ我民法ノ規定上免除ヲ推測スヘキ證據アリト認ムヘキ場合ヲ擧クレハ即チ左ノ如シ」

本證書ノ交附

一、債權者カ債務者ノ義務ヲ記載シタル本證書ヲ任意ニテ債務者ニ交付シタルトキハ反對ノ證據ナキ以上ハ其證書ニ免除ノ旨ヲ附記セスト雖債權者ハ債務ノ免除ヲ爲シタリトノ推定ヲ受クヘシ之レニ反シテ公正證書ノ正本又ハ判決書ノ正本ノ任意ノ交付ハ反對事情アルニアラサレハ其書類ニ執行文ヲ具備スルモ債務ノ免除ヲ推測スルコトナシ何トナレハ斯ノ如キ公正證書又ハ判決書ハ本證書ニアラサルヲ以テ債權者ハ之ヲ債務者ニ交付スルモ更ニ本證書ニ依リテ其權利ノ證明スルコトヲ得レハナリ但シ右ノ交付ハ何レモ任意ナラサルヘカラサレトモ法律ハ反對ノ證據アルニアラサレハ右等ノ書類ヲ所持スルモノハ凡テ任意ノ交付ヲ受ケタルモノト推測ス(第五百十六條)

證書ノ毀滅抹殺

二、債權者カ證書ノ全文又ハ債務者ノ署名其ノ他緊要ナル部分ヲ故意ニテ毀滅シ扯破シ又ハ抹殺シタルトキハ反對證據ナキトキ

ハ之ヲ任意ノ交付ニ準シ債務ノ免除アリシコトヲ推測ス又右ノ毀扯若クハ抹殺ハ其當時證書カ債權者ノ占有ニ係リシトキハ反對ノ證據アルマテ債權者ノ所爲又ハ其承諾ニ出テタリトノ推定ヲ受ク(第五百十八條)

三、債務ノ免除ハ明示ナルト默示ナルト又直接ニ證スルト法律上推定スルトヲ問ハス反對ノ證據アルマテ有償ニテ之ヲ爲シタルトノ推定ヲ受ク然レトモ授受スル相對能力ナキ者ノ間ニ於ケル免除ハ有償ニ之ヲ爲シタリトノ直接ノ證據アルコトヲ要ス否ラサレハ不能力者ヲシテ兇惡違法ノ犧牲タラシムルノ恐アレハナリ相對不能力者トハ一方カ或ル不法ノ勢力ヲ及ホスコトヲ得ヘキ地位ニアルモノヲ謂フ病者ト醫師又ハ神官トノ間ノ關係ノ如キ是レナリ

上來論述シタル所ヲ以テ我民法ニ規定セル免除ノ推定ニ係ル場合ト

ス然レトモ我民法ハ免除ヲ以テ宛モ辨濟ト同一ナルカ如ク思惟シ一般辨濟ニ關スル證明ヲ以テ特ニ免除ノミニ關スル規定ト爲スカ如キノ傾向アルハ未タ近世法理ノ全体ヲ通覽シタルモノニアラサルナリ證書ノ任意ノ交附、毀滅抹殺ニ關スル規定ノ如キハ寧ロ之ヲ辨濟ノ證明トスルコト甚タ適當ナルカ如シ豈ニ特リ免除ノ證明ノミニ適用スヘキモノナランヤ又其證明ニ關スル證據法ノ原理ニ至リテハ我民法ハ未タ大ニ悉サヽルル所アリト雖、事證據法ニ屬スルヲ以テ予ハ我民法ノ規定ノマヽニ之ヲ論述セリ讀者乞フ予カ一言ノ其是非ニ及フモノナキヲ見テ以テ我民法ノ完全ヲ證明スルニ足ルヘキモノトスルヿ勿レ

相殺

相殺ノ本義

第五節　相殺

第一款　相殺ノ本義

相殺(Compensatio)トハ二ノ債權ヲ債務者カ債權者ニ對シテ有スル所ノ

他ノ債權ヲ以テ消滅スルヲ謂フ即チ後段ニ論述スル所ノ諸條件ノ具備スル場合ニ於テハ債務者ハ債權者ニ對シテ負擔スル所ノ義務ト債權者カ債務者ニ對シテ負擔スル所ノ他ノ義務トヲ相殺スルコトヲ得ルナリ、甲ハ乙ニ對シテ百圓ノ債務ヲ負擔シ又更ニ乙ハ甲ニ對シテ百圓ノ債務ヲ負擔スルトキハ百圓ノ債務ハ互ニ相殺セラルヘキヲ以テ乙者ニシテ若シ甲者ニ對シ百圓ノ請求ヲ爲ストキハ甲者ハ相殺ヲ主張シテ乙者ニ對スル百圓ノ權利ヲ消滅スルト同時ニ乙者ノ請求ヲ拒絶スルコトヲ得ヘシ

債權ノ消滅ニハ債權者ヲシテ其滿足ヲ得セシムルモノト否ラサルトノ二種アルコトハ義務消滅ノ總論ニ於テ已ニ論述シタル所ナルカ相殺ニ依ル債權ノ消滅ハ債權者ヲシテ滿足ヲ得セシムル所ノ消滅ノ種類ニ屬セリ、然レトモ相殺ニ於テハ債權者ハ其請求スルコトヲ得ヘキモノヲ受領スルコトナク只タ其請求スルコトヲ得ヘキモノニ代ハルヘキ同等物ヲ受領スルニ過キサルナリ語ヲ換ヘテ之ヲ謂ハハ債權者ハ其自己固有ノ權利ノ履行ヲ得ルノ代ハリニ自己ノ債務ヲ消滅セシムルモノニ外ナラス、ボ氏ハ草案註釋書ニ於テ相殺ヲ以テ簡易ナル二樣ノ辨濟ト同視スレトモ(Boissonade, Com. II. p. 679)素リ法理ノ精確ヲ得タルモノニアラサルナリ、但シ古代ノ法學者ハ往々相殺ヲ以テ辨濟ト誤解シ相殺ハ債權者ノ自拂(セルフペイメント)ニ依リテ債權ヲ消滅スヘキモノト爲シタレトモ債權者ハ決シテ一タヒ辨濟ヲ受領シテ而シテ後ニ之ヲ返却スルモノニアラス債權者カ相殺ニ係ル債權ヲ要求スルコト能ハサルハ却ツテ再ヒ之ヲ返還セサルヘカラサルカ故ナリ、相殺ノ證據カ決シテ辨濟ノ證據タルコトヲ得サルモ亦此原理ニ出ツルノ結果ナリ

財產篇第五百十九條ニ曰ク

二人互ニ債權者タリ債務者タルトキハ下ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ法律上任意上又ハ裁判上ノ相殺成立ス

相殺ハ辨濟ノ一種ニアラス

ボ氏ノ誤見

相殺ハ二個ノ債務ナシテ其寡少ナル債務ノ數額ニ滿ツルマテ消滅セシム

ト、此法文ニ依レハ我民法ハ相殺ニ三種アルコトヲ認メタルヲ知ルヘシ、即チ第一ハ法律上ノ相殺第二ハ任意上ノ相殺第三ハ裁判上ノ相殺ナリ而シテ此三種ノ相殺ハ其効力ト其條件トニ於テ相異ナルモノニシテ法律上ノ相殺ハ第五百二十條ニ記載スル五條件ヲ具備スルトキニ於テハ當然行ハルヽモノニシテ裁判所ニ請求スルヲ要セス從ツテ其効力ハ相殺ノ原因ノ發生シタルトキヨリ發生シ任意上ノ相殺ハ法律上ノ相殺ノ條件ヲ具備セサル塲合ニ於テ當事者間ノ合意ヨリ生シ從ツテ其効力ハ合意ノアリタルトキヨリ發生シ裁判上ノ相殺ハ法律上ノ相殺ニ必要ナル條件中ノ一即チ債務ノ明確ナルコトヲ要スルノ條件ヲ欠クトキニ於テ被告ヨリ反訴ノ方法ニ依リテ相殺ヲ求ムルコトヲ得ヘク從ツテ其効力ハ相殺ノ原因ノ生シタル日ニ遡ルコトヲ得サ

相殺ノ種類

レトモ又判決確定ノ時ニ於テスルヲ要セス反訴ヲ呈出シタル日ヨリ之ヲ生スヘキモノトス然レトモ右三種ノ區別ハ近世ノ法理ヲ失シタル區別ニシテ法律上決シテ重要ナルモノニアラス故ニ予ハ相殺ノ原理ヲ論スルニ當リテハ此三種ノ區別ヲ設ケスト雖讀者ヲシテ我民法ノ規定ヲ了解セシメンカ爲メニ後款ニ於テハ此等ノ事ニモ論及シ併セテ其區別ノ不要ナル所以ヲ示サン

第二款　相殺ノ効力

相殺ノ効力ニ關スル原理ハ左ノ如シ

（第一）相殺ニ於テハ兩個ノ併立セル債權ハ併立ノ當時ヨリ併立ノ事實ノ存在ノミヲ以テ債權ヲ消滅スルモノト解スヘカラス相殺ハ權利者ニ於テ相殺權ヲ行フニ依リテ始メテ消滅スヘシ相殺ハ決シテ當然債權ヲ消滅スルモノニアラス何トナレハ併立セル兩個ノ債權ハ各々其法律上ノ存在ヲ保有シ之ヲ相殺シテ債權ヲ消滅スルト否トハ全ク

相殺ノ効力

相殺ハ直チニ債權ヲ消滅セス

ボ氏ノ誤見

債權者ノ意思如何ニ存スレハナリ、故ニ相殺ノ原因ノ已ニ存在ノ兩個ノ債權ハ相互ニ併立スルニ係ハラス債權者ハ相殺權ヲ拋棄シ又ハ其債權ヲ拋棄シ若クハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ルノミナラス兩個ノ併立セル各債權ハ一般ノ債權ト等シク各々其固有ノ消滅ノ原因ニ支配セラルヘシ、設例ヘハ一ノ債權ハ三十年ヲ以テ時效ニ係ルモ他ノ債權ハ三年ニシテ時效ニ係ルカ如キ是レナリ、ボ氏ハ相殺ノ原因ノ發生シタルトキヨリ債權ハ當然消滅スヘキコトヲ明言シ乍ラ仍ホ之ヲ拋棄シ又ハ讓渡スルコトヲ得ヘキコトヲ認ムルハ自家撞着ノ甚シキモノトイフヘシ(Boissonade, Com. II. p. 682)如何ニ民法カ私益ヲ主トシ合意ヲ自由ニ任意法ニ從ハサルコトヲ得レハトテ一旦消滅シタル權利ヲ再ヒ拋棄スルコトハ事實上ニ爲シ得ヘカラサル事柄ナリボ氏ノ誤見タルコト素リ明白ナレハ我民法モ亦已ニ相殺ノ原因ノ生シタル債權ノ讓渡及ヒ差押及ヒ相殺權ノ拋棄ヲ確認セリ、即チ

相殺權發生後ニ於ケル債權ノ讓渡

(イ) 相殺ノ原因ハ已ニ發生スルモ債權ハ當然消滅スルモノニアラサルヲ以テ相殺ノ原因ノ發生セル債權ト雖仍ホ之ヲ讓渡スルコトヲ得ヘシ而シテ債權ノ讓受人カ其讓受ヲ債務者ニ告知シタルノミニテハ債務者ハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得スト雖之ニ反シ債務者カ讓渡人ニ對シテ既ニ得タル法律上ノ相殺ノ權利ヲ留保セスシテ讓渡ヲ受諾シタルトキハ債務者ハ讓受人ニ對シテ其權利ヲ申立ツルコトヲ得サルヘシ設例ヘハ甲乙相互ニ對シテ債權ヲ有シ相殺ノ原因ハ已ニ生シタル後甲者其債權ヲ丙者ニ讓渡シ而シテ丙者ハ其讓受ノ事實ヲ乙者ニ通知スルモ乙者ハ依然トシテ丙者ニ對シテ相殺權ヲ有スヘシ之ニ反シ若シ債權讓渡ノ當時ニ於テ乙者ニ於テ相殺權ヲ行ハサルコトヲ承諾シタルトキハ乙者ハ丙者ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得サルハ當然ナリ是レ債權ハ當然相殺ニ

相殺權發生後ニ於ケル債權ノ差押

依リテ消滅セスシテ相殺權ヲ留保スルト拋棄スルトハ乙者ノ自由ナルヲ證明スルモノトナリ（第五百二十七條）

（ロ）前項ト同一ノ原理ニ依リ已ニ相殺ノ原因ノ生シタル債權ト雖拂渡差押ヲ爲スコトヲ得但シ此場合ニ於テハ其ノ差押ヲ受ケタル債務者ヨリ差押人ニ對スル効力ハ相殺ノ原因ノ生シタル前後ニ依リテ異ナレリト雖相殺ニ依リ債權ハ未タ消滅セサルモノタルコトハ明白ナリ即チ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ自己ノ債權者ニ對シテ差押後ニ取得シタル債權ノ相殺ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス又從來有スル相殺ノ原因ニ付テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ民事訴訟法ニ揭ケタル方式及ヒ期間ニ從ヒテ其原因ヲ述ヘタルニアラサレハ之ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス設例ヘハ甲者ハ乙者ニ對シテ一ノ債權ヲ有シ乙者ハ更ニ丙者ト互ニ債權者タリ債務者タルヒニ於テ甲者ニ於テ丙者ニ對シ

拂渡差押ノ手續ヲ爲シ丙者ニ告知スルニ乙者ニ其債務ヲ辨濟スヘカラサル旨ヲ以テセルトキノ如シ若シ氏ノ說ニ從ヒ相殺ニ依リテ乙丙間ノ債務ハ當然消滅スヘキモノトスレハ甲者ニ取リテハ拂渡差押ヲ告知スヘキ債權ナキニ至ルヘシ（第五百二十八條）

（ハ）前兩項ニ論述シタルカ如ク相殺權ヲ有スル債權者カ自ラ其相殺權ヲ拋棄シテ之ヲ行ハス其債權ヲ他人ニ讓渡シタルトキ又ハ差押人ノ利益ノ爲メニ之ヲ行ハサリシトキハ之レ自ラ有スル權利ヲ行ハサリシモノニシテ之レヨリ生スル不利益ノ結果ハ自ラ之ヲ負擔セサルヘカラス故ニ自己ノ舊債權ヲ擔保シタル保證先取特權若クハ抵當權ヲ主張シテ債權ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ス何トナレハ若シ斯ノ如キ權利ヲ保存スルモノトスルトキハ自己ノ隨意ノ棄權ノ爲メ第三者タル保證人等ニ對シ第二位ノ先取特權又ハ抵當權等ヲ有スル債權者ヲ害スルノ恐レアレハナリ（第五

百三十條但シ法文ニ「相殺ニ因リ既ニ消滅シタル債務」云々ト明言スルハボ|氏ノ誤言ニ基キタル法文タルコトニ注意シ法理上ニ於テハ相殺ノ爲メ決シテ當然債權ノ消滅ヲ來スモノニアラス債權ハ相殺權ヲ行フニ依リテ始メテ消滅スヘキモノトセサルヲ得ス、事ハ仍ホ後段ニ於テ自ラ明了タルニ至ラン

(第二) 前ニ論シタルカ如ク相殺ハ當然債權ヲ消滅スルモノニアラスト雖兩個ノ債權ニハ其併立ノ當時ヨリ反訴ノ權ヲ生シ債權ノ履行ヲ受ケタル被告ハ何時ニテモ反訴ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ而シテ此相殺ノ反訴權ハ債權者ノ債權ノ履行ノ進行ヲ妨止スルノ效力アルノミナラス債權ノ效果ノ發生ヲ妨止スルニ足レリ語ヲ換ヘテ之ヲ謂ヘハ債權ハ存在スルモ其效果ヲ發生スルコトヲ得サルモノナリ故ニ債務者若シ反訴權ノ存在スルニ係ハラス之ヲ辨濟シタルトキハ之レ相殺ノ權利ヲ拋棄シタルモノナレハ已ニ相殺ノ權利ナケレハ唯タ自己固有ノ債權ヲ主張スルコトヲ得ルニ過キサルヘシト雖若シ相殺權ノ存在スルコトヲ知ラスシテ辨濟ヲ爲シタルトキハ其取戻ヲ請求スルコトヲ得ヘシ設例ヘハ甲乙相互ニ百圓ノ債務ヲ負擔スルニ當リ甲者ハ乙者ニ百圓ノ貸金アルコトヲ知リ乍ラ百圓ノ債務ヲ辨濟シタルトキハ甲者ハ相殺權ヲ拋棄シタルモノナルヲ以テ甲乙間ニハ相殺ナキモノト爲シ甲者ハ乙者ニ對スル債權ニ依リ百圓ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マレトモ若シ相殺權アルコトヲ知ラスシテ百圓ヲ辨濟シタルモノナルトキハ甲者ハ其辨濟シタル金額ノ返却ヲ請求スルコトヲ得ヘシ、我民法ハボ|氏ノ誤見ニ從ヒ相殺ハ當然債權ヲ消滅セシムルモノトスルカ故ニ第五百二十九條ニ「相殺ニ依リテ既ニ消滅シタル債務ヲ辨濟シタル者ハ不當利得ノ取戻訴權ノミヲ行フコトヲ得」ト明定シ相殺ノ理由アルコトヲ知リツヽ辨濟ヲ爲シタル者モ亦固有債權ヲ行フコトヲ得サルモノトセルハボ|氏ノ誤見ニ相當ナル規定ナ

民法ノ自家撞着

レトモ前ニモ已ニ論述セルカ如ク我民法ハ債權者ニ於テ相殺權ヲ拋棄スルコトヲ得ヘキコトヲ認メ乍ラ相殺ノ原因アルコトヲ知リツヽ辨濟ヲ爲シタル者即チ相殺權ノ拋棄者ニ固有ノ債權ナキコトヲ規定スルハ前後抵觸ノ嫌ヲ免カルヽコト能ハサルヘシ尤モ我民法ノ起案者ハ自家撞着位ヲ意トスルカ如キ小膽ナル法律家ニアラサルハ毎々法文上ニ證明セラレタル事柄乍ラ此一段ニ至リテハ大膽モ亦甚シト云フヘキカ予ハ只タ立案者ニ注意セン我民法ノ立案者ハ此條ヲ以テ佛民法第千二百九十九條ヨリ襲用セルモノトスレトモ佛民法ハ決シテ斯カル規定ヲ設ケサルコトヲ、然レトモ大膽ハ必スシモ粗大ニシテ細密ノ思想ヲ欠クモノニアラス起案者ハ第五百二十九條ノ但書ニ照應スル爲メ更ニ第五百三十條ニ但書ヲ加ヘ正當ノ原因アリテ相殺ノ原因ノ存在スルコトヲ知ラスシテ辨濟ヲ爲シタル者ハ固有ノ債權ヲ失ハス特ニ此場合ニ於テハ固有ノ債權ハ固有ノ性質ヲ以テ擔保ト共ニ存在スヘキコトヲ明言セリ於是乎我起案者ハ大ニ其面目ヲ改メ細思周到ノ法律家タルコトヲ證明セリト云フヘシ、佛國民法ヲ本尊トスル以上ハ佛國民法ヲ丸出シニスルコト肝要ニシテ又立法ノ奥ノ手ナリ

相殺權發生ノ時期

又右ノ如ク相殺ノ妨訴權ハ相殺ノ原因ト同時ニ發生スルヲ以テ被告ニ於テ妨訴權ヲ行フタルトキハ其効果ハ相殺ノ原因ノ發生シタル當時ニ遡リ利息ノ進行ヲ停止スヘシ

(第三) 相殺ニ依リ債權ノ効果ヲ妨止スルニハ債務者ノ特別ナル所爲アルヲ要セス債務者ニシテ債權者ノ請求ニ對シテ反訴ヲ呈出シタルトキト雖反訴ノ權ハ反訴呈出ノ時ニ生スルニアラス只タ相殺ノ原因ノ發生シタル當時ニ已ニ發生シタル反訴ノ權ヲ反訴呈出ノ時ニ於テ使用スルモノニ外ナラサルナリ、羅馬法ニ所謂當然ノ相殺 (Ipso Jure compensatio) ナルモノハ則チ此意ニシテ我民法ノ所謂法律上ノ相殺ナリ

法律上ノ相殺ノ眞義

抑モ相殺ナル語ハ通常債務者ノ所爲ヲ意味スルモ羅馬法ノ用語ニ於テモ亦相殺權即チ相殺力ヲ稱スルニ單ニ相殺ノ語ヲ以テセルコト甚タ少ナカラサリシヲ以テ所謂當然ノ相殺即チ法律上ノ相殺ナルモノハ決シテ相殺ノ原因ノ發生スルト同時ニ當然ニ債權ヲ消滅スルノ意ニアラスシテ相殺ノ原因ノ發生スルハ同時ニ相殺權ノ發生スルコトヲ謂フモノナリ、當然ノ相殺ノ何物タルニ就テハ古來學者ノ間議論甚タ多ク就中ウツペルロード氏ノ如キ特ニ當然相殺論ナル一大著述ヲ爲シタル程ナリシカ要スルニ古代學者ハ當然ノ相殺ハ當然相互ニ債權ヲ消滅スルモノト爲シ近世ノ學者ハ相殺權ハ當然ニ發生スルモ之ヲ行フト否トハ債務者ノ自由ニ存シ債務者ニシテ若シ此權ヲ行フヲタルトキハ相殺ノ原因ノ發生シタルトキヨリ債權ノ消滅ヲ來シ若シ又之ヲ行ハサルトキハ債權ハ依然トシテ存在スヘキモノト爲セリ、我民法モ亦古代學者ノ說ヲ採用シ法律上ノ相殺ハ相殺ノ原因ノ生セシ時ヨリ當然債權ヲ消滅スヘキモノトスレトモ是レ相殺權ノ使用ヨリ生スル結果(即チ債權ノ消滅)ノ發生ト相殺權ノ發生トヲ混同シ相殺權ハ債務者一己ノ意思ヲ以テ之ヲ行フテ後始メテ其結果ヲ發生スヘキコトヲ忘却シタルノ誤見タリ、若シ夫レ相殺權ハ債務者ノ使用ヲ待タス當然債權ヲ消滅スヘキモノナランニハ已ニ相殺權ノ固着債權ハ再ヒ之ヲ讓渡スヘカラサルヘキニ第五百二十七條ノ場合ノ如キハ明カニ之ヲ確認スルハ法律トシテ不可ナル所ナキモ只タ我カ民法ハ相殺ニ關スル原理ヲ誤解シ遂ニ自家撞着ノ理論ニ墮落セルモノト謂フヘシ、予ハボ氏ヲ相手トスルノ甚タ大人氣ナキヲ知ルト雖氏ハ實ニ我民法ノ起案者ナリ而シテ其誤見謬說後世ヲ誤ルノ恐ナシトセス左ニ氏ノ所謂法律上ノ相殺ナルモノニ固有ナリトナシ他ノ相殺ト異ナレリトセル諸點ヲ擧ケ併セテ其誤見ヲ正サン(Boissonade, Com. II. p. 680)

法律上ノ相殺ニ固有ナル諸點

(イ) ボ氏ハ法律上ノ相殺ハ當然行ハルヽモノトナシ羅馬法ノ當然

ノ相殺ナルモノハ即チ我民法ノ所謂法律上ノ相殺ナルモノト同一ナルヘキコトヲ明言スルモ氏ハ此點ニ於テハ羅馬法ヲ誤解セリ近世學者ノ研究ニ依リ羅馬法ノ所謂當然ノ相殺ナルモノハ唯タ相殺權カ當然發生スルコトヲ謂フノミニシテ債權カ直チニ消滅スルノ謂ニアラサルコト明白トナレリ

(ロ) ボ氏ハ法律上ノ相殺ハ起訴ヲ待タスシテ行ハルヘキモノトスレトモ理論上ニ於テハ相殺ハ當然行ハルモノニアラスシテ唯タ相殺權カ當然ニ發生スルヲ以テ相殺權ハ起訴ニ依リテ始メテ生スルモノニアラストス云フ迄ナリ故ニ相殺權ヲ行フニハ必ス訴ニ依ルノ外ナシト雖其訴ノ効力ハ相殺權ノ發生ノ當時ニ遡リ相殺權發生以後ハ利息ノ進歩等ヲ停止スヘキハ前ニ已ニ之ヲ論シタリ

(ハ) ボ氏ハ曰ク「法律上ノ相殺ハ自然自動ニテ行ハルヽカ故ニ當事者雙方之ヲ知ラサルトキト雖相殺ハ行ハルヽヲ以テ對手ノ申立ヲ要セス」ト余ハ之ヲ改正シテ謂ハント欲ス曰ク「法律上ノ相殺權ハ相殺ノ原因ト同時ニ發生スルヲ以テ當事者雙方之ヲ知ラサルトキト雖相殺權ハ發生スヘク決シテ對手ノ申立ヲ待ツテ始メテ發生スルモノニアラス」ト

(ニ) ボ氏ハ曰ク裁判官ハ職權ヲ以テ相殺ヲ認定シ被告ヨリ敢テ之ヲ申立ツルコトヲ要セス故ニ裁判官若シ提供セラレタル書類中債務者即チ被告カ利用セサリシ所ノ辨濟ノ受取證書ヲ訴訟ノ半途ニテ發見シタルトキハ被告ニ於テ義務消滅ヲ主張スルノ權利アルト等シク法律上ノ相殺ノ原因ヲ發覺シタルトキモ亦已ニ債務ノ消滅セルコトヲ認定セサルヘカラスト而シテ予ハ謂ハント欲ス曰ク「如何ナル場合ヲ問ハス私權利ハ其權利ヲ有スル者ニ於テ自ラ之ヲ行ハサレハ國家ハ決シテ之ヲ行フコトヲ強ユルモノニ

アラス相殺權ハ相殺ノ原因ト同時ニ發生スルモ權利者(即チ債務者)ニ於テ之ヲ行ハサレハ其効果ヲ生スルモノニアラス故ニ裁判官ハ決シテ相殺權ヲ行フヘキコトヲ得ス但シ裁判官若シ提供セラレタル書類中被告ノ利用セサリシ所ノ辨濟ノ受取書ヲ訴訟ノ半途ニテ發見シタルトキハ提出セラレタル書類ハ悉ク被告ノ申立ニ屬スルモノナレハ被告ハ相殺ヲ申立タルモノト做シ相殺ノ行ハレタルコトヲ認定スル場合ハ格別ナリトス」ト

(第四) 前項ニ論述シタルカ如ク法律上ノ相殺權ハ當然ニ發生シ債務者ハ一己ノ意思ヲ以テ自由ニ之ヲ處分スルコトヲ得ヘク決シテ債權者ノ承諾ヲ要セサルモノナルヲ以テ斯ノ如キ相殺權ハ法律ニ於テ規定シタル原因(即チ兩個ノ債權ノ併立)及ヒ其原因ノ成立ニ必要ナル條件(即チ兩個ノ債權カ共ニ辨濟期限ニ至リタルコト其債權額ノ明確ナ

ルコト其債權ノ物体ハ互ニ代替スルコトヲ得ヘキコト等)ノ存在スルニアラサレハ決シテ當然ニ發生スルコトナカルヘシ、故ニ縱ヒ兩個ノ債權ハ相互ニ併立スルトモ右等ノ條件中其一ヲ欠クトキハ法律上ノ相殺權ヲ發生スルニ足ラサルナリ、然レトモ債務者ノ一己ノ意思ノミニ依ラス當事者相互ノ承諾アル以上ハ全ク右等ノ條件ヲ欠クトキト雖相殺ヲ爲スコトヲ得サルニアラサルナリ、我民法ハ斯ノ如キ承諾上ノ相殺ヲ稱シテ任意上ノ相殺ト謂フ、第五百三十一條ニ曰ク

任意上ノ相殺ハ法律上ノ相殺ヲ許サヽル爲メ利益ヲ受クル一方ノ當事者ヨリ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ヘキ總テノ塲合ニ於テ各利害ノ關係人ノ承諾アルトキハ相殺ハ之ヲ合意上ノモノトス」

任意上ノ相殺ハ既往ニ遡ルノ効ヲ有セス

ト、設例ヘハ辨濟期限ノ已ニ到達シタル債務ト未タ其期限ノ到達セサル債務トハ法律上ノ相殺ヲ爲スコト能ハサルモ當事者ノ合意ヲ以テ

スル以上ハ相互ニ之ヲ相殺スルコトヲ得ヘク又保證付ノ債務ト單純ノ債務ト相互ニ併立スルトキハ當事者及ヒ保證人ノ承諾アル以上ハ任意上ノ相殺ヲ爲スコトヲ得ヘキカ如シ、而シテ民法ハ任意上ノ相殺ハ既往ニ遡ルノ效ヲ有セスト明言シ暗ニ法律上ノ相殺權ノ發生ト其時期ヲ異ニスヘキ點ヲ指示スルニ似タレトモ已ニ當事者双方ノ合意ヲ以テ相殺ヲ爲ス以上ハ合意ヲ以テ其效ヲ既往ニ遡ラシムヘキコトヲ得サルニアラサレハ任意上ノ相殺ハ必スシモ合意ヲ爲シタル時ヨリ其效ヲ生スルニ止マラサルヘク又法律上ノ相殺ニ在リテハ相殺ノ原因ノ生スルト同時ニ當然ニ發生スルモノハ相殺權ニシテ債權ノ消滅ニアラスト雖任意上ノ相殺ニ在リテハ合意ヲ以テ直チニ債權ノ消滅ヲ來サシムルコトヲ得ヘシ、故ニ所謂任意上ノ相殺ナルモノハ二個ノ相互ニ併立スル義務ノ免除契約ナリ、予カ前款ニ於テ民法ノ正條中ニ別ニ任意上ノ相殺ナル一種ノ相殺ヲ認ムルノ必要ナキコトヲ論述シタルモ亦此理由アルニ由レリ

裁判上ノ相殺

（第五）法律上ノ相殺ノ發生スルニ必要ナル條件中請求額ノ明確ナルヲ要スルノ一條件ヲ欠クトキハ法律上ノ相殺權ヲ發生セサルコト當然ナレトモ被告ハ反訴ノ方法ニ依リ原告ヲシテ自己ノ利益ノ爲メ債權ヲ追認セシメ又ハ清算セシムルコトヲ要求シテ其債權ヲ明確ナラシメ裁判所ヲシテ相殺ヲ爲サシムルコトヲ得我民法ハ之ヲ裁判上ノ相殺ト謂フ而シテ此場合ニ於テハ裁判所ハ或ハ先ツ主タル訴ヲ裁判シ或ハ二個ノ訴ヲ合セテ裁判スルコトヲ得（第五百三十二條設例ヘハ原告ハ被告ニ對シテ百圓ノ貸金返濟ヲ要求シタルニ際シ被告ハ嘗テ原告ノ暴行ニ依リ其家屋ニ損害ヲ來シタルコトアルヲ理由トシ被告ハ該損害ニ付キ反訴ヲ以テ原告ニ對抗スルコトヲ得レトモ其損害ハ果シテ原告ニ於テ之ヲ賠償スルノ義務アリヤ否又其損害額ハ幾何ナルヤ否未タ明定セサルヲ以テ直チニ相殺ヲ主張スルコトヲ得スト雖

被告ハ裁判所ニ要求シテ原告ナシテ損害賠償ノ義務ヲ確認セシメ且ツ其損害額ヲ清算セシメタル上ニテ百圓ノ債務ト相殺スヘキコトヲ申立ツルコトヲ得ルカ如キ是レナリ而シテ又民法ハ斯ノ如キ裁判上ノ相殺ハ法律上ノ相殺ト異ニシテ相殺ノ原因ノ生シタル日ヨリ相殺權ヲ生セス又裁判ハ已ニ存在セル事實ヲ確認スルモノニ過キサレハ裁判確定ノ時ヲ待ツテ始メテ相殺ヲ生スヘキモノトセリ然レトモ反訴ハ只タ已ニ起ノ日ヨリ相殺權ヲ發生シタル權利ヲ行フノ方法ナリ反訴ニ依リテ始メテ權利ノ生スヘキモノトスルハ法理ヲ誤ルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ予ハ從來明確ナラサリシ債權ヲ明確ニセル所ノ裁判言渡ノ日ヨリ相殺權ヲ生スヘキモノトスルノ說ヲ採ルモ我民法カ明文ヲ以テ已ニ反對ノ日ヲ以テ相殺權發生ノ日ト爲シタル以上ハ法理ノ如何ニ係ハラスポ|但シ法文ノ所謂裁判上ノ相殺ナルモ。ノハ相。殺。權。ヲ指示スルモノニアラスシテ相殺ノ結果即チ債權ノ消滅ヲ指示スルモノナラハ相殺ノ結果ハ反對ノ日ニ在ルヘキコト素リ當然ナリ若シ又斯ク相殺ノ結果ノ發生即チ債權消滅ノ日ヲ以テ果シテ反訴提出ノ日ニ在リトスルモノナレハ是レ特リ裁判上ノ相殺ノミニ止マラス法律上ノ相殺ニ就テモ亦然リトセサルヲ得サルナリ

(第六) 債權者カ債務者ニ對シテ數多ノ債權ヲ有スルトキハ相殺ノ反訴ハ何レノ債權ニ對シテ主張スルコトヲ得ヘク又債務者カ債權者ニ對シテ數多ノ債權ヲ有スルトキハ何レノ債權ヲ基礎トシテ相殺ノ反訴ヲ主張スルカハ全ク債務者ノ自由タルヘキコトハ當然ノ法理ニシテ敢テ疑ヲ容レサル所ナルカ我民法ニ於テハ法律上ノ相殺ナルモノハ相殺ノ原因ノ發生シタル日ニ於テ已ニ債權ノ消滅シタルモノトナシ相殺權ニ依リテ債權ヲ消滅スルニハ毫モ被告ノ所爲ヲ要セストス

ルノ空論ナ採用スルカ故ニ右ノ明白ナル法理ニ依ルコトヲ得スシテ法律上相殺ノ順序ヲ定ムルノ必要ヲ生シタリ、第五百三十三條ニ規定シテ曰ク

當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ法律上又ハ裁判上ノ相殺ニ服スル數個ノ債務ヲ有スルトキハ其債務ヲ相殺スル順序ハ第四百七十二條ニ揭ケタル辨濟ノ充當ノ規定ニ從フ

相殺カ任意上又ハ合意上ノモノナルトキハ辨濟ノ充當ハ第四百七十條及ヒ第四百七十一條ノ規定又ハ當事者ノ協議ニ從フ

ト、由是觀之法律上ノ相殺ハ誤見乍ラモ當然債權ヲ消滅スルモノト爲シ從ツテ債務者ノ毫末ノ所爲ヲモ要セス債權ハ自然ニ消滅シ去ルモノナレハ數多ノ債權アル場合ニ於テ其順序ヲ定メタルハ前後誤見ナク貫徹シタルモノナレトモ裁判上ノ相殺ヲ以テ法律上ノ相殺ト同視シタルニ至リテハ誤見トノ抵觸ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ裁

判上ノ相殺ハ我民法ニ從フモ反訴ノ方法ニ依リ必ス之ヲ申立テサルヘカラサルヲ以テ如何ナル愚鈍ノ被告ニテモ此申立ヲ爲スニハ必ス其申立ントスル債權ハ如何ナル債權ナルカヲ定メサルヘカラサルノ理由ナケレハナリ、之ニ反シ我民法ハ任意上ノ相殺ニ就テハ却ツテ法律上ノ相殺ニ適當ナル規定ヲ設ケ數債權中ノ何レニ就キ相殺ヲ主張スルカヲ以テ全ク債務者ノ一人ノ意思ニ任シタレトモ前既ニ論スルカ如ク合意上ノ相殺ハ免除契約ナルヲ以テ如何ナル債權ノ免除ヲ爲スカ否ハ當事者ノ定メタル合意ニ從ヒ其疑義アル場合ニ於テハ之ヲ合意ノ解釋法ニ依リテ定ムルヲ適當トス、故ニ上來論述スルコトヲ概言セハ第五百三十三條中理論ニ適シタルノ規定ハ第三項ノ末ニ附加セラレタル當事者ノ協議ニ從フノ一句ノミ他ハ悉ク取ルニ足ラサル空論タリ要スルニ成民法ノ起案者ハ相殺ニ依ル債權ノ消滅ハ當事者雙方ノ合意ニ依ルカ又ハ全ク法律ノ規定ニ依ルカ二者中必ス其一

ニ居ルヘシト誤想シ所謂法律上ノ相殺ニ依ル債權ノ消滅ハ相殺權ノ履行即チ債務者一人ノ意思ニ基キタル所爲ニ依リテ行ハルヽモノルコトヲ忘却セルニ似タリ

第三款　相殺ノ條件

第五百二十條ニ曰ク

二個ノ債務カ主タルモノ互ニ代替スルヲ得ヘキモノ明確ナルモノ及ヒ要求スルヲ得ヘキモノニシテ且法律ノ規定又ハ當事者ノ明示若クハ默示ノ意思ヲ以テ其相殺ヲ禁セサルトキハ當事者ノ不知ニテモ法律上ノ相殺ハ行ハル

ト、此法文ニ依ルトキハ相殺ニハ必ス二個ノ債權アルヲ要スルノ外更ニ五條件ヲ必要トスルコトヲ見ルヘシ即チ第一、二個ノ債務ハ主タルモノタル事第二、二個ノ債務ノ物体ハ共ニ代替スヘキモノタル事第三、二個ノ債務ノ明確ナルヘキ事第四、二個ノ債務ハ要求シ得ラルヘキモノタル事是レ

ナリ、而シテ我民法ハ此等ノ五條件ヲ以テ法律上ノ相殺即チ當然ノ相殺ニ必要ナル條件トスレトモ所謂任意上ノ相殺ナルモノハ免除契約ニ過キサルコトハ前款ニ於テ已ニ論述シタル所ノ如クナレハ相殺ニ要スル此等ノ條件ヲ要セサルハ素ヨリ論ヲ俟タスト雖我民法ノ所謂裁判上ノ相殺ナルモノニ至リテハ單ニ反訴提起ノ當時ニ於テ第三條件即チ債務ノ明確ナルコトノ一條件ヲ欠クノミニシテ他ノ四條件ヲ具備セサルヘカラサルノミナラズ相殺ハ裁判上債務ノ明確トナリテ後始メテ行ハルヽモノナルカ故ニ裁判上ノ相殺モ亦此五條件ヲ具備シテ始メテ行ハルヽモノト謂フヘシ故ニ此等ノ條件ヲ單ニ法律上ノ相殺ノミニ必要トスルモノト限ルハ其當ヲ得サルナリ

相殺ノ要件ニ就テハ論スヘキモノ甚タ多シ予ハ之ヲ左ノ五段ニ分說セン

第一條件　主タル債務

相殺ノ原因タル二個ノ併立セル債務ハ互ニ主タル債務タルコトヲ要シ從タルコトヲ得ス、即チ

一、主タル債務者ハ自己ノ債務ト債權者カ保證人ニ對シテ負擔スル債務トノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス然レトモ訴追ヲ受ケタル保證人ハ債權者カ主タル債務者又ハ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得(第五百二十一條第一項)設例ヘハ甲者ハ乙者ニ對シ百圓ヲ貸與シ丙者ヲ以テ其保證人ト爲シ而シテ別ニ甲者ハ丙者ヨリ百圓ヲ借受ケタルコトアルトキハ保證人ノ義務ハ從タルモノナルヲ以テ乙者ハ甲者ヨリ百圓ノ請求ヲ受ケタルキニ際シ其自ラ負擔スル債務ト甲者カ丙者ヨリ負擔スル債務トヲ相殺スルコトヲ得サルカ如シ然レトモ保證人ニシテ若シ訴追ヲ受ケタルトキハ其債務ハ從タル性質ヲ脫

シ自ラ一身以テ之ニ當ラサルヲ可ラサルヲ以テ相殺ノ原因ハ訴追ト共ニ發生シ相殺ヲ申立ツルコトヲ得ヘキハ當然ナリ然ルニ我民法ノ起案者ハ此訴追ヲ受ケタル場合ヲ以テ任意上ノ相殺ト斷定スレ氏(Boissonade, Comm. II. p. 686)任意上ノ相殺ハ一ノ免除契約ニシテ當事者双方ノ承諾ヲ要スルモノナルニ此場合ニ於テハ債權者ニ於テ相殺ヲ承諾セサルモ債務者即チ舊保證人ニ於テ相殺ヲ主張スルコトヲ得ヘキハ明々白々タリボ氏ハ何ヲ苦シテカ斯カル場合ヲ以テ任意上ノ相殺トセサルヘカラサルノ必要ヲ感シタルカ、惟フニ氏ハ法律上ノ相殺ハ原因ノ發生ト同時ニ當然債權ヲ消滅スルトノ誤見ヲ有セルカ爲メ保證人カ訴追ヲ受ケタル場合ニ於テ始メテ相殺ヲ主張スルコトヲ得ルトスレハ持論ノ誤見ト抵觸スルヲ以テ已ムコトヲ得ス之レヲ任意上ノ相殺ト斷定シ而シテ益々誤謬ヲ重ネタルモノナラン、一失其始、進退上下何往而非罪

哉

二、連帶債務者ハ債權者カ其連帶債務者ノ他ノ一人ニ對シ負擔スル債務ニ關シテハ其一人ノ債務ノ部分ニ付テニ非サレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス然レトモ自己ノ權ニ基キ相殺ヲ以テ對抗スヘキトキハ全部ニ付キ之レヲ申立ツルコトヲ得(第五百二十一條第二項)設例ヘハ甲乙丙ノ三人連帶ニテ金三百圓ヲ丁者ヨリ借受ケタルニ從來甲者ハ丁者ニ對シテ同シク三百圓ノ貸金アリシトキニ於テ丁者若シ乙者ニ對シテ三百圓ノ請求ヲナシタルトキハ乙者ハ甲者ヨリ丁者ニ對スル債權ヲ以テ相殺ヲ主張スルコトヲ得ス否ラスンハ乙者ハ己レノ債務ヲ以テ直ヲニ甲者ニ移シ甲者ヲシテ獨リ其責ヲ負ハシムルニ至レハナリ然レトモ三人ノ連帶者間ニ在リテハ法律上各々其部分ヲ擔保スルノ責任アルヲ以テ乙者ヨリ丁者ニ對スル債權ノ三分ノ一即チ百圓丈ノ部分ニ付キテハ丁者ニ對シテ相殺ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ之レニ反シ丁者若シ甲者ニ對シテ其債權ノ履行ヲ請求シタルトキハ甲者ハ全額即チ三百圓ノ債權ニ對スル相殺權ヲ主張スルコトヲ得

三、數人ノ連帶債權者アルトキ債務者ハ債權者ノ一人カ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ訴追者ニ對抗スルコトヲ得(第五百二十一條第三項)設例ヘハ甲乙丙ノ三人連帶權利者トナリ丁者ニ金圓ヲ貸與シタルニ從來丁ハ丙ニ對シテ債權ヲ有スルトキハ丁ハ甲乙丙中ノ何レノ債權者ニ對シテモ相殺ヲ主張スルコトヲ得是レ連帶基キ何レノ債權者ヨリ訴ヲ受ケタルヲ問ハス其全部ノ債權ニ債權者ハ相互ノ間ニ於テ相互ニ代理權ヲ有スルヨリ生スル自然ノ結果ナリ

四、債務カ債務者ノ間又ハ債權者ノ間ニ於テ任意不可分ナルトキハ相殺ハ受方又ハ働方ノ連帶ニ於ケルト同一ノ方法ニ從ヒ又性

質ニ因ル不可分ノ債務ナルトキハ第四百四十五條ノ規定ニ從フ(第五百二十一條第四項)是レ義務ノ不可分ナルトキニ於テ數多ノ債權者中若クハ數多ノ債權者中ニ於テ相殺ノ原因ノ存スルトキニ遵守スヘキ規定ナリ即チ

(イ) 數多ノ債務者間ニ於テハ前第二項ノ規定又數多ノ債權者タルトキハ前第三項ノ規定ニ從ハサルヲ得ス

(ロ) 然レトモ性質上ノ不可分ノ義務ハ分割スルコト能ハサルモノナルヲ以テ前項(イ)ノ規定ニ從フコトヲ得ス第四百四十五條ニ明定セルカ如ク債權者ハ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第二條件　債務ノ物體ノ代替性

併存セル二個ノ債務ノ物體ハ其ニ代替性ヲ有セサレハ相殺ハ行ハルヘキモノニアラス古代ノ羅馬法學者ハ只タ債務ノ物體カ金錢ヲ與ヘ

ソトノ作爲ナル場合ニ於テノミ相殺ノ行ハルヘキモノト爲シタルカ近世ニ於テハ苟モ同種ノ物体即チ代替性ヲ有スル物体タル以上ハ相殺ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ故ニ甲者ハ乙者ニ對シテ米幾千石ヲ請求スルノ權利アリ乙者ハ又甲者ニ對シテ米幾千石ヲ請求スルノ權利アルトキハ兩個ノ債權ハ相互ニ相殺スルコトヲ得ヘシ之レニ反シテ若シ甲者ハ乙者ニ對メ麥酒幾千石ヲ請求スルノ權利アリ乙者ハ又甲者ニ對シテ馬匹數頭ヲ請求スルノ權利アル場合ノ如キハ所謂法律上ノ相殺ナルモノハ當然行ハルヘキモノニアラス或ハ一方ハ作爲ノ義務ニシテ一方ハ不作爲ノ義務ナル場合ノ如キモ亦然リ、然レトモ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ地方市場ノ相場アル日用品ノ定期ノ供與ヲ負擔シタルトキハ其供與ハ他ノ一方ノ負擔スル金錢ト相殺スルコトヲ得ヘシ(第五百二十二條)蓋シ此場合ニ於テハ其物体ハ其ニ作爲ナレトモ一方ノ物体ハ金錢ニシテ一方ノ物体ハ日用品タル物品ナ

債務ノ物體ノ代替性

リ故ニ之ヲ同種ノ物体トスルコトヲ得サレトモ市場ノ相場アル日用品ハ何時ニテモ相場價ヲ以テ之ヲ買取スルコトヲ得ヘキヲ以テ法律ハ實際上ノ便宜ヲ酌酌シタル例外法タリ然レトモ斯ノ如キ異種ノ物体ニ付キ相殺ヲ許スニハ法文上必ス左ノ制限アルコトニ注意セサルヘカラス

一、市場ノ相場アル日用品タルコトヲ要ス故ニ市場ノ相場アルモ日用品ニアラサルカ又ハ日用品ナルモ市場ノ相場ナキモノニ係ル相殺ヲ爲スコトヲ得ス

二、一方ノ義務ノ物体カ市價アル日用品ニシテ一方ノ義務カ金錢ナルコトヲ要ス故ニ双方ノ義務ノ物体カ市價アル日用品ナルトキハ相殺ハ決シテ行ハレサルナリ

三、義務ノ物体タル作爲ハ定期ニ日用品ヲ給與セントスルニ在ルコトヲ要ス日用品ノ供與スルノ義務ト雖其供與ノ定期ナラサル

モノハ相殺ノ原因トナルコトヲ得ス

四、日用品タル物品ハ確定物タラサルコトヲ要ス何トナレハ確定物ノ賣買ハ直ニ其所有權ヲ移轉スヘキヲ以テナリ

然レトモ二個ノ債務カ同一ノ場所ニ於テ又ハ同一ノ貨幣ヲ以テ辨濟スヘキモノニ非ラサルノ一事ハ毫モ相殺ヲ妨クルコトナシ第一ノ場合ニ於テハ運送費又ハ爲替料ヲ計算シ第二ノ場合ニ於テハ兩替賃ヲ計算スルコトヲ要ス何トナレハ辨濟ノ場所及ヒ貨幣ノ種類ノ如キハ債務ノ性質ヲ變スルニ足ルヘキモノニアラサレハナリ(第五百二十五條)

第三條件　債務ノ明確

併立セル兩個ノ債務ハ明確ナルヲ要ス何トナレハ不明不確ナル債務ハ相殺セントスルモ決シテ事實上之ヲ相殺スルヿ能ハサルヘケレハナリ所謂裁判上ノ相殺ナルモノニ付テハ民法ハ此條ヲ例外トスレト

モ其空想ヲ觀察スレハ裁判上ノ相殺ナルモノハ裁判上ノ審理ニ依リ債務ノ明確トナリタルトキヨリ始メテ成立スルモノナレハ裁判上ノ債務ナレハトテ不明不確ナルモノヲ相殺スルモノニアラサルハ已ニ前款ニ論述シタル所ノ如シ而シテ債務ノ明確ナルトハ債務カ其成立、物体ノ性質及ヒ分量ノ三點ニ於テ明確ナルコトヲ謂フモノナリ、即チ

(イ) 債務ノ成立カ明確ナルトハ停止條件附ノ債務ノ如キ其成立ノ未タ豫知スヘカラサルカ如キモノニアラサルヲ謂フ

(ロ) 物体ノ性質カ明確ナルコトハ義務ノ物体カ作爲ナルカ不作爲ナルカ又或ル物ヲ與ヘントニアルカ又其物ハ金錢ナルカ其他ノ物品ナルカノ明確ナルヲ謂フモノナリ

(ハ) 債務ノ分量カ明確ナルトハ債務ノ物体カ計算ヲ要セスシテ明白ナルヲ謂フ

以上列記セル三點ニ於テ債務カ明確ナル以上ハ相殺ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ以テ苟モ此三點ニシテ已ニ明白ナル以上ハ其債務ハ善意ニテ爭ハルヽトキト雖之ヲ明確ナリトス(第五百二十三條)設例ヘハ當事者ノ一方カ債務ノ成立若クハ分量等ノ明確ナルコトヲ知ラス善意ニテ其不成立若クハ分量ノ過不及ヲ爭ヒ訴ヲ提起シタルトキト雖其裁判ニ依リ明確タルコト判然シテ原告ノ敗訴トナリタルトキハ相殺權ハ裁判ノ當時ヨリ成立セスシテ已ニ其以前ヨリ成立セルモノトセサルヲ得ス

第四條件　要求シ得ヘキ債務

併立セル兩個ノ債權ハ要求シ得ヘキモノタルトヲ要ス、即チ就中

一、兩個ノ債權ハ共ニ要求期限ニ到達シタルコトヲ要ス然ラスンハ一方ヲシテ期限ノ利益ヲ失ハシムルニ至ル、ヘシ但シ左ノ二個ノ場合ニ於テハ此限ニ在ラス(第五百二十四條第一項)

(イ) 裁判所ノ許與シタル恩惠上ノ期限ハ已ニ合意上ノ債權ノ期

解除條件附ノ義務

限ノ到着シタルニ係ハラス債務者カ事實上債務ヲ辨濟スルコト能ハサルニ依リ特ニ裁判所ニ於テ之ヲ許與スルモノナレハ債權者ニ於テ他ニ其債權ヲ滿足スルノ方法アラハ之ヲ行フコト素リ當然ナリ故ニ恩惠上ノ期限ハ未タ到達セストモ毫モ相殺ノ妨ケトナルコトナカルヘシ

(ロ) 債權者カ債務者ノ要求ニ應シ無償ニテ許與シタル期限モ亦前項ト同一ノ理由ニ依リ相殺ノ妨ケトナルコトナカルヘシ

二、二個ノ債權ノ一カ解除條件附ナルトキハ債權ハ已ニ存在シテ其效果モ亦發生セルモノナルヲ以テ相殺ヲ妨クルコトナカルヘシ設例ヘハ予ハ予ノ所有ノ家屋ヲ某學校ニ賣却センコトヲ約シ而シテ若シ某學校ニ於テ之ヲ學校ノ用ニ供スルコトヲ廢シタルトキハ此賣買契約ハ無效タルヘキコトノ條件ヲ附シタルトキハ該賣買契約ハ直ニ效果ヲ生スルヲ以テ予カ某學校ニ對シテ負擔

一方ノ債權ノ消滅

スル債務ト相殺スルコトヲ得ヘシ但シ若シ解除條件カ成就シタルトキハ相殺モ亦解除セラレテ原狀ニ復スヘキナリ(第五百二十四條第二項)

三、自然義務即チ起訴權ナキ債權ハ他ノ債權ト相殺スルコトヲ得ヘキハ法理學者ノ許容スル所ナレトモ近世ノ立法ハ自然ノ義務ノ相殺ヲ許サヽルヲ通則トセリ我民法モ亦此通則ニ從ヒタルコトハ第五百六十二條ノ法文上ニ於テ明白タリ

四、兩個ノ債權ハ共ニ要求シ得ヘキコトヲ相殺ノ必要條件トスルヲ以上ハ若シ一方ノ債權カ消滅シタルトキハ相殺ノ原因モ亦消滅スヘシ而シテ此場合ニ於テハ一方ノ債權消滅以前ニ發生シタル相殺ハ既往ニ對シテハ法律上效果ヲ保存スヘキヤ否ニ就テハ學者ノ間議論紛々トシテ未タ決スル所ナク同一ノ學者ニシテ數々其所說ヲ變更スルモノ少ナカラスト雖一般學者ハ債權消滅ノ原

因如何ニ依リテ既往ノ効果ヲ存スルト否トヲ區別シ若シ債權ノ消滅カ債權者ヲシテ滿足ヲ得セシメタルモノナルトキハ消滅以前ニ生シタル既往ノ効果モ亦消滅シテ痕跡ヲ留メスト雖若シ債權ハ消滅シテ爲メニ債權者ハ未タ其滿足ヲ得サリシトキニ於テハ學者ハ殆ト之ニ疑團ヲ置キ一定ノ斷定ヲ與ヘサルヲ常トスレトモ我民法ニ於ケルカ如ク相殺ハ相殺ノ原因ノ發生ト同時ニ債權ヲ消滅スルモノトスルノ誤見ヲ持スル古代學者ニ在リテハ本來相殺ノ原因ノ發生シタル後ニ於テ相殺スヘキ債權ヲ消滅スルコトアルヘキ理由ナケレハ毫モ此等ノ難問ヲ發生スルコトナカルヘシ

相殺シ得ヘキ債權

第五條件　相殺シ得ヘキ債權

前ニ論述シタル四條件ヲ具備スルモ法律ノ規定ニ依リ又ハ當事者ノ意思ニ依リ相殺ヲ禁セサルモノニアラサレハ相殺ハ決シテ行ハルヽコトナカルヘカラサルモノトセリ（第五百二十六條）

一、債務ノ一カ他人ノ財産ヲ不正ニ取リタルヲ原因ト爲ストキ、設例ヘハ予ノ債權者ナル甲者カ予ノ財産ヲ不正ニ取リタルトキハ予ハ甲者ニ對シテ其代金ヲ請求スルノ權利アレトモ甲者カ其債權ヲ主張シテ予ノ請求權ト相殺ヲ爲スハ公益上法律ノ禁止スル所ナリ何ントナレハ若シ債權者ヲシテ斯ノ如キ相殺權ヲ有セシムルトキハ債權者ハ常ニ法律上ノ手續ニ依ラス不法ニ債務者ノ財産ヲ押取シテ以テ其債權ヲ滿足スルカ如キノ弊害ヲ生スヘケレハナリ故ニ不正ニ竊取スル場合ノ外名譽毀損其他ノ不正ノ所爲ヨリ生スル弊害ニ就テハ法律ハ決シテ相殺ヲ禁スルモノニアラサルナリ

二、消費ヲ許セル寄託物ノ返還ニ關スルトキ、設例ヘハ予ハ金百圓

ナ予ノ債權者ナル甲者ニ委託シタルトキハ甲者ハ自由ニ其金圓ヲ使用スルコトヲ得ヘキモ其債權ト寄托金トヲ相殺スルコトヲ得ス何トナレハ寄託ハ其本性ニ於テ信用上之ニ返還スルノ義務アルモノニシテ貸金ト大ニ其趣ヲ異ニスレハナリ但シ消費ヲ許サヽルル寄託物ナルトキニ於テモ相殺ヲ爲スコト能ハサルハ當然ナレトモ此場合ニ於テハ相殺ハ第二條件ヲ欠クモノトシテ行ハサルヘシ

三、債權ノ一カ差押フルコトヲ得サル有價物ヲ目的トスルトキ、蓋シ差押ハ債權ヲ滿足スルノ一手段ニ過キサレハ一方ノ債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ相殺ノ方法ニ依ルトモ差押フヘカラサル物ニ對シテ決シテ債權ノ滿足ヲ得セシムヘキモノニアラス

四、當事者ノ一方カ豫メ相殺ノ利益ヲ拋棄シタルトキ又ハ債權者ト爲ルニ當リ期望シタル目的カ相殺ノ爲ニ達スルコトヲ得サルトキ、是レ相殺權ハ債務者ニ屬スル權利ニシテ債務者ハ自由ニ之ヲ存廢スルコトヲ得ヘキカ故ナリ而シテ斯ノ如キ拋棄ハ或ハ明示或ハ默示タルコトヲ得ルハ當然ニシテ法文中ノ「又ハ債權者ト爲ルニ當リ期望シタル目的カ相殺ノ爲メニ達スルコトヲ得サルトキ」トハ債權者ハ期限リ至リテ返還セラレタル金錢ヲ或ル特定ノ費目ニ充當セントスルノ目的ヲ有シタル塲合等ニシテ契約中ニ明言セサルモ默示ニ依リテ自ラ相殺權ヲ拋棄シタルモノト見做スヘキ塲合ヲ例示シタルモノニ過キスト雖法文中特ニ之ヲ規定スルハ素リ其体裁ヲ失シ往々其適用ヲ該博ナラシムルノ弊害ナキニアラス

右ノ外、國庫又ハ地方自治体ニ對スル或ル債務ハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス、設例ヘハ租稅ノ義務ノ如キ是レナリ然レトモ民法ハ此等ノ例外ニ

就テハ別ニ明言スル所ナキヲ以テ特別ノ法律ニ依リ例外ヲ設クルコトアルニアラサレハ裁判所ハ斯ノ如キ債務ニ對シテモ亦相殺ノ要求ヲ拒ムコトヲ得サルヘシ

第六節　混同

混同(Confusio)ハ債權及ヒ債務カ同一人ニ合同スルニ依リテ生スル債權ノ消滅ナリ、設例ヘハ子ハ父ノ死亡ニ依リ其財產ヲ相續シタルトキハ父ノ有セシ債權ハ債務者ナル子ノ有ニ歸スルヲ以テ父ニ對スル債權ハ自ラ消滅スルカ如シ、蓋シ其債權ノ消滅スル所以ハ何人ト雖自己ニ對シテ權利ヲ有スルコトヲ得ストノ原則ニ基ケリ、而シテ其消滅ノ效果ハ恰モ相殺ノ場合ニ於ケルカ如ク債權者ヲシテ其滿足ヲ得セシムルモノナリ只タ相殺ニ在リテハ債權者ハ他人ニ對スル債務ヲ免脫スルニ依リテ其債權ヲ滿足シ混同ニ在リテハ債權者ハ自ラ債權者ニアラサルカノ如ク他人ニ對シ

テ負擔スル債務ヲ免脫スルコトニ依リテ其債權ヲ滿足スルノミ、左ニ混同ニ關スル原理ノ適用ヲ示サン

混合ノ場合

(第一)　混同ハ前ニ論述セルカ如ク債權ト債務カ同一人ニ歸スルニ依リテ生スル債權ノ消滅ヲ謂フモノナレトモ第五百三十一條ハ身分ノ上ヨリ其定解ヲ下シ「一個ノ義務ノ債權者タリ及ヒ債務者タルノ分限カ相續等ニテ一人ニ併合シタルトキハ義務ハ混同ニ依リテ消滅ス」ト謂ヒ混同ナル語ヲ以テ直ニ義務ノ消滅ヲ指示セスシテ其消滅ヲ來スヘキ原因ヲ指示セリ故ニ混同即チ義務消滅ノ原因ノ發生ハ或ハ債務者ニ於テ債權者ノ分限ヲ獲得スルコトアルヘク或ハ債權者ニ於テ債務者ノ分限ヲ獲得スルコトアルヘク或ハ第三者カ其自己ノ債權者タル分限ト債務者タル分限トヲ併セテ獲得スル場合アルヘシ

混同カ義務ヲ消滅セサル場合

(第二)　混同ハ義務ヲ消滅スルモノタルコトハ前項ニ論述シタルカ如クナレトモ其義務ニシテ再ヒ蘇生シ得ヘキモノナルトキハ義務ハ混

同ニ依リテ消滅スルコトナク其効果ヲ生セサルマテニ止マルヘシ第五百三十四條第二項ニ「右ノ混同カ其以前ノ適法ノ原因ニ依リテ解除銷除又ハ廢罷ヲ受ケタルトキハ義務ハ之ヲ消滅セサリシモノト看做ス」ト謂ヘルハ則チ此意ナリ、設例ヘハ予ハ債權者ナル父ノ死亡ニ依リ父ノ財產ヲ相續シタルトキハ債權及ヒ債務ハ混同ニ依リ消滅ニ歸スヘシト雖若シ其混同以前ニ於テ予ハ相續人タル資格ニ欠クル所アリタルカ爲メ後日ニ至リ予ノ相續人タル資格ナキコト發見セラレ他人ニ於テ之ヲ相續シタルトキハ義務ハ未タ消滅セサルモノナルヲ以テ抵當其他ノ權ト共ニ全ク予ヲシテ相續以前ノ地位ニ立タシムヘシ但シ法律ハ此等ノ塲合ニ於テハ「義務ハ消滅セサルモノト看做ス」ト明言シ混同ニ依リテ一旦消滅シタルモノヲ只法律上消滅セサルモノト假想スルカ如クニ規定スレトモ本來再ヒ回復シ得ラルヘキ權利ハ事實上ニ於テモ亦混同ノ爲メ消滅スルコトナキモノトスルヲ適當トス、故ニ

又混同ヲ消滅セシムル所ノ原因カ混同後ニ生シタルトキハ其義務ハ一旦消滅シ了リタルモノナルヲ以テ決シテ之ヲ混同以前ノ原狀ニ回復セシムルコトヲ得ス

（第三）第五百三十五條ニ曰ク

債權者カ連帶債務者ノ一人ニ相續シ又ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ニ相續シタルトキハ連帶債務ハ其ノ一人ノ部分ニ付テノミ消滅ス

混同カ連帶債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ行ハレタルトキモ亦其混同ハ債務ノ一分ニ付テノミ成ル

ト、設例ヘハ甲乙丙ノ三人連帶ニテ千圓ノ債務ヲ丁者ニ對シテ負擔スルトキニ當リ甲者ノ死亡ノ爲メ丁者若シ其相續人トナリ甲者ノ財產ヲ相續シタルトキハ丁者ト甲者トノ間ニ於ケル混同ハ乙丙ニ對シテ甲者ノ部分即チ三百三十三圓餘ヲ消滅セシムルニ過キサルヘシ純然

タル理論ヨリスルトキハ全部ノ債務ニ付キ丁者ハ甲者ニ相續シ而シテ甲者ニ代ハリテ更ニ丙丁ニ對シテ其償還ヲ要求スルコトヲ得ヘキニ似タレトモ是レ素ヨリ無用ノ手數タリ故ニ立法上斯ノ如キ場合ニ於テハ混同ハ單ニ甲者ノ部分ノミノ債權ヲ消滅スルニ止マルヘキモノトスルヲ便宜ナリトス其混同カ連帶債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ問ハレタルトモ亦同一理ナリ

不可分義務ノ連帶

（第四）前項ニ論述シタル連帶ノ場合ニ於ケル混同ハ可分ノ義務ナルヲ以テ各々連帶者ノ部分ヲ認ムルコトヲ得レトモ若シ義務カ性質上ノ不可分ナルトキハ如何、第五百三十六條ハ規定シテ曰ク

義務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ト債務者ノ一人トノ間ノ混同ハ他ノ者ノ利害ニ於テ其義務ヲ全存セシム然レトモ其混同ヲ得タル者ハ第四百四十五條ニ從ヒテ一分ノ償金ヲ供シ又ハ受取ルニアラサレハ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得ス又

ハ訴追セラルヽコトナシ

ト、設例ヘハ甲乙ヲ連帶債權者トシ丙丁ヲ連帶債務者トシ甲者ト丙者トノ間ニ於テ混同アリタリトセンニ乙者ハ丁者ニ全部ノ債權ヲ行フコトヲ得ヘク又丁者ハ乙者ニ對シテ全部ノ債務ヲ負擔セサルヘカラス然レトモ甲者ハ丁者ニ對シテハ第四百四十五條ノ規定ニ從ヒ一部分丈ノ償金ヲ供與スルニアラサレハ全部ヲ請求スルコトヲ得ス又乙者ヨリ丙者ニ對シテ要求ヲ爲シタルトキハ丙者ハ一分ノ償金ヲ受取リタル上ニアラサレハ全部ノ義務ヲ盡スコト能ハサル旨ヲ主張スルコトヲ得

連帶者ノ合併

（第五）混同ハ債權ト債務トノ混同ナレトモ我カ民法ハ混同ヲ以テ分限ノ混同ト爲シタルカ故ニ分限ノミニ就テハ連帶ノ債權者ト債權者トノ分限ノ混同アルヘク又連帶ノ債務者ト債務者トノ混同アルヘキ場合ヲ想像シ得ヘシ然レトモ此ノ如キハ素リ混同ニアラサレハ義務

ヲ消滅スルノ原因タルコトナキハ明カナリ第五百三十七條ニ曰ク

二人ノ連帶債權者又ハ二人ノ連帶債務者ノ分限カ一人ニ併合シタルトキハ權利又ハ義務ノ消滅ナシ其身ニ就キ併合ノ成リタル者ハ或ハ自己ノ名或ハ己レカ相續シタル者ノ名ニテ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得又ハ訴追セラルヽコトアリ

働方又ハ受方ニテ不可分ナル義務ニ付テモ亦同シ

ト、設例ヘハ甲乙連帶ニテ丙者ニ對シ一ノ債權ヲ有シタリシニ甲者若シ乙者ノ相續人トナリ乙者ノ分限ヲ併セタリトモ決シテ乙者ノ債權ハ消滅シタルモノニアラス抑モ連帶債權ナルモノハ二個ノ債權アルニアラスシテ本來唯一ノ債權タルニ過キサレハ甲者乙者ノ分限ヲ併セタレハトテ本來二個アリシ債權ヲ合同シタルモノニアラサルナリ其連帶債務者ノ分限ヲ一人ヲ併合シタルトキモ亦同一理ナリトス故ニ連帶債權者ノ合併若クハ連帶債務者ノ合併ハ毫モ債權若クハ債務

ノ性質ヲ變スルモノニアラス故ニ其一身ニ於テ連帶者ノ分限ヲ併セ得タルモノハ自己ノ名又ハ相續シタル者ノ名ニテ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得ヘク又訴追セラルヽコトアルヘシ故ニ又乙者ハ債權ニ付キ物上擔保ヲ有シタルモ乙者ノ身分ヲ合併シタル甲者ハ物上擔保付ノ權利ヲ主張スルモ主張セサルモ其隨意ナリ

場合ニ於テモ

（第六）從タル債權カ主タル債權ニ合併シ又ハ主タル債權カ從タル債權ニ合併セラルヽ場合ニ於テハ混同ハ成立シテ從タル債權ハ消滅スヘシ何トナレハ保證ハ主タル義務者ニ對シテハ一ノ義務ナレハ他ノ權利ト混同スルコトヲ得ヘキ當然ナレハナリ第五百三十八條ニ曰ク

保證人カ債權者ニ相續シ又ハ債權者カ保證人ニ相續シタルトキハ保證ハ其附從ノモノト共ニ消滅ス

債務者カ保證人ニ相續シ又ハ保證人カ債務者ニ相續シタルトキハ

債權者ハ主タル債務者共同保證人若クハ保證人ノ擔保人ニ對シ及ヒ保證ニ附着シタル質若クハ抵當ニ付キ其權利ニ變更ヲ受クルコトナシ

ト、即チ保證人ト債權者カ一人ニ合併シタルトキハ何人ト雖自身ニ對シテ權利ヲ有スルコト能ハサレハ自身ニ對シテ保證人タルコトヲ得サルノ理ニ依リ保證ハ自ラ消滅シ保證ニ附從セル權利、設例ヘハ保證ノ從タル復保證又ハ抵當權等モ之レト共ニ消滅スヘキコト明白ナリ然レトモ保證人ノ分限ヲ債務者ノ分限ニ併合シタルトキハ附從ノ義務ヲ消滅スルコトナシ設例ハ甲乙兩人共同保證人トシテ丙者ニ對シ丁者ノ爲メニ債務ノ保證人ト爲リタル場合ニ於テ債務者ナル丁者カ甲者ノ財產ヲ相續シタルトキハ丙者ナル債權者ノ爲メニハ乙者ナル保證人ノ義務ヲ消滅スルコトナカルヘシ其他保證人ノ擔保人又ハ保證ニ附從スル物上擔保等ニ就テモ亦同シ

混同ノ原因

（第七）混同ノ生スヘキ原因ハ必スシモ總財產相續ノ場合ノミニ遺贈又ハ贈與若クハ包括名義ノ財產ヲ讓渡スル場合等ニ發生スレトモ已ニ前ニ論述シタルカ如ク其混同ニシテ取消シ得ヘキモノナルトキハ混同ハ債權ヲ消滅シテ唯其效果ノ發生ヲ停止スルモノニ過キサルヘシ

履行ノ不能

第七節　履行ノ不能

義務ノ物體自身ノ不能ニ就テハ前章ニ於テ既ニ之ヲ詳論シ且該物體自身ノ不能ハ義務ノ成立ヲ妨ケ義務ナシテ當然無效タラシムヘキコトヲ述ヘタリ而シテ茲ニ述ヘントスル所ハ義務履行ノ不能即チ一旦成立シタル義務カ履行ノ不能ニヨリテ消滅スル場合ヲ論述スルニ在リ

履行ノ不能ニ就テハ論スヘキモノ甚タ多ク又我民法ノ規定タル不相變ノ謬見ヲ以テ充滿サルヽト雖モ先ツ始メニ民法ノ規定及ヒ其立案

者ノ旨意ヲ有ノ儘ニ論述シ而ル後之レカ批評ヲ加ヘ且近世ノ法理如何ヲ示サントス

履行ノ不能カ義務ヲ消滅スヘキ場合

(第一) 履行ノ不能ハ一般ニ義務ヲ消滅セシムヘキ者トス爲シ且履行ノ不能カ義務ヲ消滅スルニ必要ナル條件ニ關シテ民法ハ規定シテ曰ク

第五百三十九條　義務カ特定物ノ引渡ヲ目的トシタル場合ニ於テ其目的物カ債務者ノ過失ナクシテ且付遲滯前ニ滅失シ紛失シ又ハ不融通物トナリタルトキハ其義務ハ履行ノ不能ニ因リテ消滅ス若シ義務カ定マリタル物ノ中ノ數箇ノ目的トシタル場合ニ於テ其一箇ヲモ引渡スコト能ハサルトキハ亦同シ

ト此法文ニ依レハ我民法ニ於テハ履行ノ不能ハ一般ニ義務ヲ消滅セシムルコト明瞭タリ即チ

(甲) 履行ノ不能カ如何ナル場合ニ於テ義務ヲ消滅スルヤ否ヤニ付テハ民法ハ唯左ノ二箇ノ場合ヲ認ムルモノト謂ツ可シ

特定物ノ場合

一、特定物ヲ以テ義務ノ物體トスルトキ　設例ヘハ或確定ナル家屋ヲ賣渡サンコトヲ約シタルニ該家屋ハ火災ニ罹リ燒失シタルヲ以テ之ヲ引渡スコトヲ得サルニ至リタル場合ノ如キ是ナリ故ニ若シ之ニ反シテ定量物ナルトキハ其滅失ハ毫モ義務ヲ消滅セシムルニ足ラサルヘシ何トナレハ定量物ハ義務者ニ於テ何時タリトモ之ヲ市上ニ購求スルコトヲ得ヘケレハナリ

作爲又ハ不作爲ノ義務ノ場合

二、義務ノ物體カ作爲又不作爲ナルトキ　設例ヘハ甲者乙者ニ約スルニ一ノ油畫ヲ作ラシムルコトヲ以テシタル場合ニ於テ甲者偶眼病ヲ患ヘ其明ヲ失ヒタルトキハ甲者ハ其義務ヲ免ルヽコトヲ得ヘシ

右ノ場合ヲ考察シ來ルトキハ總テ義務ハ其物體カ定量物ヲ供與スル場合ノ外履行ノ不能ハ總テ義務ノ消滅ヲ來スニ足ルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ定量物ヲ與ヘントノ義務ハ其本體ニ

履行ノ不能カ義務ヲ消滅スルニ必要ナル條件

於テハ即チ作爲ノ義務ナリ故ニ縱ヒ定量物ノ供與ヲ以テ物體ト爲ス義務ノ場合ト雖モ履行ノ不能ハ必ス其義務ヲ消滅スルニ足ルモノト謂ハサルヲ得ス設例ヘハ「グリスレン」若干壜ヲ與ヘントノ約束ハ定量物ヲ供與セントノ義務ナルコト明瞭ナレトモ契約結了ノ後法律上該物品ヲ以テ不融通物ト爲シタルトキハ特定物ノ場合ニ於ケルカ如ク義務者ハ決シテ之ヲ履行スルノ義務ヲ負フコトナカルヘシ是ニ依リテ之ヲ觀レハ我民法ニ於テハ履行ノ不能ハ常ニ義務ヲ消滅スルトノ原則ヲ以テ一般ニ適用セントノ意ナルコト明ナリ

(乙) 然レトモ我民法カ履行ノ不能ヲ以テ義務消滅ノ原因ト爲スニハ仍ホ之ニ必要ナル一二ノ條件ヲ認メタリ即チ

一、履行ノ不能ハ債務者ノ過失ニ依ラス又ハ遲滯ニ付セラレタル後ニアラサルコトヲ要ス、是レ第五百三十九條中ニ「目的物カ債務者ノ且付遲滯前ニ滅失シ紛失シ又ハ不融通物ト爲リタルトキハ」云々ト明記シ第五百四十條中ニ「第三百三十六條及第三百八十四條ニ從ヒテ遲滯ニ付セラレタルトキハ其債務者ハ前條ノ原因ニ依ルモ其義務ヲ免カレス」ト明記シタルヲ以テ知ルヘキナリ

二、履行ノ不能ナルコトヲ要ス、所謂履行ノ不能ハ特定物ノ場合ニ於テハ民法ハ其物カ滅失シ紛失シ若クハ不融通物トナルコトヲ必要トスルコトヲ明言スレトモ作爲及ヒ不作爲ノ義務並ニ定量物ノ供與ヲ目的トスル義務ニ付テハ不能ノ如何ナル物タルコトヲ明言セス故ニ此等ノ場合ニ於テハ果シテ如何ナル物ヲ以テ履行ノ不能ト爲シ而シテ義務者ヲシテ其義務ヲ免カレシムヘキヤ頗ル不明タルヲ免カレス繪畫ヲ作ラントノ契約ニ於テ義務者其明ヲ失ヒ又ハ「グリスリン」ヲ調合センノ契約

ニ付テ「グリスリン」カ法律ニ據リ俄ニ不融通物ト爲リタル場合ノ如キハ或ハ之ヲ履行ノ不能ト爲スニ似タルコト明白ナレトモ其繪畫ニシテ普通一般ノ畫師カ作リ得ヘキ普通ノ繪畫ニテアリシナレハ如何アルヘキ、又義務者全ク其明ヲ失フト雖モ諾約シタル繪畫ヲ畫キタルカ爲メ其明ヲ失フニ至リタル如キ場合ハ如何又單ニ其明ノ幾分ヲ失フヘキ場合ノ如キハ如何又全ク眼病以外ノ疾病ニ罹リ身體虛弱ト爲リタルトキハ如何是等ハ皆ナ法律ノ明定スル所ニアラス又更ニ「グリスリン」ノ例ヲ假リテ之ヲ言ハンカ法律ハ絶對的ニ不融通物ト爲シタルニアラスシテ唯官ノ許可ヲ得タルモノハ之ヲ賣買スルコトヲ得ヘキモノトナセシトキハ如何即チ其官許ヲ得タル上ニテ之ヲ引渡スノ義務アリヤ否ヤ猶一歩ヲ進メ之レヲ論スルニ民法ハ前ニ論スルカ如ク一般ニ作爲不作爲ノ義務ニ就テハ其履行ノ不能ハ以テ義務ヲ消滅スルニ足ルヘキモノトスレトモ性質上固ヨリ到底爲シ能ハサルノ不能ナルトキハ履行ノ不能ニアラスシテ性質上ノ不能ナルトキハ如何即チ其官許ヲ得タル上ニテ之ヲ引渡スノ義務アリヤ否ヤ猶一歩ヲ進メ之レヲ論スルニ民法ハ前ニ論スルカ如ク一般ニ作爲不作爲ノ義務ニ就テハ其履行ノ不能ハ以テ義務ヲ消滅スルニ足ルヘキモノトスレトモ性質上固ヨリ到底爲シ能ハサルノ不能ナルトキハ履行ノ不能ニアラスシテ性質上ノ不能ナルトキハ如何即チ其官許ヲ得タル上ニテ之ヲ引渡スノ義務アリヤ否ヤ猶一歩ヲ進メ之レヲ論スルニ民法ハ前ニ論スルカ如ク一般ニ作爲不作爲ノ義務ニ就テハ其履行ノ不能ニ關スル眞理

（第二）此ノ如ク履行ノ不能ハ我民法ニ於テハ義務ヲ消滅スルモノトスレトモ反對ノ合意アル場合ニ於テハ固ヨリ履行ノ不能ト雖モ其義務ヲ免カルヽコトヲ得サルモノトセリ即チ第五百四十條ニ債務カ意

外ノ事又ハ不可抗力ニ依ル危險及ヒ災害ヲ擔任シ若クハ第三百三十六條及ヒ第三百八十四條ニ從ヒテ遲滯ニ付セラレタルトキハ其債務者ハ前條ノ原因ニ由ルモ其義務ヲ免カレスト揭ケタルモ亦此意ナリ而シテ其意外ノ事又ハ不可抗力ヲ生セシメタルノ責任ハ債務者ニ在ルコトハ第五百四十一條ノ定ムル所ナリ

是ニ由リテ之レヲ觀ルニ履行ノ不能カ義務ヲ免スルト否トハ當事者ノ意思ノ推測ニ外ナラス然リ而シテ英國法律ニ於テハ如何ニ其推測ヲ設ケタルカハ既ニ學者ノ知ル所ナランナレトモ今英國法ヲ以テ我民法ニ比照スレハ恰モ反對セル原則ヲ說述シタルモノナリ即チ我民法ニ於テハ總テ反對ノ特約ナキ以上ハ履行ノ不能ハ總テ義務ヲ消滅スルモノト爲シタレトモ之ニ反シテ英國法ニ於テハ特約アル場合ノ外履行ノ不能ハ義務ヲ免セサルヲ以テ一般ノ原則トスルモノナリ而シテ孰レカ是孰レカ非ナルヤ予ハ試ミニ先ツ英國法ノ規定ヲ抽出シテ而ル後其是非ノ判斷ヲ下サントス卽チ英國法律ノ規定スル所左ノ如シ

英國法ノ規定

契約ヲ結了シタル後ニ至リテ義務ノ履行カ不能ト爲リタルトキニ於テモ其契約ハ依然トシテ存在スルヤ否ヤ又當事者中ノ何人カ其ノ不能ノ責ヲ負擔セサルヘカラサルカハ契約ノ條欵並ニ情況ニ從ヒ推定スヘキ當事者ノ意思如何ニ在リ或ハ如何ナル事變ニ遭遇スルトモ義務ヲ盡スヘキノ意思ヲ顯ス所ノ契約アルヘク或ハ唯其當時ニ成立スル事實ノ異リタル有樣ニ於テ契約ヲ履行スルノ意味ニシテ事後ニ事實ノ格段ナル有樣ヲ呈スル場合ニ於テハ契約ヲ履行セサルノ意思ヲ存スル契約モアルヘシ是レ皆其情況ニ從ヒ定ムヘキ解釋ノ問題タルニ過キス然レトモ契約後ニ生スヘキ不能ニ關シテ明示又ハ默示ノ約束ナキトキハ契約後ニ生スル不能ハ義務者ヲシテ其責ヲ免レシムルニ足ラス現ニ其義務ヲ盡スコト能ハサルト

キハ之ニ代ヘルヘキ損害ノ賠償ヲナスヘキモノトスルヲ以テ普通ノ解釋法トス何トナレハ義務者ハ絶對的ノ語ヲ用テ其義務ヲ履行スヘキコトヲ約シタレハナリ「法律カ一ノ義務又ハ負擔ヲ設ケタル場合ニ於テ其義務者タル者自己ノ過失ナクシテ之ヲ履行スルコトヲ能ハサルトキハ法律ハ其義務ヲ免ス」ト謂ヘル羅馬法ノ格言ハ唯タ法律カ義務又ハ負擔ヲ設クル場合ノミニシテ契約ニ依リテ義務ヲ負フ場合トハ異ナレリ即チ此原則ハ各人カ自己ノ意思ヲ以テ隨意ノ契約ヲ結ヒ自ラ其自由ヲ以テ其責ヲ負フ場合ニ於テハ意外ノ事變ニ依リ生スル不能ト雖モ尚其責ニ當ラサルヘカラス何トナレハ其責ヲ免カレントスルニ於テハ豫メ契約上之ヲ明言スルコトヲ得レハナリ故ニ反對ヲ明言シ又ハ默示セサル場合ニ於テハ履行ノ不能ハ決シテ契約ノ義務ヲ生スルニ足ラサルモノトセサルヘカラス是レ法律上確乎動スヘカラサルノ定規先例タリ設例ヘハ雇船契約ヲ爲スノ場合ニ於テ船主カ或一定ノ期日迄ニ或荷物ヲ一定ノ港ニ運送センコトヲ契約シタルトキハ逆風雨天等ノ爲メ約束ノ期日ニ之ヲ送達スルコト能ハサリシトキハ特ニ明約アル場合ノ外船主ハ其損害ヲ賠償セサルヘカラス何トナレハ船主ハ如何ナル方法ニ由リテ其荷物ヲ指定港ニ送達スルヤ否ヤノ方法ニ至リテハ敢テ權利者ノ與リ知ラサル所ナレハナリ又船舶ニ登載セル荷物ヲ一定ノ期日ニ船卸スルコトヲ契約シタルトキハ雨天暴風等ノ爲ニ約束ノ期限ヲ違ヘタルトキハ均ク其責ニ任セサルヘカラス又一箇ノ橋梁ヲ建築シ又一定ノ期間修繕ヲ契約シタル場合ハ洪水ノ爲メ橋梁カ流失スルニ至ルモ尚ホ之ヲ再築スルノ義務ヲ免カルヘカラス此ノ如ク履行ノ不能カ義務ヲ消滅スルニ足ラサルハ解釋上ノ推測法タルニ過キサルヲ以テ當事者ニ於テ明示若クハ默示ノ特約ニ由リ其責ヲ免カレ得ヘキハ當然ナリ

故ニ雇船契約書中ニハ「天災地變又ハ外患海難等ヲ除ク」ナル一句ヲ挿入スルカ通例ナリ是レ一般ノ原則ニ反シタル特例ニシテ又今日ノ慣習上特約ナキ場合ニ於テハ總テ意外ノ事變ニ就テハ其責ヲ負フトスルハ普通ノ理想ナルヲ見ルヘシ而シテ此等ノ除外法ハ解釋法ノ原理ニ依リ極メテ嚴密ニ解釋セラルヘシ

右ノ如キ明示ノ特約ノ外尚默示ノ特約ニ依リ例外ヲ設クルノ場合少ナカラス設例ヘハ義務ノ物體カ義務者ノ一身ニ固着スヘキ所爲ニシテ而シテ其所爲カ義務者ノ有スル或資格ノ存在ニ關スル場合ニ在テハ其契約ノ目的上當事者ハ唯其資格ノ繼續中ニノミ其義務アリトスルノ意思ナリト推定セサルヲ得ス即チ婚姻ヲ爲サントノ契約ハ當事者ノ生存ヲ條件トスルモノニシテ當事者中ノ一方カ死亡スルトキハ當然契約ハ消滅シ其義務ハ決シテ相續者ニ移轉セス又債務者ノ生存間ニノミ履行シ得ラルヘキ固有ノ作爲ハ其人ノ死

亡又ハ疾病ノ爲メ現ニ之ヲ履行スル能ハサルニ依テ消滅スヘシ設例ヘハ名家カ山水ノ畫幅ヲ作ラントノ契約ノ如キ是ナリ其他或特定物ヲ供與シ或ハ特定物ヲ使用セシメ其他特定物ニ關スル契約ハ其特定物ノ存在ニ依リテ始メテ履行セラルヘキヲ以テ特定物ニシテ消失セハ義務モ亦消滅スヘシ何トナレハ當事者雙方ハ該特定物ノ存在ヲ目的シタレハナリ

（第三）英國法ノ規定スル所前陳ノ如シ予ハ之ヲ以テ我國ノ民法ニ比照スレハ或ハ大ニ實際ニ適シ又理論ニ適フノ點ナシト謂フコトヲ得サルヘシト信スト雖モ予ハ今玆ニ敢テ二者ヲ比照スルノ勞ヲ取ラサルヘシ唯讀者ハ上來陳述シタル英國法律ノ說明ニ依リテ履行ノ不能ニ關スル原理ヲ了解スルノ便宜ヲ與フルニ十分ナリト信セリ故ニ予ハ更ラニ一步ヲ進メ直ニ理論上契約ノ不能ニ關スル規定ヲ批評セントス

（イ）予ハ我民法起草者ノ意見如何ヲ知悉セスト雖モ履行ノ不能ニ關スル規定ハ唯解釋上ノ推測法タルニ過キサルヲ以テ履行ノ不能ノ事實ノ生スルト同時ニ當事者ノ義務ヲ當然消滅スルモノトスルハ蓋シ誤レリ縱ヘ履行ノ不能ノ原因ニシテ一旦存在シ其ノ後ニ至リ再ヒ可能トナリタルトキハ如何此ノ塲合ニ於テハ先ツ履行ノ不能トナリタルハ履行スヘキ時期以前ニ在ルト以後ニ在ルトヲ區別セサルヘカラス而シテ其履行ノ不能カ履行期限ノ到着以前ニ於テ不能ト爲リ又ハ可能ト爲リタルトキハ義務ハ決シテ消滅シタルモノト謂フヘカラス然レトモ履行期限ノ既ニ到達以後ニ生シタル可能ナルトキハ決シテ義務者ヲ束縛スルニ足ラサルヘシ然レトモ若シ履別ノ不能ノ發生シタルトキハ當然義務ヲ消滅スヘキモノトスルトキハ縱ヘ再ヒ生シタル可能ノ事件ハ履行期限以前ニアリトモ既ニ一旦消滅シタル義務カ何トテ再ヒ舊ニ復スヘキヤ又何トテ新ニ發生スヘキヤ無ヲ有ニ爲スハ論理上決シテ爲シ能ハサルノコトタルヘシ故ニ予ハ斷言セント欲ス履行不能ノ事實カ義務ヲ消滅スルモノニアラスシテ當事者ノ意思即チ合意カ義務ヲ消滅セシムヘキモノナリ是ニ依リテ之ヲ見レハ客觀的ニ履行不能ヲ以テ義務消滅ノ原因ト爲スハ甚タ其當ヲ得タルモノト謂フヘカラス

（ロ）民法ニハ作爲不作爲ヲ物體ト爲ス義務ハ履行ノ不能ニ依リ義務ヲ消滅スルコトヲ明記スレトモ履行ノ不能ニ依リ果シテ義務カ消滅スルモノナラハ義務者ハ決シテ之ニ對シテ賠償ノ義務ヲ負擔セサルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ民法ニ明記スルカ如ク賠償ハ義務履行ノ一方法タルニ過キサレハナリ故ニ法律上履行ノ不能ハ義務ヲ消滅スルト謂ヘル以上ハ義務者ニ於テ損害ヲ賠償スルノ義務ヲモ亦免カルモノトセサルヲ得ス法理果

履行ノ不能ノ場合ニ於ケル損害賠償

シテ然ルカ予ノ甚タ疑フ所ナリ但シ彼ノ確定物賣買ノ場合ニ於テ確定物ニシテ滅失スル以上ハ引渡ノ義務ハ必スヤ消滅スルナラン然レトモ確定物ノ賣買ハ合意ノ當時ニ直ニ所有權ヲ買主ニ移轉シ賣主ハ唯其引渡ヲ爲スノ義務ノミヲ有スルニ過キサルヲ以テ其確定物ニシテ滅失シタルトキハ其損失ハ所有者即チ買主ニ於テ負擔スルコト當然ナレハ賣主ハ其確定物ノ代價ニ相當スル損失ヲ賠償スルノ義務ナキコト明ナリ故ニ確定物ニシテ消失シタルトキハ賣主カ引渡ノ義務モ亦當然消滅シテ損害賠償ノ義務ナカルヘシ

（ハ）履行ノ不能ニ依リ義務カ消滅シタルトキニ於テ義務者ハ毫モ損害賠償ノ責ナシトスルトキニハ雙務契約ノ場合ニ於テハ義務者ハ債權者ニ對シテ既ニ出捐シタルモノニ付其取戻ヲ請求シ得ルコト當然ナリ然ラサレハ債權者ニ於テ不當ノ利益ヲ得ルニ至ルヘケレハナリ第五百四十二條ニ「債權者カ履行ノ不能ニ因リテ義務ヲ免カレタルトキハ其債務者ハ己レノ受取ル可キ對價ニ付テハ其履行ノ爲メ既ニ出捐シタル限度ニ於テノミ權利ヲ有ス」云々ト明揭シタルモ即チ此意ナリ設例ヘハ金五千圓ヲ以テ一種ノ火藥ヲ製造センコトノ契約ヲ爲シ其製造ノ材料トシテ千圓ノ資金ヲ投入シタル後法律ニ因リテ斯ル火藥ノ製造ヲ禁止シタルトキハ義務ハ履行ノ不能ニ依リテ消滅スヘケレトモ債務者ハ債權者ニ對シテ既ニ投シタル資金ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ルカ如シ

（ニ）我民法ハ第三者ノ過失ニ依リテ義務ノ物體ノ不能ト爲リタル場合ニ於ケル補償時限ヲ設ケタリ第五百四十三條ニ「物ノ全部又ハ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ其滅失ヨリ第三者ニ對シテ或ル補償訴權ノ生スルトキハ」云々ト記載セリ設例ヘハ第三者カ或義務ノ物體タル確定物ヲ毀損シタル場合ノ如キハ債權者ハ第三者ニ對

シテ損害賠償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第八節　銷除

第一款　銷除ノ本義

合意ニ有効ナル多要ノ條件ハ第三百五條ノ規定ニ付テ論述シタリシカ其所謂條件トハ承諾ノ瑕疵ナキコト及ヒ當事者ノ能力アルコトノ二ニシテ之ヲ合意ノ成立ニ必要ナル條件ト區別セリ而シテ其第一條件タル合意ノ能力ナキモノトハ未丁年者、有夫ノ婦、瘋癲、喪心及ヒ犯罪ノ原因ニ依リタル禁治産者、聾唖又ハ財産浪費等ノ原因ニ依リタル準禁治産者等ヲ包含シ第二條件タル瑕疵ノ中ニハ暴行、強迫、錯誤及ヒ詐欺等ノ場合ヲ包含セルコトハ既ニ前ニ之ヲ論述シタルヲ以テ讀者ハ之ヲ了知スヘシ而シテ此ノ如キ合意ニ有効ナル二條件ノ一ヲ缺キタル合意ハ合意ノ結果ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキカ此點ニ付キテハ互ニ相反對シタル二種ノ主義アリ第一種ヲ追認主義ト云ヒ無能力者

追認主義及ヒ銷除主義

民法ノ銷除主義

ハ其能力ノ發生シタル後又瑕疵ハ詐欺強暴等ヲ發見シタル後ノ期間内ハ無能力中又ハ詐欺強暴ヲ發覺セサル前ニ於テ取結ヒタル合意ヲ追認スルノ權アリトシ而シテ其一定ノ期間ヲ過クルトキハ合意ハ當然無効タルヘキモノトスルニ在リ第二種ヲ銷除主義ト云ヒ無能力中又ハ詐欺強暴ノ未發覺中ニ取結ヒタル合意ハ其能力ヲ復シ又ハ瑕疵ヲ發見シタル後一定ノ期間内ニ於テ之ヲ銷除シ無効トスルノ權利ヲ有スレトモ該期間ヲ過クルトキハ其合意ハ當然有効タルニ至ルモノトセルニ在リ而シテ此主義相互ニ利害得失アリト雖モ我民法ハ全然銷除主義ヲ採レリ即チ第五百四十四條ニ曰ク

無能力者又ハ錯誤ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人又ハ強暴若クハ詐欺ニ因リテ承諾ヲ獲ラレタル人ノ約シタル義務ハ五ケ年ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ履行ノ訴ニ對シ此等ノ者ヨリ爲シタル抗辯ニ因リテ裁判上之ヲ銷除スルコトヲ得

ト此法文ニ依リテ之ヲ見ルトキハ無能力者又ハ詐欺強暴ニ因リ取結ヒタル合意ノ義務者ハ後日ニ至リ唯其義務ヲ銷除スルノ義務ヲ有スル者ナルヲ知ル可シ而シテ該銷除權ハ或ハ銷除訴權トシテ自ラ之ヲ行ヒ得ヘク又ハ被告トシテ義務ノ履行ヲ請求セラレタル場合ニ於テ妨訴トシテ之ヲ行フコトヲ得ヘシ而シテ又該銷除訴權ハ一定ノ期間即五ケ年ノ時効ニ因リテ消滅シ無能力中ニ負フタル義務又ハ詐欺強暴ニ依リ負フタル義務ヲシテ全ク有効ト爲ラシム可シ設例ヘハ幼者ナル甲カ未丁年者ナル乙ニ約スルニ或物品ヲ製造セシトノ義務ヲ以テシタルトキニ於テ幼者若シ丁年ニ達シテ其自己ニ不利益ナルコトヲ了知シタルトキハ五ケ年以内ニ在リテハ之ヲ銷除シテ其義務ヲ無効ト爲スノ權利ヲ有スレトモ知ラス識ラス五ケ年ヲ經過シタルトキハ幼者ハ法律上有効ノ義務トシテ其責ニ任セサルヘカラス是レ我民法ハ當事者ノ能力ヲ以テ單ニ既ニ存在セル義務ヲ有効ナラシ

ムルニ必要ナルノ條件ト爲シ義務ノ成立ニ必要ナル條件トセサルノ主義ニ原因セサル結果ナルハ我民法ニ於テ敢テ怪ムニ足ラスト雖モ斯ル畫一ノ原則ヲ以テ幼者又ハ瘋癲者等ノ如キ承諾ヲ爲スノ能力ナキモノニ適用セルハ法律カ大ニ無能力者ヲ保護セントスルノ原則ニ反スルモノト謂ハサルヲ得ス何トナレハ幼者又ハ瘋癲者カ丁年後ニ銷除ノ權ヲ行ヒ得ルニハ自ラ之ヲ證明スルノ材料ヲ保存スルノ責ニ任セサルヘカラサレハナリ蓋シ人類普通ノ觀念ニ於テ詐欺強暴等ニ因リテ丁年者カ合意ヲ爲スノ場合ト幼者又ハ瘋癲者等現ニ法律上承諾ヲ與フルノ能力ナキ者カ合意ニ依リ義務ヲ負擔スル場合トハ固ヨリ之ヲ同一視スヘキ者ニアラス此ノ如キ幼者カ爲シタル合意ハ最初ヨリ合意ノ成立ヲ害スヘキモノトナシ成年ニ達シタル後又ハ瘋癲ノ治癒シタル後ニ於テハ宜ク之ニ與フルニ唯其義務ヲ追認スルノ權ヲ以テスヘクシテ單ニ之ヲ銷除スルノ權ヲ以テスルニ止マラサルコト

ヲ要ス但シ我民法ノ起案者モ此點ニ付テハ幾分ノ良心ヲ鼓動シタルモノト見ヘ第五百四十五條第二項ノ規定ニ因リ權利者ニ負ハシムル義務者カ曾テ承諾シタル義務ノ存在スルコトヲ通知スルノ義務ヲ以テシ其ノ通知ヲ與ヘサル以上ハ一定ノ期間ヲ經過スト雖モ尚ホ其義務ヲ銷除スルノ權ヲ以テセリ要スルニ我民法ノ起案者ハ極メテ畫一ノ主義ヲ採リ如何ナル塲合ヲ問ハス無能力者ノ爲シタル合意ハ其能力ノ復シタル後ニ於テ唯之レヲ銷除スルノ權利アルニ過キストナシ義務ハ法律上既ニ成立スルモノト看做シタルニ外ナラスシテ十分實際ノ情況ニ適合スヘキ細密ノ思想ヲ費シタルモノニアラサルヲ知ルヘシ畫一主義ハ常ニ微弱ナル精神ニ存スルトノ確言ハ實ニ我輩ヲ欺カサルナリ、法律ヲ以テ實際ニ人間社會ノ行爲ヲ支配スルトスル羅馬法ニ於テハ未丁年者ノ年齡ヲ以テ之ヲ數段ニ區別シテ各塲合ニ應シテ法律上ノ行爲ヲ行フノ能力ヲ區別シ又實際ニ適切ナル英法ニ於

テモ敢テ單一ノ規定ヲ以テ萬種ノ塲合ヲ裁斷スルコトナシ予ハ試ミニ未丁年者ノ爲シタル合意ニ關シ左ニ英法ノ大概ヲ示シテ以テ讀者ノ參考ニ供セン

幼者カ其幼年中ニ取結ヒタル契約ヨリ生スル權利義務ニ關スル法律ハ近世ノ民法ニ依リ大ニ變更セラレタルヲ以テ今普通法ノ如何ヲ論スヘシヲ考察シ而シテ後其變更ノ如何ヲ論スヘシ

普通法ニ於テハ一般ニ幼者ノ取結ヒタル契約ハ何時ニテモ幼者ノ隨意ニ之ヲ無效トナスコトヲ得ヘキモノナレトモ二個ノ例外アリ第一ハ其契約ハ幼者ノ生活ニ必要ナル物品ヲ取引スルニアリタルトキ第二ハ丁年ニ達シタル後該契約ヲ追認シタルトキハ何レモ有效トナス而シテ第一ノ例外ハ措テ論セス今第二ノ例外ニ付キ之ヲ論センニ學者ノ議論區々ニシテ歸着スル所ヲ知ラスト雖モポロツク氏ノ如キハ幼者ノ取結ヒタル契約ハ當然無效ニアラス唯幼者ノ

意ニ隨ヒ無効トナスコトヲ得ヘキモノニ過キサルヲ以テ幼者ハ丁年ニ達シタル後ニ於テ其契約ヲ追認スルニ過キストスレトモ此ノ如キ塲合ハ唯双務ノ契約ニ於テ幼者ノ對主カ既ニ其義務ヲ履行シ幼者ノミ獨リ其義務ヲ負フヘキ或ル僅少ノ塲合ノミニ限ルヘキヲ以テ此原理ヲ以テ一般ノ未行契約ニ適用ス可カラス抑追認ニ二種アリ第一種ハ幼者カ契約ヲ取消サヽル以上ハ依然其契約ヲ有効トシ第二種ハ幼者カ該契約ヲ追認スルニアラサレハ當然無効トスルニ在リ而シテ幼者カ契約ニ依リテ既ニ利益ヲ領得シ畢リタル塲合ニ於テハ其契約ハ第一種ノ追認ニ屬シ幼者カ未タ其利益ヲ領得セスシテ契約カ未行ナル塲合ニ於テハ第二種ノ追認ニ屬ス故ニ英國ノ普通法ニ於テハ或塲合ニ依リテハ幼者ノ爲シタル契約ヲ當然無効トナシ丁年後ノ追認ニ依リテ始メテ有効ノ契約トナスコトヲ得ルノ權利ヲ幼者ニ與ヘ又或塲合ニ依リテハ幼者ノ爲シタル契約ハ

依然成立シテ幼者ニ於テ取消スニアラサレハ無効トセス而ルニ英國ニ於ケル實際ノ狀況ハ尚或ル塲合ニ於テモ銷除主義ヲ許サヽルノミナラス更ニ追認主義ヲモ許サヽル必要ヲ來シ千八百七十四年ノ幼者保護條例ニ依リ幼者ハ如何ナル塲合ヲ問ハス決シテ契約ニ因リ全ク義務ヲ負フヘキ能力ナキモノトナシ幼者中ニ爲シタル契約ハ丁年ニ達シタル後幼者ニ於テ之ヲ追認スルモ決シテ契約ヲ有效トスルニ足ラサルモノトナシ縱ヘ幼者カ丁年後ニ於テ該契約ヲ追認シタルモ幼者ノミ獨リ其契約ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘキモ其反對ニ於テ權利者ハ幼者ニ對シテ義務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ストセリ

是ニ依リテ之ヲ觀ルトキハ英國法ノ原理ハ佛國法ニ摸倣シタル我民法ノ原理ト極端ニ依リテ全ク其主義ヲ異ニセルヲ知ルヘシ世ニ佛國法ヲ以テ天下普通ノ法理ト爲ス者アリ一葦水ヲ隔テヽ法律上此雲泥

ノ差アルモノ夫レ果シテ如何ソヤ

第二款　銷除權ノ發生

義務ヲ銷除スルノ權ハ一般ニ合意ノ有効ナルニ必要ナル二條件ヲ缺クトキ即チ合意ノ當事者ニ能力ナキカ又ハ承諾ニ瑕疵アル場合ニ於テ發生スヘキハ既ニ前款ニ於テモ論述シタル所ノ如クナレトモ仍ホ民法ハ特ニ左ノ場合ヲ認メ且之ヲ區別シタリ即チ

後見人ノ行爲

第一、後見人ノ行爲　未成年者又ハ禁治產者等ノ無能力者ノ財產ニ關シテハ後見人ハ法律上ノ代人トシテ有効ニ無能力ノ爲メニ合意其他ノ權利行爲ヲ爲スコトヲ得ヘキハ當然ナレトモ法律ハ或場合ニ於テハ此等無能力者ノ利益ノ爲メ後見人ニ於テ一定ノ方式及ヒ條件ヲ遵守スヘキコトヲ必要トスルコトアリ而シテ後見人ニ於テ若シ此方式又ハ條件ヲ遵守セスシテ右等無能力ノ爲メニ合意又ハ其他ノ行爲ヲ爲シタルトキハ法律ノ必要トスル條

無能力者ノ行爲

件ヲ具備セサル合意又ハ行爲ナルヲ以テ之ヲ銷除スルコトヲ得ヘシ第五百四十七條第一項ニ「未成年者又ハ禁治產者ノ財產ニ關シ後見人ノ爲シタル合意及ヒ行爲ハ無能力者ノ利益ノ爲メ法律ノ定メタル方式及ヒ條件ヲ遵守セサリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ得」ト謂ヘルハ即チ此意ナリ故ニ法律ニ於テ一定ノ方式又ハ條件ヲ必要トセサル合意又ハ其他ノ行爲ニ付テハ後見人ノ獨斷ニ依リ有効ニ之ヲ爲シ得ルコトヲ得サルヘシ

第二、無能力者ノ行爲　無能力者自身ノ爲シタル合意及ヒ其他ノ行爲ノ効力如何ニ就テハ法律上一定ノ方式又ハ條件ヲ要スル場合ト否トヲ區別セサルヘカラス

(甲) 未成年者自治產ノ未成年者及ヒ準禁治產者ノ行爲ニシテ法律上特別ナル方式及條件ニ依ルコトヲ必要トスル場合ニ於テ

ハ此方式又ハ條件ヲ缺クノ一事ノミニシテ其行爲ヲ銷除スルコトヲ得(第五百四十七條第二項)

(乙) 未成年者一人ニテ法律上ニ特別ナル方式又ハ條件ヲ必要トセサル合意又ハ其他ノ行爲ヲ承諾シタルトキハ其未成年者ノ爲メ缺損アルトキノミニ於テ銷除ノ權ヲ有スヘク又未成年者及ヒ準禁治產者ノ爲シタル行爲カ法律上保佐人ノ立會ヲ要スル場合ニ於テ此立會人ナクシテ爲シタルモノナルトキハ缺損アル場合ノミニ於テ銷除ノ權ヲ有スヘシ即チ此場合ニ於テハ合意其他ノ行爲カ未成年者ノ爲メニ缺損アルト否トニ依リ銷除權ノ有無ヲ定メサルヘカラサルモノナレトモ其所謂缺損トハ如何ナルモノナルヤ否ヤニ就テハ民法ハ特ニ之ヲ明言スルコトナシト雖モ立案者ノ意見ニ從ヘハ未成年者ノ爲シタル合意又ハ其他ノ行爲カ未成年者ノ爲メニ損害ヲ來シ又ハ未成年者ノ爲メ無益不必要ナル場合ヲモ包含セラルモノナルニ似タリ而シテ又其所謂缺損ナルモノハ行爲ノ時ニ於テ之ヲ見積ルヘク決シテ其銷除訴權ヲ行フトキニ就テ見積ルコトヲ得スト何トナレハ行爲以後ニ於ケル偶然ノ事件ニ原因スル缺損ハ素ヨリ未成年者ノ自ラ負擔セサルヘカラサルモノナレハナリ(第五百四十八條)

(丙) 未成年者一人ニテ獨斷スルコトヲ得ヘキ行爲即チ未成年者一人ニテ保佐人ヲ要セス又方式若クハ條件ヲモ要セサルモノハ素ヨリ有效ニシテ銷除權ナキハ明白ナリ又縱ヒ性質上ニハ保佐人ノ立會ヲ要シ若クハ方式條件ヲ必要トスル行爲ニ係ル場合タリトモ不動產ノ讓渡ヲ除クノ外商業又ハ工業ヲ營ムノ許可ヲ得タル自治產ノ未成年者ノ其營業ニ關スル行爲ハ成年者ノ行爲ト均ク有效ニシテ決シテ之ヲ銷除スルコトヲ得サル

ヘシ(第五百五十條)又之レニ反シ苟モ未成年者ニシテ銷除ノ權ヲ有スル以上ハ行爲ヲ承諾スルノトキニ於テ未成年者カ成年者ト同視スルコトヲ得ス故ニ婦ノ行爲ハ配偶者相互ノ權利及ヒ本分ニ關シ人事編ニ規定シタル塲合ニアラサレハ婦又ハ夫ノ請求ニ依リテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス(第五百五十一條)

ナリト陳述シタルノミニテハ詐術ヲ用ヒタル塲合ノ外決シテ之レカ爲メニ銷除訴權ヲ妨クルコトナカルヘシ否ラサレハ思慮ノ未熟ナル未成年者ヲ保護スルコト能ハサルニ至レハナリ(第五百四十九條)

(丁) 禁治產者ノ行爲ハ法律ニ於テ特別ナル方式條件ヲ要スル塲合ト否トヲ問ハス其行爲ヲ銷除スルノ權アリ(第五百四十七條第二項末文)

第三、婦ノ行爲 婦モ亦法律上ノ無能力者ナレトモ何レモ之ヲ未

婦ノ行爲

第三款 銷除ノ結果

銷除權ヲ行フタルトキノ結果ハ左ノ如シ

第一、成年者ノ爲シタル合意其他ノ行爲ニ付キ承諾ノ瑕疵ヲ理由トシテ其行爲ノ銷除ヲ得タルトキハ一旦成立シタル合意ハ消滅シテ當事者雙方ヲシテ嘗テ合意ナカリシ塲合ト同一ノ地位ニ復サシムルヲ以テ銷除セラレタル合意ノ爲メ既ニ受取リタル一切ノ物ハ悉ク之ヲ返還セサルヘカラス否ラサレハ不當ノ利得ヲ留保スルノ理トナルヘシ(第五百五十二條第一項)

第二、若シ又當事者ニ能力ナキカ爲メニ合意又ハ其他ノ行爲ヲ銷除セルモノナルトキハ無能力者ハ現ニ其手中ニ存在スル物又ハ己レヲ利シタル物ノミヲ返還スルノ責ニ任ス設例ヘハ酒一石ノ賣買ヲ爲シタル後ニ於テ幼者其行爲ヲ銷除シタルトキハ半石ヲ以リ四半石ナリ現ニ其手中ニ存スル現物ヲ返還スルノ責ニ任スヘ

ノ又タ幼者カ其所有物ヲ賣拂タル代價ヲ以テ家屋其他ノ必要物ヲ買求メタルトキハ幼者ハ代價ヲ返還スルノ義務アリト雖モ若シ之ヲ以テ遊興ノ費用ニ充テタルトキハ其代價ヲ返還スルノ責任ナカルヘシ(第五百五十二條第二項)

第三、不動産ノ讓渡カ無能力錯誤又ハ強暴ノ瑕疵ニ因ル銷除ニ服スルトキハ第三百五十二條及第三百五十三條ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ第三取得者ニ對シテ其銷除ヲ爲スコトヲ得(第五百五十三條)

右等ノ場合ニ於ケル物ノ返還ヲ要求スル訴權ハ一旦銷除訴權ヲ行ヒタル結果ヨリ生スル訴權ナルヲ以テ其時効ハ通常ノ時効ニ因リテ始メテ消滅スヘシト雖モ銷除訴權自身ハ第五百四十四條ノ時効ニ依リテ消滅スヘシ但銷除訴權ニシテ已ニ時効ニ係ルトキハ銷除ノ結果トシテ受取リタル物ノ返還ヲ要求スルノ權モ亦從テ滅失スヘキハ當然ナリ(第五百五十二條末項)

銷除權ノ消滅

時効ニ依ル銷除權ノ消滅

第五百五十四條ニ曰ク「銷除訴權ハ第五百四十四條乃至第五百四十六條ニ定メタル時効ニ依リテ消滅スルノ外第五百四十五條ニ從ヒテ時効ノ進行ヲ始メタル後利害關係人カ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ明示又ハ默示ニシテ認諾シタルトキハ之レヲ行フコトヲ得ス」ト是ニ由リテ之ヲ觀レハ銷除訴權ハ時効及ヒ認諾ノ二原因ニ依リテ消滅スルモノタルヲ知ルヘシ予ハ序ヲ逐フテ左ニ各原因ヲ論述セン

第一段　時効ニ依ル銷除權ノ消滅

銷除權ハ之ヲ行ハスシテ五年ヲ經過スルトキハ時効ニ依リテ消滅シ從來銷除權ヲ行ヒ得ヘカリシ合意其他ノ行爲ハ有効完全ノ行爲ニ化シ苟モ此期限ヲ經過スルトキハ抗辯ノ方法ニ於テモ亦合意ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ス是レ我民法ハ銷除權ノ附帶スル合意ハ既ニ成立スルモノニシテ對手ハ單ニ之レニ對シテ銷除權ヲ有スルニ過キスト

スルノ原則ヨリ來ル自然ノ結果ナリ(第五百四十四條)而シテ此五ケ年ノ期限ヲ起算スルノ時期ニ就テハ民法ハ左ノ規定ヲ設ケタリ

第一、強暴ニ付テハ強暴ノ止ミタルトキヨリ錯誤ニ付テハ錯誤ヲ了知シタルトキヨリ詐欺ニ付テハ其詐欺ヲ發見シタルトキヨリ又無能力ニ付テハ無能力ノ止ミタルトキヨリ時効經過ノ期限ヲ起算ス(第五百四十五條第一項)

第二、右ノ原理ヲ推及スルトキハ瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治産者ノ合意モ亦其者カ能力ヲ復シタルトキヨリ時効經過ノ期限ヲ起算スヘキモノナルコト素ヨリ當然ナリト雖モ既ニ前歟ニ於テ論述シタルカ如ク我民法ハ此等ノモノニ與フルニ單ニ合意ヲ銷除スル權ヲ以テシ當然之ヲ無効トスルモノニアラサルヲ以テ大ニ此等ノ無能力ヲ保護スルノ精神ヲ貫徹スルコト能ハス故ニ法律ハ此不都合ヲ救濟スルノ意ナルニヤ此等ノ場合ニ於テハ單ニ能力ヲ復シタルトキヨリ時効ヲ起算スルノ原理ヲ捨テ能力ヲ復シタル後ニ於テ更ニ一種ノ通知ノ義務ヲ對手ニ負ハシメ曰ク「右時効ハ其者カ能力ヲ復シタル後ヲ其承諾シタル行爲ノ通知ヲ受ケ又ハ其行爲ヲ了知シタル時ヨリ進行ス」(第五百四十五條第二項)但シ該法文中「又ハ其行爲ヲ了知シタル云々」ト謂ヒ又ハノ二字ヲ以テ輕ク前後ノ句ヲ連續シタルヲ以テ見レハ我民法ハ通知ノ義務ノ事ニ別段ノ重キヲ置キ瘋癲等ハ之レヲ了知スルモ通知ヲ受ケサレハ時効ヲ進行セストセルモノニアラサルカ如シ唯瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治産者ハ現ニ合意其他ノ行爲ニ付キ全ク承諾ヲキモノナレハ唯其行爲ノアリタルコトヲ知リタルトキヲ以テ時効進行ノ起點ヲ爲シタルニ似タリ若シ立案者ノ意ニシテ果シテ然ラハ予ハ我民法カ此等ノ無能力者ノ爲シタル合意ヲ以テ依然トシテ成立スルモ單ニ有効條件ヲ缺クニ過キサルモノトスルノ

原理ト相牴觸スルモノト云ハサルヲ得サルナリ

第三、治産ヲ禁セラレタル處刑ニ付テハ銷除ノ訴權及ヒ抗辯ハ自他ノ爲メ其刑期滿了ノ時ヨリ時效經過ノ期限ヲ起算ス即チ此場合ニ於テハ處刑人幷ニ對手モ共ニ刑期滿了後五ケ年間ヲ經過スルニ非サレハ銷除權ヲ失フコトナカルヘシ(第五百四十五條第三項)

第四、銷除權ハ權利者ノ死亡ニ依リ其相續人ニ移轉スヘキハ當然ナレトモ其相續人ニ就テハ如何ニ時效經過ノ期限ヲ起算スヘキカ民法ノ規定ヲ分析スレハ即チ左ノ如シ(第五百四十六條)

(イ)時效カ死亡者即チ先主ニ對シテ未タ進行ヲ始メサルトキハ相續人ノ銷除權ハ其相續ノ時ヲ以テ時效經過ノ起點トス但シ其相續人ニ付テモ亦時效ノ經過ヲ停止スヘキ原因ノ存スルモノアルトキハ格別ナリ

(ロ)死亡者即先主ニ對シテ既ニ時效ノ進行ヲ始メタルトキハ時效經過ノ起算點ハ既ニ確定セルヲ以テ其時ヨリ時效ノ期限ハ經過スヘシ即チ相續人ノミニ付テ云ハヽ相續人ノ銷除權ハ殘期ノ經過ヲ以テ消滅スヘシ設例ヘハ未成年中ニ爲シタル合意ハ丁年ニ達シタルトキヨリ銷除權ノ時效ノ經過ヲ起算スヘキヲ以テ丁年ニ達シタル後三年ニシテ死亡シ其相續人ニ於テ其權利ヲ相續ナシタルトキハ其繼承ノ時ヨリ二年ノ後ニ至リ銷除權ハ時效ニ於テ消滅スヘシ但證據編第百二十九條ニ記載セル停止ノ塲合ハ此限ニアラス

其他銷除權ノ時效ニ依ル消滅ニ付テハ免責時效ノ停止及ヒ中斷ノ通常ノ原因ニ關スル規則ヲ適用ス(第五百四十五條末項)又既ニ論スル如ク銷除權ノ時效ハ錯誤ニ付テハ錯誤ヲ覺知シタルトキヨリ起算スト雖モ單ニ算數、氏名、日附又ハ塲所ノ錯誤ハ既ニ前章ニ於テ論述シタル

カ如ク承諾ノ瑕疵ヲ爲スヘキモノニ非サルヲ以テ此等ノ誤錯ノ改正ヲ目的トスル訴權ハ決シテ時効ニ依リテ消滅スルコトナカルヘシ但シ此訴權ノ附屬スル權利ノ時効ニ係ルコトヲ妨ケス設例ヘハ酒一樽ニ付五圓宛ニテ十樽ヲ賣却スルニ方リ其計算ヲ誤リ百石ノ代價合計五百圓トスヘキヲ五十圓トナシタル塲合ニ於テ此計算ノ錯誤ヲ改正スルノ訴權ハ決シテ其錯誤ヲ了知シタルトキヨリ五ケ年ヲ經過スルモ時効ニ依リテ決シテ消滅スルコトナカルヘシ唯其訴權ノ附屬スル權利即チ誤算上ノ殘額四百五十圓ノ權利ハ通常ノ時効ノ期限ヲ經過スルニ依リテ消滅スヘキハ固ヨリ當然ナルヘケレハ其錯誤ヲ改正スルヲ目的トスル訴權モ亦從テ普通ノ時効ノ期間ニ依リテ消滅スヘキハ素ヨリ當然ナリ

認諾ニ因ル銷除權ノ消滅

第二段　認諾ニ由ル銷除權ノ消滅

認諾ハ時効ノ期間カ其經過ヲ始メタル後ニシテ而シテ未タ五ケ年即チ時効期間ノ滿了ニ至ラサル前ニ於テ有効條件ヲ缺キタル合意ヲ有効トスル方法ナリ學者往々此認諾ヲ以テ有効條件ヲ缺キタル合意ノ追認ト同視スルモノアレトモ認諾ト追認トハ其性質大ニ異ルモノナルコトヲ注意セサルヘカラス即チ追認ハ本來ノ有効ナラサル合意自身ヲ丁年ニ達シタル後又ハ合意ノ瑕疵ヲ了知シタル後ニ於テ有効トナスノ方法ナレトモ認諾ハ毫モ本來ノ合意自身ニ關係スルモノニアラスシテ唯銷除權ヲ適用スルモノニ過キス故ニ認諾ノ結果ハ唯債務者ノ有スル訴訟上ノ權利ヲ消滅セシムルニ過キサルナリ此認諾ニ明示及ヒ默示ノ二方法アリ即チ左ノ如シ(第五百五十四條)

明示ノ認諾

第一　明示ノ認諾

明示ノ認諾ニ付テハ法律ハ左ノ規定ヲ設ケタリ曰ク

第五百五十五條　明示ノ認諾ハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ要旨及ヒ其銷除ノ原因ヲ記シ且銷除訴權ノ拋棄ヲ述ヘタル明白ナル證

書ニ因リテ成ル

銷除ノ數個ノ原因アルトキハ明示ノ認諾ハ特ニ記シタル原因ニ付テノミ其効ヲ生ス

ト此法文ニ依レハ明示ノ認諾ナルニ付テハ法律ハ左ノ三條件ヲ必要トスルヲ知ルヘシ

一、明示ノ認諾ハ認諾ナルヘキ銷除權ノ付着スル合意ノ要旨ヲ記載スルコト

二、銷除權ノ生シタル原因ヲ記載スルコト即チ銷除權ノ生スルニハ種々ノ原因アルヲ以テ明示ノ認諾證書ニハ其何レノ原因ナルカヲ明記セサルヘカラス若シ一ノ合意ニ付銷除權ノ生スヘキ數個ノ原因アリタル場合ニ於テ何レノ原因ニ依ル銷除權ヲ認諾スルヤ否ヤノ分明ナラサルトキハ其ノ認諾ノ効ナカルヘシ何トナレハ既ニ前ニモ論スルカ如ク認諾ハ一ノ權利ノ抛棄ナレハ法律

ハ容易ニ之ヲ推測セサレハナリ

三、認諾ハ銷除權ヲ抛棄スヘキコトヲ明白ニ述ヘタル證書ニ因ラサルヘカラス

第二　默示ノ認諾

民法ハ默示ノ認諾ハ左ノ行爲ニ因リテ成ルヘキコトヲ定メタリ(第五百五十六條)

一、合意ノ全部若クハ一部ノ任意ノ履行

二、異議ナキ又ハ異議ノ留保ナキ强制ノ執行

三、更改

四、物上又ハ對人ノ擔保ノ任意ノ供與

總テ右等ノ場合ニ於テハ債務者ハ明示ノ認諾ヲナサスト雖モ既ニ自ラ銷除權ヲ抛棄シタル場合ニアラサレハ存在スヘキ行爲ニアラサルヲ以テ債務者ニ於テ其反對ヲ明言セサル以上ハ默示ノ認諾ナキハ素

ヨリ當然ナリ又默示ノ認諾ハ債權者ニ於テ之ヲナスヘキ場合アリ即
債權者ヨリ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ履行ヲ請求シ若クハ其合意
ニヨリ取得シタル全部又ハ一部ヲ任意ニ讓渡シタル場合ノ如シ設例
ヘハ甲者乙者ヲ强迫シテ乙者ノ所有物ニ付キ賣買ノ契約ヲナサシメ
タルトキニ於テ若シ乙者任意ニ賣買ノ目的タル物件ヲ甲者ニ供與シ
タルトキハ乙者ハ義務者トシテ其訴權ヲ認諾シタルト謂フヘク又乙
者ニシテ甲者ニ對シ物件ノ代價ヲ請求シタルトキハ乙者ハ債權者ノ
位置ニシテ其權利ヲ拋棄シタルモノナリ

銷除權ノ認諾ニ付テハ法律ハ仍ホ左ノ二個ノ注意ヲ與ヘタリ

（イ）第五百五十七條ニ曰ク認諾ハ銷除訴權ヲ有スル者ノ特定ノ承繼人ノ權利ヲ害スルコトヲ得スト是ニ依リテ之ヲ觀レハ認諾ハ一般ノ承繼人ヲ束縛スルニ足レトモ特定ノ承繼人即チ第三者ノ權利ヲ束縛スヘカラサルヲ知ルヘシ設例ヘハ甲者乙者ヲ强迫シ

乙者所有ノ家屋ヲ讓渡セシメ其强迫ノ終リタル後ニ於テ甲者之ヲ更ニ丙者ニ讓渡シタルトキハ銷除權ハ該家屋ノ所有權ト共ニ丙者ニ移轉スヘキヲ以テ乙者ハ甲者ニ對シテ其銷除權ヲ有セサルモノナレハ從テ之ヲ認諾スルコトヲ得ス若シ否ラスンハ丙者ナル特定ノ承繼人ハ乙者ノ甲者ニ對スル認諾ニ依リテ爲メニ其權利ヲ害スルニ至ルヘケレハナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ丙者ノミ獨リ甲者ニ對シテ認諾ヲ與フルコトヲ得ヘキノミ

（ロ）第五百五十八條ニ曰ク初ヨリ無效ナル行爲ハ之レヲ認諾スルコトヲ得スト抑銷除訴權ハ合意ハ已ニ始ヨリ成立スルモ其合意ノ有效ニ必要ナル條件ノ一ヲ缺クカ爲メニ始メテ生スルモノナレハ始ヨリ無效ナルト合意又ハ其他ノ行爲即チ曾テ成立セサル行爲ニ付テ銷除權ノ生スヘキ理由アルヘカラス故ニ又之ヲ認諾スルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルモノナシ何トナレハ認諾ハ唯銷除

認諾ト追認トノ差違

權即チ訴訟上ノ權利ヲ抛棄スルニ過キサレハナリ此ノ如ク論シ來ルトキハ始ヨリ無效ナル行爲ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ストノ原則ハ明々白々敢テ疑ナキカ如シト雖モ此原則ノ用語ハ甚タ其當ヲ失シタルモノト云ハサルヲ得ス始ヨリ無效ナル行爲ハ之ヲ認諾スルコトヲ得スト云ハンヨリハ寧ロ始ヨリ無效ナル行爲ハ之ヲ銷除スルノ權利ナシト云フノ優レルニ如カス何トナレハ既ニ前ニ陳述シタルカ如ク認諾ハ決シテ合意又ハ其他ノ行爲自身ヲ認諾スルモノニアラサレハナリ而シテ又此原則ノ用語ノ適當ナラサルヨリ學者ヲシテ遂ニ認諾ト追認ト同視スルニ至ラシメタリ彼ノ英國ノ法學者ハ往々此原則ヲ以テ始ヨリ無效ナル行爲ハ之ヲ追認スルコトヲ得ストノ意義ニ解スル者アルカ如キハ又其一例ナリ之ヲ要スルニ追認ハ合意又ハ其他ノ行爲自身ヲ有效トスルモノナルヲ以テ固ヨリ始ヨリ無效ナル行爲ヲ追認スルニ

外ナラス而ルニポロック氏其他一二ノ英國法學者カ未成年者又ハ瘋癲者等ノ爲シタル契約ヲ單ニ無效トナシ得ヘキモノトナシ始ヨリ無效ナルモノニアラスト爲シ乍ラ其能力ヲ復シタル後ニ於テ之ヲ追認スヘキモノトスルハ其論理ヲ誤リタルモノト謂ハサルヲ得ス始ヨリ無效ナルモノハ唯之ヲ追認スルコトヲ得ヘク單ニ無效トナシ得ヘキモノハ其銷除權ヲ抛棄スルニ過キサルナリ我民法カ始ヨリ無效ナル行爲ヲ認諾スルコトヲ得スト云ヘルモ英國學者カ單ニ無效トスヘキ行爲ヲ追認スト云ヘルモ共ニ誤謬ノ見タルヲ免レサルナリ

第九節　廢罷

廢罷ハ債務者カ債權者ノ權利ヲ詐害スルカ爲メニ第三者ニ對シテ承諾シタル義務抛棄又ハ讓渡ヲ無效トスルノ原因ニシテ又義務ヲ消滅セシムルノ原因タリ而シテ其廢罷訴權ハ如何ナルモノナリヤ又其廢

罷ハ如何ナル塲合ニ於テ生スヘキモノナリヤ及ヒ廢罷訴權ハ如何シテ時効ニ罹ルモノナリヤハ第三百四十條乃至第三百四十四條ニ於テ之ヲ詳論セリト雖モ要スルニ既ニ義務ヲ消滅セシムル點ニ於テハ廢罷ハ銷除ト毫モ異ル所ナシト雖モ銷除ハ其合意自身カ既ニ有効ノ條件ヲ缺ケルヨリ生スルモノナレトモ廢罷ニ於テハ否ラス既ニ完全ニ成立シタル有効ノ合意ヲ合意自身ニ關係スル以外ノ原因即チ詐害ノ事實アルヨリ發生スル權利ナルヲ以テ其目的トスル所ハ合意ノ當事者ニ非サル債權者即第三者ヲ保護スルノ主意ニ出ツレトモ銷除訴權ハ全ク合意ノ當事者ノ一方ノ權利ヲ保護スルノ主意タリ

廢罷ノコトハ既ニ前ニ詳論シタルヲ以テ茲ニハ唯廢罷カ義務消滅ノ一原因タルヲ示スヲ以テ足レリトス(第五百六十條)

第十節　解除

解除條件ハ其條件ノ成就シタルトキニ於テ既往ニ溯リ一旦生シタル

義務ヲ消滅セシムルコトハ第四百九條第四百二十一條及ヒ第四百二十二條ノ說明ニ於テ既ニ詳述シタル所ナリ而シテ其解除條件ハ或ハ明示ニ因リ或ハ默示ニ因ルノ塲合アリト雖モ要スルニ當事者ノ豫メ定メタル條件ニ因リテ既ニ成立シタル義務ヲ消滅セシムルモノナレハ解除ニ因ル義務ノ消滅ハ取リモ直サス合意自身ノ結果ナリト謂フヘシ

解除ノコトモ亦前節廢罷ト同ク再ヒ茲ニ之ヲ詳說スルノ必要ナシト雖モ唯特ニ之ヲ揭ケテ義務消滅ノ原因タルヲ示スニ過キサルナリ(第五百六十一條)

第六章　自然義務

第一節　總說

自然義務(Obligatio naturalis)ナル語ハ人定法ノ義務(Obligatio civilis)ナル語ニ反對スル用語ニシテ一言ニシテ之ヲ謂ハヽ即チ訴權ナキ權利ノ義

ナリ英國法學若ハ之ヲ不完全義務ト謂ヒ獨逸法學者ハ往々之ヲ無訴權ノ義務ト謂フ予カ前數章ニ於テ論述シタル所ハ皆ナ人定法ノ義務ニ屬セシカ予ハ今ヤ進ンテ自然法ノ義務ナルモノ如何ヲ考察シ以テ人權ノ部ニ關スル講義ヲ完了セン

沿革

消極的權利派

民法ニ於テモ亦自然義務ナルモノヲ認メ凡ソ義務ヲ以テ人定自然ノ兩種ニ大別セリ抑モ自然義務ナル用語ハ羅馬法學者モ亦採用シタル所ナレトモ是唯用語ノミ我民法起案者ノ意見ノ如ク一般ニ義務ナルモノニ人定法ノモノト自然法上ノモノトアルヘキコトヲ認メ眞ニ訴權即チ救濟ナキ權利ノ存在スヘキコトヲ認ムルニ就テハ學者ノ議論甚タ數多ナレトモ學說トシテ之レヲ主張セシハクリスチヤン、トマシウス氏ナリ此故ニ學者往々氏ヲ以テ自然義務ノ發明者トスルモノナキニアラスト雖氏ヲ以テ其第一ノ發明者トスルハ恐クハ誤謬ノ見ニ屬スルモノナラン氏ハ千六百五十五年ニ於テ生レ氏ノ友人ニシテ氏ヨリ高名ナルライプニッツト共ニ氏ノ父ナルジヤコツブ、トマシウス氏

消極的權利派

就キ法學ヲ修メタルモノナルカ氏ハ今日ノボアソナードトモ稱スヘキ新說ノ發明家ニシテ古哲アリストートル氏等ノ所說ヲ攻擊シ且ツ自然義務ニ關スル理論ヲ公ケニシテ其名ヲ博セシカ氏ノ此著書自身ハ左迄ニ有名ニモアラサリシカ氏ノ友人ライプニッツ氏カ彼ノ有名ナル國際公法ノ序論中ニトマシユース氏ノ著書ヲ引用シ其自然義務ニ關スル所說ヲ採用セルニ依リテ大ニ該書ノ名ヲ知ラレタリライプニッツハ權利(正義)ヲ分ツテ三段階ト爲シ第一段ヲ嚴格ノ正義(Jus strictum)ト名ク所謂更換的(コンミユータチーブ)正義ニシテ他人ノ權利ヲ侵害スル勿ラシムル所ノモノヲ謂フ第二段ヲ衡平(Aequitas)ト名ク所謂分配的(ジストリービユチーブ)正義ニシテ人々ニシテ各其分ヲ得セシムル所ノモノヲ謂フ第三段ヲ親愛(Piatas)若クハ直實(Probitas)ト謂ヒ人々ヲシテ正直ニ其所ヲ修メシムル所ノモノヲ謂フ然レトモ此等ノ區別タル決シテ眞ニ確然タル區別アルヘキモノニ

アラス何トナレハ第一段及ヒ第二段ノ正義ハ共ニ第二段ノ正義ナルヲ單ニ異ナリタル點ヨリ觀察スルマテニシテ第一段ノ他人ヲ害スル勿レトノ原則ハ第二段ノ各人ヲシテ己レノ分ヲ得セシムルトノ原則ト同一ニシテ己レノ分以外ニ多キ分ヲ有シ己レノ分ヨリ少キ分ヲ有スルノ義務ナシトノ意ニ外ナラス第三段モ之レト同シク第二段ノ說明ニ過キサルヘシ今マ同一ノモノニ等シキ二個物ハ共ニ相等シトノ幾何學上ノ原則ニ依ルモ第一段ト第二段ト等シク又第二段ト第一段ト等シキ以上ハ第三段共ニ同等ニシテ其間ニ階段等差ヲ設ケ得ヘキモノニアラサルヲ知ルヘシ夫ノ必要ナラサル空想ノ區別ヲ設クルハ學者ノ通弊ナルカ氏モ亦學者タルヲ免レス而シテ氏カ此空漠タル原則ヲ基トシテ法律ヲ論シ遂ニ法律ト仁惠トヲ混同シアーレンス氏ヲシテ「氏ノ所謂法律ナルモノハ人ト人類ノ外部ノ關係ニ止マラスシテ汎ク他物トノ關係ヲ支配スルモノナリ」ト明言セシムルニ至レリ其他

ライプニッツ氏ノ外ゲラード氏グンドリンク氏ノ如キモ亦トマシユース氏ノ學派ニ屬スルモ就中尤モ著名ナルハカント氏ナリ氏ハトマシユース氏ト同一ノ原理ヲ主張セシカ氏ハトマシユース氏ヨリ一層實際ニ適用セラルヘキ形式ニ於テ之ヲ布演シ遂ニ氏ノ配下ニ屬スル數多ノ學者ヲ輩出スルニ至レリ氏ノ說ニ依レハ消極的ノ權利義務即チ或ル事ヲ爲ス勿レトノコトノミ特リ法律(正義)ノ淵源タルコトヲ得ヘクシテ積極的ノ權利義務即チ或ル事ヲ爲スヘシトノ權利義務ハ人ノ良心情誼ニ淵源スト雖モ氏ノ所謂消極的義務ナルモノハ即チ人定法ノ義務ニシテ訴權ニ依リテ之カ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘキモ所謂積極的義務ナルモノハ自然法ノ義務ニシテ法律上其履行ヲ強制スル能ハサルモノトスルニ在リ故ニカント氏ノ說ニ從フトキハ立法ノ作用ニ依リ法律ヲ以テ規定シ得ヘキ權利義務ハ唯タ消極的ノ權利義務ニシテ法律ハ或ル事ヲ爲スコトヲ禁スルコトヲ得ヘキモ法律ハ

決シテ或ル事ヲ爲スヘキコトヲ強ユルコトヲ得ストスルニ在リ（トマース氏ノ論理モ亦同樣ニシテ）既ニ其著書中ニ之ヲ明言セリ）他人ノ自由ニ干渉スルコト能ハサル義務ノミ人定法ノ義務ニシテ法律上履行スルコト能ハサル所ノ義務ハ唯タ自然法上ノモノニシテ法律人ニ對シテ積極的ニ負フ所ノ義務ハ唯タ自然法上ノモノニシテ法律上ニ履行スルコト能ハサルノ義務タルニ過キストスルニ在リ蓋シカント氏カ此ノ如キ理論ヲ主張シ大ニ立法ノ範圍ヲ狹少ナラシメントス企テタルハ宜シク氏ノ當時ニ於ケル時勢ヲ考察セサルヘカラスカント氏ノ時代ハ實ニ法律濫製ノトキナリシナリ商業、宗教其他社會的ノ活動ハ殆ト法律ヲ以テ之ヲ規定制限セラレタリシ時代ナリ腐敗セル邦國ニ於テハ必ス法律ノ繁多ヲ見ル（In corruptissima republica plurimae leges）ト謂ヘル格言ハ實ニ其結果ヲ見ントスルノ時代ナリシナリ爾來歐洲自由主義ノ黨派ハ法典濫製ノ弊害ヲ洞見シ立法ノ作用ヲシテ狹少ノ範圍ニ止メシメンコトヲ企テ可成國家ヲシテ各人ノ自由ニ干渉スル

カント派ノ諸學者

コトヲ絶チ國家ヲ以テ單ニ犯權者ヲ處分スルノ外他ニ一ノ職務ナキ警察署ト爲サントスルノ目的ヲ有シタリ故ニ法理論上ニ於テモ亦立法ハ必ス消極的ノ範圍ニ止マルヘキノ原則ヲ確立セルニ外ナラスカント氏ハ專ラ法理論ヲ事トシ直接ニ實際ノ政務ニ干渉セルコト甚タ少ナカリシト雖其時世ノ必要上實際上ニ於テハ亦此目的アリシニ由ルハ疑ノ容ルヘキナシ現ニカント氏ノ後ニ出テタルウサルヘルム、フオン、フンホルト氏ノ如キ其著書「國權範圍論」ニ於テ論スル所モ亦カント氏ト其軌ヲ一ニスルヲ以テ見ルヘシ

カント氏ノ後ニ至リテ仍ホ氏ノ說ヲ襲フモノ甚タ少ナカラサリシカ此等後世學者ノ所說ハ自ラカント氏ト異ナル所アルニ至レリ但シルツトフオルト氏及ヒフツチエソン氏ノ如キカント氏ノ說ニ固着スル著名ノ學者ナレトモフツチエソン氏ハ幾分カカント氏ノ所說ヲ寬和シテ曰ク「然レトモ完全義務ト不完全義務トノ區別ハ甚タ容易ナラス

完全義務ト不完全義務トノ間ニハ無數ノ段階アリテ各場合ニ於テ必スシモ同一ナラス設例ヘハ純良ナル一般人ハ吾人ニ對シ或ル仁惠ヲ要求スルノ權利アルヘク隣人ニ至リテハ更ニ大ナル仁惠ヲ要求スル權利アルカ如ク不完全義務中ニモ自ラ大小ノ差等アリ」ト謂ヒ博士レイド氏ノ如キハ更ニ進ンテ完全不完全義務二者ノ區別ハ日光七色ノ區別ニ於ケルカ如ク如何ニ非常ノ明ヲ備ヘタル肉眼ト雖能ク之ヲ分ツコトヲ得ス」ト云ヒ又仁惠其他ノ不完全義務ヲ法律上ノ義務中ニ包含セシメ遂ニ全ク二者ノ區別ヲ無視スルニ至レリ

積極的權利派

ブラオン氏

自然義務ナルモノヲ認ムルノ說ニ對シ全ク反對ノ說ヲ立テタルハ英國ノ博士トーマス、ブラオン氏ナリ氏ハ現ニ歐洲大家中反對論者ノ祖先ト仰カレタリ氏ノ說ニ曰ク「法律ハ實ニ吾人ノ義務ニ就キ種々ノ區別ヲ設ケ或種ノ義務ハ其履行ヲ許シ或種ノ義務ハ其履行ヲ許サヽレトモ斯ノ如キ不同等ナル法律ノ干渉ハ實ニ社會ノ幸福ニ必要ナルヨリ生シ且ツ又之カ爲メニ毫モ義務自身ノ性質ヲ變スル者ニアラス何トナレハ義務ハ悉ク道德上ヨリ發生スレハナリ彼ノ法律家ノ數々論究セル完全義務ト不完全義務トノ區別ノ如キハ全ク此明白ナル理由ヲ了知セサルニ由レリ抑モ義務ナルモノハ皆道德ヨリ發生スル所ノモノナレハ義務ハ全ク道德上ノモノナレハ完全ノ義務ト云ヒ不完全ノ義務ト云ヒ一モ道德上ノ義務ナラサル者ナシ故ニ不完全ノ義務モ完全ノ義務モ道德上決シテ其性質ヲ異ニスル者ニアラス縱シヤ斯ノ如キ差異アリトスルモ所謂法律上ニ完全ナル權利ハ所謂法律上ニ不完全ナル權利ヨリ微弱ナル道德上ノ力ヲ有スルニ外ナラスト謂フコトヲ得ヘシ」ト氏ハ實ニ千八百二十年ヲ以テ沒セシカ其後獨逸ニ於テ反對論ノ主張者ヲ輩出セリ博士ヤール、クリスチアン、フレデリツキ、クラウゼー氏ハ其尤モ著名ナルモノニシテ氏ノ弟子タルレーデル及ヒ

レーデル氏

アーレンス兩氏ノ如キモ亦甚タ有名ナリ其他ウサルト氏シヤリホース氏ノ弟フヒテ氏兄ノフヒテ氏カンント派ナリト氏等是レナリ而シテクラウゼー氏派ノ諸輩ハ單ニ其著書ニ於テ積極的權利說ヲ主張スルノミナラス議會ノ代議士トナラハ實際立法上ニ其主義ヲ貫カンコトヲ企テタリ但シ此派ノ學者中多少其說ヲ異ニスルコトアルモ先ツレーデル氏ヲ以テ之ヲ代表セシメテ茲ニ其大要ナ說明セントス夫ノカンント派即チ消極的權利派ハ已ニ論セルカ如ク政府ヲ以テ一ノ警察署ト同視セルニ反對シレーデル氏ハ政府ヲ以テ一ノ後見人ト同視シ政府ハ人民ノ幸福ヲ保護增進スヘキモノト爲シ氏ハ熱心之レカ說明ヲ事トシ政府ト人民トノ關係ニ就キ政府干涉ノ區域及ヒ時機等ヲ論述セルカ其大要ニ至リテハ皆ナ標準ヲ人民ノ幸福如何ニ取ル而シテ其論鋒ノ赴ク所ハ後見人ト幼者トノ關係上遂ニ制限撰擧等ノ正理ナルニ論及セリ

不完全義務即チ自然義務ナルモノヽ存否如何ニ就テハ斯ノ如ク積消兩極ノ一大議論アリ其効果ハ遂ニ私法公法及ヒ國際法上ニモ大ナル異論ヲ生シテ各々其學派ヲ爲スニ至リシカ我民法起案者ハ果シテ如何ナル主義ニ基キシカ、不完全義務即チ自然義務ナルモノヽ認メサルハ法典濫制ノ弊害ヲ說クノ學派タルニ關ハラス我民法中ニ自然義務ナル一章ノ規定ヲ設ケタルハ之ヲ法典論派カ自家撞着ト謂ハンカ將タ我民法ノ起案者ハ自然義務ナルモノヲ認ムルト否トハ法理ノ沿革上古來如何ナル學派ヲ發生セルカヲ知ラサルモノト謂ハンカ予ハ其眞意ヲ知ルコト能ハス又何人モ否起草者自身モ亦之ヲ知ルコト能ハサルヘシ然レトモ近世法學者ノ所謂自然義務ナルモノハ自然法上ノ義務ニアラスシテ全ク人定法上ノ義務ナリ唯タ自然義務ナルモノハ或ル場合ニ於テ人定法上一般ノ義務ト同一ノ効果ヲ生セサルモノヲ謂フニ過キス故ニ此等義務ノ効果ノ差違ハ各義務ノ効果ヲ規定スル

ノ條下ニ於テ之ヲ記載スルヲ以テ足レリトシ敢テ之レニ名クルニ自然義務ナル名稱ヲ以テ必要トセス又自然義務ナル一章ヲ設テ別ニ之ヲ規定スルニ及ハサルナリ設例ヘハ時効ニ係リタル債務ヲ辨償シタルモノハ之ヲ贈與ト看做サスシテ一ノ法律上有効ナル辨濟即チ自然義務ノ辨濟ト看做スト謂フカ如キハ之ヲ時効ヲ論スルノ條下ニ規定シ時効ニ係リタル債務ニ特種ナル効力否寧ロ之ヲ時効ノ効力トシテ論定スルヲ以テ足レリトス其詳ナルコトハ讀者乞フ後節ニ論述スル所ヲ考究シテ而シテ後ニ之レヲ知レ

第二節　自然義務ノ本義

自然義務トハ何ソヤボアソ氏之レカ定解ヲ與ヘテ曰ク自然義務トハ初メニ成立ヲ有スルカ如ク見ヘ或ハ後來成立ヲ有スルナラント見ユルモ之ヲ裁判所ノ審判ニ附スルトキハ法律上ノ關係ヲ作爲スル爲メ必要ナル正義ト道理トノ要件ヲ履行セサルカ故ニ法律ニ疑ハレ又ハ拒絶セラルヘキ義務ヲ云フ」トボアソ氏ノ說ニ從フトキハ第一ニ自然義務ナルモノハ箒木ノ如ク成立スルカ如クニ見ヘテお化ノ如クニ消ヘ失セ或ハ暴風雨ノ起ルカ如クニ見ヘテ忽チニ晴天トナル下手ノ天氣豫報ノ如ク第二ニ自然義務ナルモノハ其性質上本來自然義務ニシテ裁判所ノ審判ニ附シタル後ニ初メテ自然義務トナリ第三ニ自然義務ナルモノハ李下ニ冠ヲ正スカ如ク瓜田ニ履ヲ容レタルカ如クニ法律ニ疑ハレ或ハ乞食非人ノ如クニ法律ニ拒絶セラルヽ者タルニ似タリ嗚呼奇ナル哉自然義務箒木ノ如クお化ノ如ク雨天ノ如ク天氣ノ如ク佳人ノ如ク才子ノ如ク乞食ノ如ク非人ノ如シ有ニシテ無、無ニシテ有、虛ニシテ實、實ニシテ虛、嗚呼ボアソ氏ノ定解、老耶壯耶儒耶佛耶茶利耶（チヤリタハカ）囈語耶——而シテボアソ氏ハ我帝國民法ノ起草者タリ——古今無双

蓋シ自然義務ナルモノハ人定法ト相並ヒ人定法外別ニ存在スル一種ノ義務ニアラサルヲ以テ積極的ニ之ヲ定解スルコト能ハサルハ近世

學者ノ許ス所ナリボ氏ニシテ之ヲ企ツ遂ニ其何タルヲ了知スルコト能ハサルノ「ノンセンス」ニ歸ス素ヨリ怪ムニ足ラサルナリ故ニ自然義務ナルモノハ必ス之ヲ消極的ニ定解セサルヲ得スト雖ポロツク氏ノ自然義務ヲ論スル簡ニシテ全シ予ハ先ツ左ニ氏ノ說ヲ揭ケテ而シテ後ニ自然義務ノ定義ヲ與ヘントス

契約ニ依リ利益ヲ受クル當事者カ其ノ履行ヲ強制スルコトヲ得ヘキ契約ト毫モ法律上ノ效果ヲ生セサル合意トノ間ニ一種ノ合意アリ此一種ノ合意ハ法律上起訴ノ權ナシト雖合意ノ效果中起訴權ノ外他ノ效果ハ法律上盡ク之ヲ認ムル所ノモノニシテ稱シテ不完全義務ノ合意ト謂フポヲエー氏ノ如キハ之ヲ道德上ノ義務トスレトモ果シテ道德上ノ義務ナレハ法律上ニ毫末ノ關係アルヘキモノニアラス抑モ完全義務ニ於テハ必ス起訴權即チ救濟ノ手段ヲ備ヘタル權利アルヲ以テ原則トスト雖不完全義務ニ於テハ救濟ノ手段ナクシテ權利アリ是レ一般原則ノ例外タリ而シテ斯ノ如キ不完全義務ナルモノハ唯タ人定法ノ特別規則ニ依リテ初メテ發生スト其言甚タ精確ニシテ自然義務ヲ以テ人定法ト爲シ而シテ唯之ヲ一般法ノ例外トスルニ在ルヲ見ルヘシ故ニ今マ強テ自然義務ナルモノヲ定解スレハ即チ「自然義務ハ或ル場合ニ於テ法律カ義務ノ諸效果中履行訴權ヲ除斥セル人定法上ノ義務ナリ」ト云フコトヲ得ヘシ今此定義ヲ分解スレハ即チ

一、自然義務ハ一般ノ義務ニ普通ナル總テノ效果ヲ生セスシテ訴權ノ一效果ヲ缺クノミニシテ決シテ人定法外ノ義務ニアラス唯人定法中ニテ一種其效果ヲ異ニスル例外ノ義務ナリ故ニ若シ人定法中ニ此例外ナキトキハ其義務ハ全ク無效トナリテ毫末ノ效果ヲ留ムルコトナカルヘシ之ヲ自然義務ト稱スルハ單ニ名稱ノミ人定法上ノ義務タルコト素ヨリ疑ヲ容レサルナリ而シテ自然

義務カ其一般ノ人定法上ノ義務ト異ナル所ハ唯其諸効果中訴權ヲ缺クノ一事ノミ民法第五百六十二條ニ曰ク「自然義務ノ履行ハ訴ノ方法ニ依リテモ相殺ノ抗辯ニ依リテモ之ヲ要求スルコトヲ得ス其履行ハ債務者ノ任意ナルコトヲ要シ之ヲ其良心ニ委ス」ト謂ヘルハ則チ此意ナリ設例ヘハ未成年者ト爲シタル合意ニ依リ未成年者ニ於テ或ル物件ヲ交付スルノ義務ヲ負擔シタル塲合ニ於テ未成年者ハ丁年者ト爲リタル後ニ於テモ決シテ之ヲ履行スルノ義務ナク權利者ハ訴ノ方法ニ依リテモ亦相殺ノ方法ニ依リテモ其義務ノ直接履行又ハ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得スト雖義務者ニシテ自ラ好ンテ之ヲ履行シタルトキハ該物件ノ交付ハ當然義務ノ履行タル効果ヲ生シ決シテ法律ハ之ヲ贈與ト看做スコトナク又不當利得ヲ理由トシテ再ヒ其返還ヲ許スコトナカルヘシ又法文ニ依レハ自然義務ノ履行ハ任意ニシテ且良心ニ委ス

ヘキコトヲ以テスレトモ其所謂任意トハ唯故意ヲ以テスルノ意ナレハ自然義務タルコトヲ知ラス法律上ノ錯誤ニ依リ人定法上ノ義務ト思惟シテ履行ヲ爲シタル塲合ニアラサルコトヲ明言スルニ過キス然レトモ其履行ハ單ニ任意ナルヲ要スルノミナラス更ニ其良心ニ出ツルヲ要スト解セルニ至リテハ大ニ其當ヲ缺クモノト謂ハサルヲ得ス何トナレハ自然義務ナルモノハ唯訴ノ方法ニ依リテモ相殺ノ方法ニ依リテモ其履行ヲ要求スルコト能ハサルモノナルカ故ニ訴ノ方法又ハ相殺ノ方法以外ノ方法ニ依リテ之カ履行ヲ強ユルノ方法アラハ此方法ニ依リテ其履行ヲ爲サシムルコトヲ妨ケサレハナリ設例ヘハ甲者一ノ書庫ヲ質トシテ一ケ年期限ヲ以テ金千圓ヲ乙者ニ貸付シタルニ期限經過後數十年ヲ經過シ甲者ハ貸金催促ヲ訴フルノ道ナク乙者ハ時効ニ依リテ該債權ヲ取得シタルモノトノ推定ヲ受クレトモ乙者ヲシテ該債

權即チ自然義務ヲ履行セシムルカ爲ニハ甲者ハ質物トシテ其手中ニ取置キタル書庫ノ返却ヲ拒ムコトヲ得ルカ如シ此ノ如キ場合ニ於ケル自然義務ノ履行ハ敢テ乙者ノ眞心ニ出ツルニアラスシテ嘗テ質物ト爲シタル書庫ヲ得ンカ爲メニ已ムヲ得スシテ之ヲ履行セルモノト云ハサルヲ得ス故ニ自然義務ノ履行ハ任意即チ自然義務タルコトヲ了知シテ履行スルコトヲ要スレトモ決シテ眞心ニ出ツルヲ必要トセス唯タ訴權以外ノ方法ニ依ルヲ以テ足レリトス

二、法律ハ一般ニ自然義務ナルモノヲ認ムルコトナシ則チ法律ハ凡テ義務ヲ以テ人定法上ノモノト自然法上ノモノトスルコトナシ而シテ法律カ如何ナル場合ニ於テノミ自然義務ナルモノヲ認ムルヤ否ハ特ニ法典中ニ明記スル所ニ係レリ此等ノ場合ニ就テハ後節ニ詳論ス

三、自然義務ナルモノハ人定法ノ義務ノ効果中唯訴權ノ一効果ヲ缺クノミニシテ他ノ効果ハ盡ク之ヲ具備セリ設例ヘハ自然義務ノ履行ヲ以テ人定法ノ義務ノ履行ト同シク義務ノ履行タルノ効果ヲ有セシメ決シテ之ヲ贈與又ハ不當利得ト同視セサルノ類ナリ事ハ又後節ニ之ヲ詳論ス

第三節　自然義務ノ効果

自然義務ハ其効果トシテ訴權ヲ生セサルコトハ既ニ前節ニ於テ論述シタルカ如クナレトモ其他ノ効果ニ於テハ人定法上ノ義務ト異ナルコトナカルヘシ即チ

一、自然義務ニ對スル權利モ亦一ノ財產ナリ自然義務ハ債權者ノ爲メニハ其財產ヲ增シ債務者ノ爲メニハ其財產ヲ減少スルモノトス

二、自然義務ト雖之ヲ辨濟シタルトキハ法律上ノ一ノ辨濟タル効

果ヲ生スルコト通常義務ノ辨濟ト異ナルコトナシ故ニ自然義務ヲ辨濟シタル以上ハ後日ニ至リ義務ハ之ヲ不當ノ辨濟トシテ之ヲ取戻スコトヲ得サルナリ第五百六十三條第一項ニ「債務者ノ任意ノ辨濟ハ不當ノ辨濟ナリトシテ之ヲ取戻スコトヲ得ス」ト云ヘルハ即チ此意ナリ又同條第二項ハ自然義務ノ辨濟ニ關シテ擧證ニ關シテ規定シテ曰ク「自然義務ヲ辨濟シタル意思ノ證據カ事情ヨリ生スルニ於テハ辨濟ノ原因ヲ明示スルコトヲ要セス」ト依是觀之辨濟ノ意思カ事情ヨリ生スルトキニ於テハ債權者ハ債務者ニ於テ自然義務ヲ辨濟スルノ意思ナキコトヲ主張スルトキニアラサレハ其辨濟ノ原因ヲ明示スルヲ要セサルナリ

三、自然義務ハ追認、更改又ハ質若クハ抵當ノ供與ノ物體トナルコトヲ得ヘシ此等ノ場合ニ於テハ自然義務ハ通常ノ法定ノ効力ヲ生シテ毫モ人定法上ノ義務ト其効果ヲ異ニスルコトナカルヘシ

（第五百六十四條及第四百九十四條末項）但シ自然義務ノ追認ト銷除訴權ノ附着スル合意ノ默示ノ認諾（第五百五十四條及第五百五十六條）トヲ同視スルコトヲ要ス即合意ノ一分ノ任意ノ履行ハ全部ノ合意ノ默示ノ認諾タルコトヲ得レトモ自然義務ノ履行ノ場合ニ於テハ唯追認シタル部分ノミニ就キ人定法ノ義務ト同一ノ効果ヲ生スヘシ何トナレハ銷除權ノ擲棄即チ瑕疵合意ノ認諾ニ就キ一部ノ任意ノ履行ハ唯其認諾ヲ推測スヘキ一證據タルニ過キサルヲ以テ一部ノ履行モ亦此推測ヲ爲スニ足レトモ自然義務ノ追認ノ場合ニ於テハ法律ハ決シテカヽル推測ヲ設クルノ意ニアラスシテ單ニ自然義務ニ與フルニ追認ノ目的物タルコトヲ得ルノ能力ヲ以テスルニ過キサレハナリ學者往々此區別ヲ以テ自然義務ハ其區域ノ初メヨリ判然セサルニ歸スレトモ素ヨリ誤謬ノ見ニ屬ス何トナレハ自然義務ト雖必スシモ其區域ノ初メ

ヨリ判然セサルモノニアラス義務ノ區域ノ判然タルト判然タラサルトハ毫モ自然義務タルト法定義務タルトヲ問ハサルナリ氏ノ如キモ亦其一人ナリ

第四節　自然義務ノ發生

自然義務發生ノ原因即チ法律カ自然義務ナルモノヲ認ムル場合ハ通常義務發生ノ原因ト等シク之レヲ合意、不當ノ利得、不正ノ損害及ヒ法律ノ規定ノ數種ニ分ツコトヲ得ヘシ余ハ序ヲ追フテ左ニ之レヲ論述セン

第一款　合意ヨリ生スル自然義務

合意ノ成立及ヒ有効ナルニ必要ナル條件ハ第一當事者ノ承諾、第二合意ノ物體、第三合意ノ原因、第四有式合意ニ就テハ其式等ナルコトハ已ニ之ヲ論述シタル所ナルカ若シ此等ノ條件ノ一ヲ缺クトキハ義務ハ全ク成立セス又ハ又効力ヲ生セス故ニ斯ノ如キ無効ノ義務ヲ辨濟シ

タルトキハ或ハ贈與トナリ或ハ不當利得トナリテ辨濟其他ノ効果ナキヲ通則トスレトモ此等條件ノ幾分ヲ缺ク場合ニ於テ法律ハ仍ホ自然義務ノ存在ヲ認メ通常義務ノ如ク權利者ニ附與スルニ直接履行ノ訴權ヲ以テスルコトアリ其場合ハ即チ左ノ如シ

第一、當事者ノ承諾　全ク當事者ノ承諾ナキトキハ一般ニ自然義務モ亦成立スルコトナシト雖承諾不成立ノ原因カ承諾ヲ阻却スル錯誤ニ出テタル場合ノミニ於テハ自然義務ヲ發生スルコトヲ妨ケス是レ民法第五百六十五條第一項ノ明定スル所ナリ設例ヘハ甲者ハ劇牛ヲ賣却セントシ乙者ニ申込ミタルニ乙者ハ其文字ヲ誤解シ種牛ヲ賣ランノ承諾ヲ與ヘタルトキハ劇牛賣買ノ合意モ種牛賣買ノ合意モ亦成立スルコトナクシテ全ク無効ノ合意ナレトモ甲者自ラ種牛ヲ乙者ニ與ヘタルトキハ甲者ハ自然義務ヲ

自然義務ノ發生

合意ヨリ生スル自然義務

履行セルモノニシテ決シテ之ヲ贈與又ハ不當利得ノ場合ト同視スルコトヲ得サルカ如シ然レトモ錯誤ニ依ル承諾ヲ阻却スル場合ノ外強暴等ニ出テタル合意ハ何故ニ自然義務ヲ發生スルコトナキカ民法起草者ノ意見ニ依レハ錯誤ノ場合ニ於テハ常ニ當事者ノ一方ニ過失ノ存スルモノアルヲ以テ其過失アル者ハ自ラ其過失ノ責ヲ負擔スト雖強暴ノ場合ニ於テハ強暴ニ依リ義務ヲ負擔シタル者ハ其過失ナキニ由ルト云フニ在リ然レトモ合意ハ必ス一方ノ者ノミ義務ヲ負擔スルモノニアラス賣買ノ場合ノ如キハ雙方共ニ義務ヲ負擔スル場合ハ如何必スシモ當事者ノ一方ニ過失アリト云フヘカラス義務者カ無學ノ爲メ又ハ第三者ノ詐欺ノ爲メ錯誤ニ陷リタルトキモ亦同シカルヘシ故ニ合意ヲ阻却スル錯誤ノ場合ニ於テ自然義務ノ發生スルハ決シテ當事者ノ一方カ過失ノ責ヲ自ラ好ンテ負擔スルカ故ニアラサルナリ

抑モ錯誤ト強暴トノ事ニ就テハ予ハ已ニ前章ニ於テ詳述シタルカ如ク一ハ全ク合意ヲ不成立ナラシメ一ハ單ニ其効力ヲ消滅スル所ノ銷除權ヲ對手ニ與フルモノニ過キサルヲ以テ強暴ノ場合ニ於テハ強暴ヲ甘ンスルモノハ銷除ヲ放擲スルモノトナリ從ツテ其結果ハ法定ノ義務ヲ生スルヲ以テ決シテ自然義務ヲ認ムルノ必要アルコトナシ是レ強暴ハ決シテ自然義務發生ノ原因トナラサル所以ナリ

第二、合意ノ物體　合意ハ義務ノ成立セサル所以ハ已ニ前章ニ於テ論述シタル所ナリ設例ヘハ賣買ノ場合ニ於テ其目的物ヲ指定セス又ハ其分量ヲ定メサル場合ノ如キ是レナリ然レトモ合意ノ物體ノ欠缺及ヒ不足ハ當事者ノ意思ハ明白ナルモ唯タ其意思ヲ表白スルコトヲ怠リタルモノニ過キサルヲ以テ債權者ハ其物體及數量ヲ證明スルコト

能ハス從ツテ訴權ナキコト明白ナレトモ當事者間ニ於テ現ニ之レカ辨濟ヲ爲シ一方モ亦之ヲ受ケタルトキハ之ヲ自然義務ノ辨濟トスルコトヲ得ヘキハ明白ナリ第五百六十五條ニ目的ノ指定ノ欠欵若クハ不足ノ爲メ初メヨリ無効ナル合意ニ因リテ生スルコトヲ得ト云ヘルハ則チ此意ナリ然レトモ物體ノ欠欵カ不融通物タルニ原因スルカ其他法律ニ於テ公益上合意ノ物體トスルコトヲ禁シタルモノナルトキハ其合意ノ無効ナルハ勿論自然義務トヲモ發生スルコトナカルヘシ第五百六十六條ニ公ノ秩序ノ爲メ合意ノ目的トスルコトヲ禁シタル物ヲ目的トナス合意ハ自然義務ヲ生スルコトヲ得スト謂ヘルハ即チ此意ナリ

又合意ノ物體カ不能ナルトキハ自然義務モ亦不能ニシテ決シテ發生スルコトアルヘカラスト雖モ第三者ノ所爲ノ諾約及ヒ第三者ノ利益ニ於ケル要約ニ關シ第三百二十二條及ヒ第三百二十三條ニ定メ無効ハ諾約者ノ自然義務ヲ生スルコトヲ妨ケス(第五百六十七條設例ヘハ甲者ハ乙者ニ約スルニ丙者ナル畫工ヲシテ一ノ繪畫ヲ作ラシメンコトヲ以テセル塲合ノ如シ此塲合ニ於テハ丙者ノ所爲ヲ以テ直ニ甲乙間ノ作爲ノ物體トスルモノニシテ合意ノ物體ハ不能ナレトモ丙者自ラ好ンテ之ヲ履行シタルトキハ之ヲ一ノ辨濟ト爲シ自然義務ヲ履行シタルモノトスルコトヲ得ルトノ意ナリ但シ第三者ノ所爲ヲ目的トスル合意ハ果シテ不能ナルカ否ハ前章ニ於テ已ニ之ヲ詳論シタル所ナルカ讀者ニシテ委細ニ之ヲ觀察シ來レハ我民法ノ規定及ヒ起案者ノ認メタル設例ノ如キハ甚タ其當ヲ缺クモノト謂ハサルヲ得ス今試ミニ或學者ノ設ケタル一例ヲ示サンニ曰ク「設例ヘハ甲者ハ乙者ニ約スルニ丙者ノ爲ニ家屋ヲ建築セシムヘキコトヲ以テシタルトキハ不能ノ事柄ヲ以テ合意ノ目的ト爲シタルモノニシテ合意ハ元來無

効ナレトモ甲者カ丙者ニ代リテ自ラ建築ノ義務ヲ履行スルコトヲ得ヘシ即チ甲者ハ乙者ニ對シ自然義務ヲ盡シタルモノナリ」ト然レトモ丙者ヲシテ一ノ家屋ヲ建築セシメンノ義務ハ甲乙間ニ於テ何故ニ不能ナルヤ彼ノ建築請負師カ大工ノ勞力ヲ目的トシテ建築契約ヲ結フハ日常ノ事柄ナリ又契約ハ法定ノ義務ヲ生シテ權利者ハ訴權ヲ以テ其履行ヲ請求シ得ヘク又丙者ニシテ之ヲ履行セサルトキハ他人又ハ義務者之ヲ行ヒ又ハ損害賠償ノ責ヲ負フヘシト雖是レ履行ノ一方法ナリ之ヲ以テ自然義務ノ履行トスルヲキヲ要ス

第三、合意ノ原因　第五百六十六條ニ曰ク「原因ノ欠缺又ハ不法ノ原因ノ爲メ無効ナル合意ハ自然義務ヲ生スルコトヲ得ス」ト是レ事理上當然ノ結果ナリ設例ヘハ已ニ滅失シタル特定物件ヲ賣買セント約シタル場合ノ如キハ法定義務モ自然義務モ決シテ存在シ得ヘキ理由ナケレハナリ又學者ハ往々法律ノ制限ヲ超過シタル利息ヲ辨濟シタル場合ヲ以テ自然義務ノ辨濟ト看做スヤ否ニ就キ多少ノ辯ヲ費スモノ多ケレトモ制限外ノ利息ノ辨濟ハ果シテ一ノ辨濟ニ之ヲ取戻スコトヲ得ヘキヤ否ノ問題ハ利息制限法ノ規定如何ニ存ス但シ制限法ノ精神ハ通常單ニ法廷ニ制限外ノ利息ヲ爭フコトヲ禁シタルニ過キサル多キヲ以テ制限外ノ利息ノ辨濟ハ制限法上特ニ明文アル場合ノ外之ヲ自然義務ノ辨濟トスルヲ以テ通常トス

第四、合意ノ法式　要式ノ合意ニ於テハ其方式ヲ缺クトキハ合意ハ不成立ナレトモ自然義務ノ發生ヲ妨クルコトナシ第五百六十五條第一項中ニ曰ク「自然義務ハ必要ナル公式ノ欠缺ノ爲メ初ヨリ無効ナル合意ニ因リテ生スルコトヲ得」ト然レトモ又其例外ナキニアラス同條第二項ニ曰ク「然レトモ公式ノ欠缺ノ爲メ無効ナ

ル贈與ニ關シテハ贈與者自ラ自然義務ノ履行又ハ追認ヲ爲スコトヲ得ス其相續人又ハ承繼人ノミ之ヲ爲スコトヲ得」ト又同條第三項ニ曰ク「前項ノ規定ハ方式上無效ナル遺言ヲ爲セル者ノ相續人ニ之ヲ適用ス」ト即チ法律ハ贈與及ヒ遺囑ハ縱令ヒ法式ヲ缺ク モ自然義務ヲ發生セサルコトヲ規定セルモノナリ蓋シ贈與及ヒ遺囑ニ公式ヲ必要トスルハ法律カ大ニ贈與者及ヒ遺囑ノ眞意ヲ疑フモノアルニ因リ苟モ法式ヲ缺キタル贈與及ヒ遺囑ハ自然義務トシテ之ヲ履行スルコトヲ許サヽルナリ但シ其承繼人ニ就テハ一般ノ規則ニ從ヒ自然義務ヲ認ムル外他ニ方法ナカルヘシ

第二款　不當利得ヨリ生スル自然義務

自然義務ハ不當利得ヨリ生スルコトヲ得、第五百六十八條中ニ曰ク「債務者カ不當ノ利得ニ因リテ法定義務ヲ負擔スルコトアルヘキ場合ノ外債務者ハ此權原ニテ自然義務ヲ負擔シタリト有效ニ追認スルコトヲ得」設例ヘハ第三百六十二條ノ場合ニ於テ他人事務ヲ管理シタル者カ本主ヨリ訴ヲ受ケ管理中本主ノ財產ヨリ收メタル利益トシテ若干金ヲ本主ニ返還シタル後本主ニ於テ其金額ハ實際ノ利益ヨリ多キニ過キ又ハ其他ノ錯誤ニテ返還ノ義務ナキモノト認メタルトキハ本主ハ事務管理者ニ對シ自ラ自然義務トシテ不當利得ヲ得タルモノト有效ニ追認スルコトヲ得ルカ如シ

第三款　不正ノ損害ヨリ生スル自然義務

自然義務ハ不正ノ損害ヨリ生スルコトヲ得、第五百六十八條中ニ曰ク「債務者カ不正ノ損害ニ因リテ法定義務ヲ負擔スルコト有ルヘキ場合ノ外債務者ハ此權原ニテ自然義務ヲ負擔シタリト有效ニ自ラ追認スルコトヲ得」設例ヘハ第三百七十條ノ場合ニ於テ過失又ハ懈怠ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ裁判上其賠償ヲ爲シタル後ニ於テ眞ニ被告ノ懈怠ノミニアラサルコトヲ覺知シタルトキハ自然義務トシテ

更ニ其辨濟ヲ爲スコトヲ得

法律ノ規定ヨリ生スル自然義務

第四款　法律ノ規定ヨリ生スル自然義務

自然義務ハ法律ノ規定ヨリ生スルコトヲ得第五百六十八條中ニ曰ク「債權者カ法律ノ規定ニ因リテ法定義務ヲ負擔スルコトアルヘキ塲合ノ外債務者ハ此權原ニテ自然義務ヲ負擔シタリト有効ニ自ラ追認スルコトヲ得」ト設例ヘハ第三百八十條第一ニ記載シタル養料ヲ裁判上ニテ取得シタルモノカ其分ニ過キタルコトヲ後ニテ覺知シ又ハ眞ニ養料ヲ受クヘキ親族ニアラサルヲ知リ其全部若クハ幾分ヲ辨濟セルカ如キ皆ナ自然義務ヲ辨濟シタルモノナレハ再ヒ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルカ如シ

時効ヨリ生スル自然義務

第五款　時効ヨリ生スル自然義務

第五百七十條ニ曰ク「免責又ハ取得ノ時効ノ利益ヲ援用シタル者、既判力ノ利益ヲ受クル者、又ハ其他ノ推定若クハ證據ヲ申立ツルコトヲ得

ヘキ者ハ尚ホ自然義務ヲ負擔シタリト自ラ追認スルコトヲ得」ト設例ヘハ免責時効ニ就テ謂ハヽ法律上一定ノ期間ヲ經過シタルトキハ義務者ハ期限經過ノ一事ヲ以テ裁判上原告ノ請求ヲ拒ミ其義務ヲ免カルヽコトヲ得ト雖自ラ此利益ヲ捨テ裁判確定後ニ其義務ヲ辨濟シタルトキハ自然義務ノ辨濟トシテ法律上ニ有効ナルヘク又取得時効ニ就テ謂ハヽ法律上一定ノ期限ヲ經過シタル後ハ他人ノ權利ト雖法律上之ヲ取得シタリトノ推定ヲ受クルモ自己ノ權利ニアラストシテ之ヲ返却シタルトキモ亦等シク之ヲ取戻スコトヲ得ス其他確定裁判ニ依リ既判力ノ利益ヲ申立ツルコトヲ得ル塲合モ亦同シ

自然義務ノ存在

第五節　自然義務ノ存在

自然義務ハ法定義務ノ消滅シタル後ト雖存在スルコトヲ得即チ辨濟、更改、免除、相殺、混同、履行ノ不能等ニ依リ法定義務ノ消滅シタル後ニ於テモ仍ホ自然義務ノ辨濟トシテ其全部又ハ一部ノ辨濟ヲ爲スコトヲ

得ルノミナラス法定義務ノ銷除廢罷又ハ解除カ裁判上ニテ宣告セラレタル後ト雖存在スルコトヲ得ヘシ是レ第五百六十九條ノ明定スル所ナリ設例ヘハ銷除ノ場合ニ就テ謂ハンニ強迫ニ依リ義務ヲ負擔シタル者ハ銷除訴權ニ依リ其義務ヲ銷除シ之ヲ無効トスルコトヲ得ヘシ故ニ義務者カ訴ヲ受ケ之ヲ銷除ノ裁判確定ノ後ニ至リテ其裁判ニ關セス之ヲ追認シテ義務ノ辨濟シタルトキハ即自然義務ノ辨濟ニシテ再ヒ之ヲ取戻スコトヲ得サルカ如シ然レトモ茲ニ注意スヘキ一事アリ即法文ニ依レハ自然義務ハ法定義務ノ銷除カ裁判上ニテ宣告セラレタル後ト雖モ存在スルコトヲ得ト明言シ「ト雖」「得」等ノ文字ヲ使用スレトモ自然義務ナルモノハ法定義務ノ銷除カ裁判上ニテ宣告セラレタル後ニ於テ始メテ成立スルモノニシテ其以前ニ於テハ決シテ存在スルコトナシ何トナレハ義務者ニシテ銷除訴權ヲ裁判上ニ未タ之ヲ行ハサル以前ニ於テ義務ヲ辨濟シタルトキハ是レ即チ義務者カ銷除訴權ヲ放擲シタルマテニシテ第五百五十六條第一ノ規定ニ依リ默示ノ認諾ト爲リ義務者ハ法定義務トシテ之ヲ辨濟スルノ責任アリ決シテ之ヲ以テ自然義務ノ辨濟トスルコトヲ得サルナリ

廢罷解除ノ場合ニ於テ自然義務ノ存在スヘキコトモ亦明白疑ナシ讀者乞フ自ラ此等ノ場合ヲ論及シテ其設例ヲ考究セヨ敢テ茲ニ予ノ說明ヲ待タサルヘシ

第六節　自然義務ノ讓渡

已ニ第二節ニ於テ說明セルカ如ク自然義務ニ對スル權利モ亦一ノ財產ナリ苟モ一ノ財產タル以上ハ自由ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得ヘキモ亦當然ナリ然レトモ其讓渡ノ效果トシテ之ヲ讓受ケタル者モ亦自然義務ニ對スル權利ヲ有スルニ過キス故ニ自然義務ハ之ヲ讓渡スルヲ得ヘキモノトノ原則ヲ採用セハ其讓受ケタル權利モ自然法上ノ權利タルヘキモノト謂ハサルヲ得ス若シ又之ニ反シ自然義務ナルモノ

ハ決シテ之ヲ譲渡スルコト能ハストノ原則ヲ採用セハ其所謂譲渡ナルモノハ法定ノ義務ニ對スル法定權利ヲ譲受クルモノトセサルヲ得ス我民法ハ此後ノ原則ニ依リ自然義務ハ之ヲ譲渡スルコト能ハサルモノト爲シテ而シテ一ノ例外ヲ認メテ曰ク「自然義務ノ法定ノ譲渡ハ協諧契約ヲ以テ破產者ニ免除シタル金額ニ付キ其債權者ノ之ヲ爲シタル塲合ノミ有効ナリ」ト(第五百七十一條)

協諧契約トハ商事上債務者ニ過失ナクシテ一時ノ不幸ニ依リ破產シタル塲合等ニ於テ各債權者ニ對シ一部分ツヽノ債務ヲ免除スルノ合意ヲ謂フ此協諧契約ニ依リテ債務ノ免除ヲ得タル債務者ハ免除ヲ得タル部分ヲ併セテ全債務ヲ辨濟スルニアラサレハ或ル商事上ノ特權(設例ヘハ會社ニ加入スルノ權)ヲ得ルコト能ハス然レトモ法律上斯ノ如ク一旦免除セラレタル債務ヲ辨濟スルノ義務ハ全ク自然義務ナリト雖商事上ノ得權ヲ得ルニハ之ヲ辨濟スルノ必要ニ迫マラルヽヲ以テ通常ノ自然義務ト大ニ其趣ヲ異ニスルモノアリ故ニ債權者ハ有効ニ之ヲ債務者ニ譲渡シ而シテ其結果ハ法定上ノ譲渡トナリ債務者ヲシテ商事上ノ特權ヲ得セシムルニ至ルヘシ

第七節　自然義務ノ消滅

自然義務ハ辨濟其他ノ方法ニ依リ消滅スルノ外更改其他法定義務ト化スルニ至リテ消滅ス設例ヘハ一ノ自然義務ヲ辨濟シタルトキハ其辨濟ハ法定義務ノ辨濟ト同一ノ効果ヲ生シテ自然義務ハ茲ニ消滅スヘク又自然義務ヲ更改シタルトキハ其更改ニ依リテ生スル義務ハ法定ノ義務トナリ自然義務ハ消滅スヘシ要スルニ此等ノ塲合ハ自然義務ノ履行又ハ認定前ニ於テモ自然義務カ消滅シテ法定義務ノ發生スヘキ一ノ塲合ヲ認メタリ即チ

第五百七十二條　當事者ハ自然義務ノ任意ノ履行又ハ認定アラサル前ト雖仲裁契約ヲ以テ其自然義務ノ成立又ハ廣狹ヲ仲裁人ノ決定ニ委スルコトヲ得此場合ニ於テハ自然義務ヲ宣言シタル其決定ハ法定ノ義務ヲ生ス

ト設例ヘハ確定裁判ニ依リ定マリタル義務ハ已ニ之ヲ動カスヘカラス設ヒ其裁判ハ誤謬ニシテ全ク義務ノ本旨ヲ誤リ又ハ眞實ノ義務ヨリ過大ナルモ義務者ハ之ヲ法廷ニ訴フルコトヲ得スト雖仍ホ當事者間ニ於テハ自然義務ノ存スルコトアラン此場合ニ於テ當事者若シ自然義務ノ存否及ヒ廣狹ノ爭ヲ以テ仲裁人ノ決定ニ一任センコトヲ約シ仲裁人ニ於テ之ヲ決定シタルトキハ其決定ノ宣言ハ自然義務ヲ生セスシテ決定義務ヲ發生スルカ如シ蓋シ自然義務ハ其存否廣狹ヲ仲裁人ノ決定ニ付シ仲裁人ニ於テ其存否廣狹ヲ定ムルモ其義務ハ依然タル自然義務タルヘキハ當然ナリ然ルニ本條却ツテ其反對ノ効果ヲ

明言スルハ如何立案者ノ意見ニ依ルニ當事者カ合意即チ仲裁契約ヲ以テ自然義務ノ爭ヲ仲裁人ノ決定ニ委スル以上ハ其意思ハ之ヲ法定上ノ義務トスルニ在ルヘキモノト推定スルニ在リトセリ若シ果シテ然リトセハ是レ一ノ推測法ナリ反對ノ證據アルトキハ仲裁人ノ決定ハ單ニ自然義務ヲ生スルニ在ルヘシ是レ果シテ我民法ノ本旨ナルヘキヤ民法ハ單ニ仲裁人ノ決定ハ法定ノ義務ヲ生スルコトヲ明言スルニ止マルノミナラス訴訟法ノ規定ニ係ル仲裁ハ當然法定義務ヲ生スヘキモノヽミニシテ自然義務ノミニ關スル場合ヲ包含スルコトナキハ訴訟法ノ規定ニ於テ明白ナリ故ニ仲裁人ノ決定ハ何レノ場合ニ於テモ法定義務ノミヲ生セサルヘカラスト雖若シ果シテ然リトセハ其理由如何即チ之ヲ當事者ノ合意即チ仲裁契約ニ依リ當事者ニ於テ自ラ自然義務ヲ認ムルモノニシテ即チ認定ノ一種ノ場合ニ外ナラサルヘシ民法カ特ニ之ヲ認定前ニ於テ自然義務ヲ變シテ法定義務ト爲ス

ノ特例トセルハ其當ヲ失シタルモノト謂フヘシ民法ノ缺點ハ予ハ素リ之ヲ公ケニスルコトヲ好ムモノニアラスト雖初メヨリ終リマテ謬見誤說ヲ以テ充滿セラルヽ以上ハ之ヲ不問ニ附シテ民法ノ眞理ヲ開發セントスルハ到底望ミ得ヘキニアラス予ノ勉ムル所ハ唯讀者ヲシテ民法ノ學理ニ通曉セシメ正面ヨリ裏面ヨリ以テ我民法ノ規定ヲ詳悉セシメントスルニ在リ讀者乞フ之ヲ諒セヨ穴賢々々

民法財産篇 人權之部了

明治二十五年一月十日初版印刷
明治二十五年一月十一日初版出版
明治二十五年九月二日再版印刷
明治二十五年九月六日再版出版

版權所有

著者 江木衷 麹町區飯田町三丁目二十二番地
發行者 江草斧太郎 神田區一ッ橋道町七番地
印刷者 松澤玨三 麹町區下六番町十七番地
發行所 東京市神田區一ッ橋通町七番地三號地 有斐閣書房
發賣所 東京市神田區一ッ橋通町七番地五號地 有斐閣雜誌店

W324.2
E32
1

大賣捌所

東京神田區表神保町	八尾新助	大坂本町四丁目
仝 神田區裏神保町	明法堂	仝 備後町四丁目
仝 日本橋區通三丁目	丸善書店	仝 備後町四丁目
仝 日本橋區通一丁目	大倉孫兵衛	名古屋本町
仝 日本橋區通二丁目	小林新兵衛	熊本新町二丁目
仝 日本橋區本石町	博文館	鹿兒島
仝 日本橋區本材木町	林平次郎	越後長岡
仝 神田區裏神保町	敬業社	信州長野
仝 本鄉區本鄉一丁目	有終閣	武州鴻巢
	岡島眞七	
	梅原龜七	
	吉岡平助	
	川瀨代助	
	長崎次郎	
	吉田幸兵衛	
	目黑十郎	
	西澤喜太郎	
	長島爲一郎	

各地賣捌所

東京	金港堂	南江堂
仝	牧野善兵衛	哲學書院
仝	西屋	中央堂
仝	開新堂	文學社
仝	日進堂	坂上半七
仝	三省堂	中西屋
仝	文明堂	水野慶二郎
仝	斯文館	春陽堂
仝	駸文堂	三木佐助
仝	十字屋	柳原喜兵衛
仝	吉川半七	前川善兵衛
仝	小林喜右衛門	花井卯助
仝	内田芳兵衛	北尾卯二郎
仝	目黑支店	鹿田靜七
仝	岡島支店	淺井吉兵衛
仝	東京堂	前川源七郎

大坂　松村九兵衛
〃　岡島支店
京都　大黒屋書店
〃　田中治兵衛
〃　杉本勘助
〃　村上勘兵衛
〃　出雲寺文次郎
〃　辻本文四郎
名古屋　三輪文次郎
〃　片野東四郎
大和　藤田伊三郎
和泉　鈴木久三郎
加州　池善平
〃　近田八左衛門
〃　松本清七
越前　岡崎左喜助
越中　大橋甚吾

越後　弦巻七十郎
〃　櫻井產作
〃　樋口屋小左衛門
備前　森禎来
備中　西澤六平
備後　三木半兵衛
上總　松田屋
下總　藤屋錠二郎
横須賀　開進堂
〃　武田吉三郎
〃　瀬戸吉衛門支店
紀州　津田源兵衛
高知　開成堂支店
〃　山中專吉
山口　松原喜兵衛
靜岡　廣瀬市藏
甲府　五明堂正八

〃　柳正堂
〃　内藤書店
信州　臼屋甲造
福嶋　齋藤彦太郎
〃　奥村市右衛門
近江　澤宗次郎
丹波　坂井萬吉
福岡　博聞分社
雲州　大蘆利七
豊前　蝶谷進助
豊後　山川正三郎
筑前　林斧助
筑後　赤司平二郎
讃岐　岡田爲助
安藝　松村善助
周防　宮川臣吉
伊豫　向井藏次郎

伊勢　伊東善太郎
〃　豊住謹次郎
岩手　加嶋兼松
岩代　鐺屋左右太
茨城　塚本書房
陸前　高橋藤七
陸奥　池田吉助
〃　野崎九兵衛
羽前　荒井太四郎
羽後　坂谷五郎左衛門
丹波　内藤半七
播磨　山野長平
美作　室多房一郎
熊本　石渡書房
青森　梯崎忠兵衛
〃　宮本甚兵衛
三河　高須又八

武州　杉浦平左衛門
遠州　谷嶋屋源三郎
横濱　丸善支店
仝　里見亭次郎
美濃　三浦源助
磐城　清水甚太郎
神戸　船井政太郎
札幌　前野辰發
若狹　堀口嘉吉
北海道　西澤二郎
仝　津田敎助
因幡　松村榮吉
伯耆　德岡忠次郎
石見　安達幾二郎
但馬　由利安助
佐渡　萬屋長平
秋田　藤田兼吉

常陸　鯨井茂三郎
小田原　米田忠兵衛
伊賀　豊住伊兵衛
栃木　叶屋儀右衛門
神奈川　伊勢屋梅藏
馬關　西尾書店
上野　菊屋源作
下野　糸屋清助
佐野　河内壯助
千葉　多田屋
仙臺　高藤書店
越中　中田書店
松江　川岡清助
京都　便利堂
京都　平井新聞舖
熊本　あはしや新聞舖
博多　積善館支店

法學士江木衷先生著

有斐閣法律書出版抄目錄

法學士江木衷先生著

訂正三版 **日本民法物權講義**　全一冊　正價金壹圓八拾錢　郵稅金拾八錢　紙數八百頁余　皮製金字入美製本

法學士江木衷先生著

訂正再版 **日本民法人權講義**　全一冊　正價金壹圓八拾錢　郵稅金拾八錢　紙數八百頁余　皮製金字入美製本

法學士江木衷先生著

日本民法賣買篇講義　分本全二冊　正價金六拾錢　合本全一冊　正價金七拾錢　郵稅金八錢

世間民法註解ノ書甚タ多シ概スルニ固陋踵訛架空ノ謬說皮想ノ誤見眞理ヲ敝ヒ實用ヲ損スルモノ而已獨リ江木先生ノ民法ヲ講スルヤ英佛獨米等汎ク大家ヲ引援シ古今ヲ參稽シ理論上沿革上及ヒ實用上其幽微ヲ闡キ其蘊奧ヲ推ス先生ガ非凡ノ銳鋒向フ所敵ナシ縱橫上下堂々論下シ人ヲシテ覺エス拍手壯快ヲ呼ハシメサルハナシ實ニ法學世界ノ一大觀ナリ初版並ニ再版ハ數月ヲ出テス既ニ數千部ヲ賣盡シ臨時ノ御注文ハ謝絕仕リ居候所今般全部訂正三版出版致シ候ニ付江湖ノ諸彥乞フ一讀アランコトヲ

法學士江木衷先生著

近世民法汎論

全一冊　正價金六拾錢　郵稅金拾錢

民法解釋ノ書其數少シトセス、然レトモ其ノ詳ナルモノハ粗畧ニ失シ、能ク繁閑詳畧ノ宜ロシキヲ得ル者稀ナリ、況ンヤ此等著書僅カニ字句ノ解釋ニ止マルカ或ハ陳腐ノ舊說ヲ臚列スルニ過キスシテ、能ク英佛獨壩各國ノ法理ヲ咀嚼シ、採長補短以テ最近ノ學說ヲ吐露シ、快刀亂麻ヲ截ルカ如ク明鏡ノ妖魔ヲ照ラスカ如ク、群疑ヲ決シ妍媸ヲ別カチ、浩瀚ニ流レス粗畧ニ失セス、世ノ法海ニ棹サス者ヲシテ航路ノ磁針盤タラシムル者ニ至テハ、絕テ無クシテ纔カニ有リ、江木先生ノ此著乃チ此レナリ、曾テ刑法ノ著書盛ンニ出版セラルヽニ當リ、先生ノ刑法汎論各論ハ卓然時流ニ超絕シ、無數ノ解釋書中ニ在テ第一位ノ明著トシテ聲價一世ヲ壓倒セルハ世人ノ明カニ知ル所ナリ、

法學士判事石尾一郎助先生著

民法代理論

全一冊　正價金八拾五錢　郵稅金八錢

代理ノ法理ハ極メテ深遠ニシテ其應用亦至難ナルカ故ニ之ニ關スル問題ノ代言高等試驗毎常ニ提出サルヽハ夙ニ攻法家ノ知ル所ナリ然ルニ未タ精密ニ斯法ヲ論述シタル書ニ乏シク攻法ノ材料ヲ欠クハ實ニ法學界ノ一大欠點ナリ著者茲ニ見ル所アリ之レヲ補ンカ爲メ我民法ヲ基礎トシテ博ク佛英獨以等ノ法律ヲ參照引用シ適正公明ニ其法理ヲ詳論シ且其精細確實ナル應用ヲ示シタリ世ノ攻法家本論ヲ一讀セハ大ニ得ル所アルヘシ今ヤ已ニ代言及ヒ高等試驗ノ期ニ迫ル受驗者ノ必讀スヘキ良書ナリ

法學博士梅謙次郎先生著

民法債權擔保論

全六冊　一冊正價金五拾五錢　郵稅金四錢

先生カ非凡ノ筆蹟此ニ贅セス

高野卯八君著

證明法原理

全一冊　正價金五拾錢　郵稅金八錢

從來世人ノ證據法ト稱セシ者ト其實体ヲ同フス●證據法ナル名稱ノ不當ナルト其結果ノ弊害トヲ論セリ●世上學者ノ至難トスル事實ノ性質ヲ示セリ●證明ノ義務ノ所在ヲ明定セリ●證明ノ手續即チ證據ノ三種ニ別チ其性質効用ヲ明ニセリ●歐米各國ノ法律ヲ跋涉シ我國ノ實狀實態ヲ鑑ミ辛苦多年漸ク成ルモノ蓄音器的學者ノ次木接竹的著書ト非同一●書中散見ノ時事論ハ目下急務ノ法典問題ヲ決スル最好材料

法律學士寺尾亨先生著

刑事訴訟法講義

全一冊　定價金一圓二十五錢　郵稅金十四錢

ドクトル本多康直　今村信行先生　合著

民事訴訟法講義

全四冊　卷一、二、三、一冊正價金四拾八錢　郵稅金八錢宛　卷四上下一冊正價金貳拾五錢　郵稅金四錢宛

法學士江木衷先生著

現行刑法原論

和綴帙入　最美製本　全三冊　正價金二圓五十錢　郵稅金二十錢

法學士江木衷先生著

訂正四版　現行刑法汎論

學理ニ依リ我國刑法ノ總論ヲ詳述ス

全一冊　正價金壹圓貳拾八錢　郵稅金十錢

法學士江木衷先生著

訂正二版　現行刑法各論

刑法第二編以下ノ各條ニ就キ學術上ヨリ其性質ヲ講述ス

全一冊　正價金壹圓貳拾八錢　郵稅金八錢

法學士江木衷先生著

現行治罪原論

上卷一冊　正價金七拾六錢　郵稅金六錢

法律學士龜山貞義先生著

刑事訴訟法論

全四冊　一冊正價金五拾五錢　郵稅金四錢

法學士宮岡恒次郎先生著

會社法

我國商業日ニ月ニ進歩シ今ヤ將ニ商法ノ發布ヲ見愈々商業ノ繁多ナルニ際シ實用ニ適スル會社法ノ良書アラス先生因テ日本商法ニ基キテ編纂セルモノニシテ實用上欠クヘカラサル良書ナルヿ一目明ナリ乞フ一讀アランコヲ

全一冊　正價金壹圓　郵稅金拾錢

法學士山田、江木、澁谷三先生合著

帝國憲法要義

全一冊　正價金七拾五錢　郵稅金六錢

法學士江木衷先生著

法律解釋學

新法日ニ出テ舊律月ニ改メラレ法律專門家モ專門家ナラサル人モ之カ研究ト理解トノ爲メニ前後應接ニ遑アラサラントス惟フニ限リアル法令ヲ以テ限リナキ世上ノ事物ヲ支配ス法文如何ニ精細ナリトモ豈ニ能ク一見シテ之ヲ理解シ各場合ニ適用シテ過チナキヲ期スルヲ得ンヤ玆ニ於テカ法律解釋學ノ必要生ス此書ハ法律解釋ノ原理

全一冊　正價金四拾錢　郵稅金八錢

ヲ詳論シテ曩キニ世上ノ大喝采ヲ博シ爲メニ洛陽ノ紙價ヲ貴トカラシメタル好著ニシテ法官ト學生トヲ論セス苟クモ法學ニ志アル諸君ハ共ニ一本ヲ坐右ニ備フヘキ寶典ナリ

法學士江木衷先生著

虞氏英國行政法講義

汎論ノ部二冊　一冊正價金四拾錢　郵稅金四錢

故小野梓先生著

國憲汎論

五版　正價金貳圓貳拾錢　全一冊　郵稅金貳拾錢

米國ブビエー原著　法學博士穗積陳重先生序
法學士關直彥先生校閱　日本浦部章三先生著

法律字彙

全一冊　正價金六拾錢　郵稅金六錢

本書ハ米人ジヨンブビエー氏著ス法律字典ヲ飜譯セシモノナリ法律書中難句多クシテ解釋ニ苦シミ其字典ナキヲ恨ミ依テ關直彥中橋德五郎平田讓衛ノ諸氏ニ其意見ヲ示シ一臂ノ力ヲ乞ヒ著者カ此ヲ世ニ公ニスルニ至レリ該書ハ小冊ナリト雖モ最モ多ク譯語ヲ付シ原文ノ字數ニ至リテハ敢テ減スルコトナシ

近刻書目

法學士江木衷先生著

民法原理

法學士江木衷先生著

日本民法擔保篇講義

法學士江木衷先生著

日本民法證據篇講義

法律學士寺尾亨先生
法學博士梅謙次郎先生　著

日本民法論（取得編　物權　人權　證據　人事）

法學士江木衷先生著

日本商法講義

法律學士富谷鉎太郎
法律學士田部芳先生合著
法學士入江鷹之助
米國法律博士

日本商法 會社法、保險法 爲替法、破產法 其他ノ商法 論

法律學士田部芳先生著

裁判所構成法論

法學士江木衷先生著

日本民事訴訟法講義

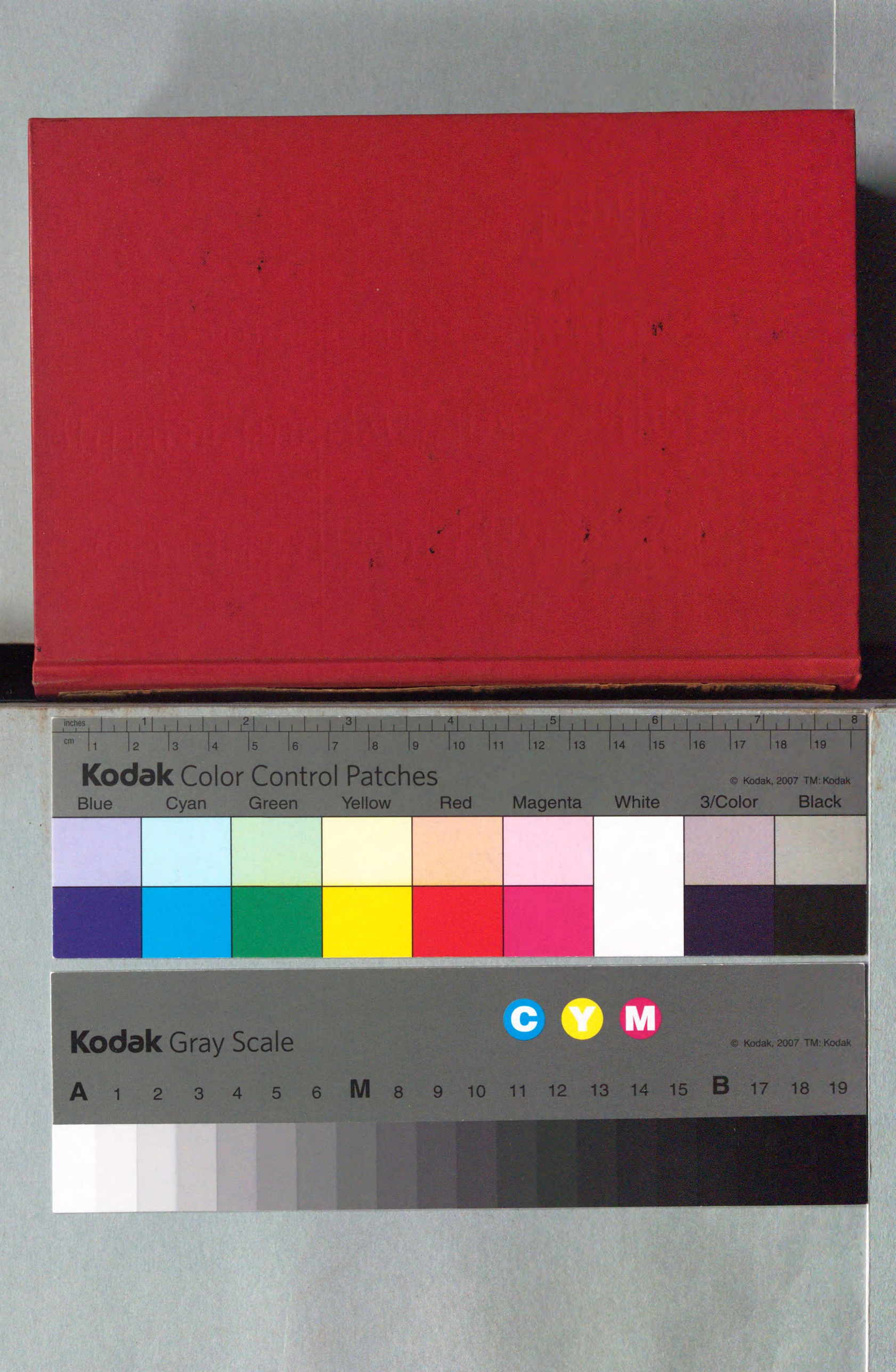
法學士江木衷先生著

日本刑事訴訟法講義

法學博士梅謙次郎先生著

日本法令論

最高裁判所図書館
000125982


Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19